これはもはや「ブラキオザウルス」や「ディプロドクス」系の巨大草食恐竜しかあるまい。さらにおかしな怪獣もこのヨブ記には登場する。「背中が盾の列でできている・・」というのだ。誰が読んでもこれは「ステゴザウルス」ではないか。しかし恐竜の存在が確認されたのは何と 19 世紀になってから。イギリスの「ギデオン・マンデル」という医師による。古代人が恐竜を知るはずはないのだが・・。因みにステゴザウルス<***Stegosaurus***>の「ステゴ」は「捨て子」ではない。ギリシャ語の ***stegos＝στεγος[ステゴス]***は roof、つまり「屋根」の意だ。発掘当初は背中の「盾」がどのようについているのかわからず、横になってソーラーパネルのようについていたのでは・・と考えられていた時代の名残である。恐竜の名前も調べてみると面白いので ***sauros*** にまとめた。see⇒***sauros*** ）

(6)opto - optare - optavi - optatus [オプトー・オプターレ・オプターウィー・オプタートゥス] <羅> = select「選ぶ」 ***optimus / optima / optimum [オプティムス・オプティマ・オプティムム] <羅>*** = good「良い」・また(7)の ***optikos*** もギリシャ語・ラテン語の違いはあれ、意味が似通っているから同じ語源と考えていいだろう。要約すれば「人間、良い物の方に目が行き、それを選ぶ」ということだ。理屈は will = well と同じ。see⇒***vol***

option（「選択」）/ adopt（「採用する・養子にする」・「～の方<ad>を選ぶ」だ。see⇒***ad / aptus*** また adapt「順応する」と区別すること。こちらは「アダプター」で覚えられる。see⇒***ad / aptus*** ）/ optimistic（「楽天的な」・いい考えばかり選ぶ・・という意味だ。）/ optimism（「楽天（楽観）主義」see⇒***ismos*** ）/ optimist（「楽天家」）/ opt（「選ぶ」）/ opinion（「意見」・意見は自分で選ぶもの。）

(7)optikos ＝οπτικος [***オプティコス***]***<希>*** = visual「視覚的な」

optical（「視覚的な」）/ optician（「めがね屋」）/ optics（「光学」）

(8)opus - operis [オプス・オペリス]<羅> = work「作品」・effort「努力」・ ***operor - operari - operatus sum [オペロール・オペラーリー・オペラートゥス スム]<羅>*** = work「働く」・もともとは「努力」していろいろな物を作り出すこと。

opera（「オペラ」）/ operation（「操作」・また「軍事作戦」の意味もある。東日本大震災のときにアメリカが日本に援助の手をさしのべた「オペレーション・トモダチ」は有名だ。また PKO は United nations Peace Keeping Operations「国連平和維持活動」だ。）/ operate（「操作する」）/ operator（「オペレーター」）/ cooperate（「協力する」）/ cooperation（「協力」[コウオペレイション] see⇒***cum*** また corporation「会社・法人」[コーポレイション]と混同しないこと。see⇒***mens*** ）/ cooperative（「協力的な」）/ office（「事務所・会社・役所・官庁・公職・職務」・of = ***opus*** / fice = ***facio***・「成された仕事」の意。see⇒***facio*** また「～局」や「～庁」、「官職」などの意味も忘れないこと。Immigration Office なら「移民局」see⇒***migro / in①***、Foreign Office なら「外務省」、Patent Office[パテントゥ/ ペイテントゥ]なら「特許庁」となる。see⇒***pes***「アインシュタイン」がスイス特許庁に勤務していたことは有名だが、筆者はこのときこの単語を覚えた。さらに out of office とくれば「政権を担当していない」という意味にもなる。）/ official（「公式の・正式の」[オフィシャル]・[オフィシャル]と読む学生が後を絶たない。注意すること！）/ maneuver（「策略」[マニューヴァー]・manus「手で」 +operari「作業する」だそうな。ちょっと ***operari*** が原型をとどめていない気もするが、「オペル」⇒「エウペル」⇒「エウベル」であれば、何とか納得できる。see⇒***manus*** ）

(9)ordo - ordinis [オールドー・オールディニス] <羅> = order「秩序・命令」・「秩序」を守るには「命令」が不可欠だ。また arma のところでも書いたが、この ***ordo*** は ***arma*** とも同根だ。see⇒***arma***

order（「命令・秩序・順番」・命令は秩序だっていないと混乱する。また秩序は序列が大切だ。see⇒***arma*** ）/ subordinate（「下位の」・sub=under / see⇒***sub*** ）/ coordinate（「調整する」・「コーデイネーター」の「コーデイネート」だ。「一緒に<co>調整する」の意。 see⇒***cum*** ）/ ordinary（「普通の」・秩序を守った。see⇒***arma*** ）/ extraordinary（「途方もない」・秩序の外に<extra>だ。see⇒***arma / ex*** ）/ in order to do（「do するために」・「不定詞・副詞的用法・目的」で学習するあまりにも有名な熟語。「目的」を達成するために、適切な「準備（秩序）」を整える・・ほどの意だ。）/ ornament（「装飾」・装飾には秩序が必要。出鱈目に並べたら美しくならない。）/ adorn（「飾る」「～に向けて<ad>飾る」の意。see⇒***ad*** ）

(10)orior - oriri - ortus sum [オリオール・オリーリー・オルトゥス スム]<羅> = rise「上る」・to be born「生まれる」・メイジャーリーグの「オリオールズ」は無関係のようだ。

「オリエント文明（古代エジプト・メソポタミア文明）」は「日の昇る場所・東方」という意味から名付けられたものだ。これらの土地はヨーロッパから見て「東」にあたり、「日が昇る方向」だからだ。同時に「先進文明の花開く場所」というイメージもあった。the Orient で「東洋」see⇒***cado***。反対語は the Occident「西洋」だ。see⇒***cado / ob*** 形容詞はそれぞれ Oriental see⇒***cado*** / Occidental see⇒***cado*** となる。）/ orient（「（～を）志向する・目指す」・「日の上る方向を目指す」からこの意味が生まれた。- oriented などという複合形で、「～志向の・・」と使われる。youth-oriented「若者向けの」/ child-oriented「子供向けの」/ health-oriented「健康志向の」などだ。さらに「方向づける」・「正しい位置に置く」と言う意味もある。/ orientation（学年の始めに行う「オリエンテーション（方向付け）」。「学校はこれから 1 年、こういう方向に向かっていきますよ・・」という紹介だ。地図とコンパスを頼りに山を歩く「オリエンテーリング<orienteering>」も同語源だ。）/ disoriented（「方向がわからなくなった」see⇒***dis*** ）/ origin（「起源」・「上って<ori>くる、その源<gin = gen>」との意だ。see⇒***genus*** ）/ original（「独創的な」see⇒***genus*** ）/ originate（「始まる」・originate in / from ～で「～から始まる」となる。see⇒***genus*** ）/ aboriginal（「土着の・原生の」・「～から離れ<ab>て上って<ori>きた、その源<gin = gen>」だ。see⇒***ab / genus*** ） / abort（「中止する・中絶する」・or = ***orior*** で「生まれなくする」が原義。ab はギリシャ語起源の「反対語<a>」ではなく、ラテン語起源の ab「離れて」のようだ。see⇒***ab*** ）

(11)oro - orare - oravi - oratus [オーロー・オラーレ・オラーウィー・オラートゥス] <羅> = pray「祈る」/ speak to～「～に話しかける」/ ask for ～/ beg for ～「～を乞い願う・求める」

adore（「崇拝する」・～に対して<ad>お願いをする。see⇒***ad*** ）/ oracle（「神託」・神殿で告げられる「神様からのお告げ」だ。古代ギリ

シャなどではこれを欠かさなかった。無論実際の神の声が聞こえるわけではない。「巫女（みこ）」が仲介に入り、そのロを借りて神が語るのだ。早い話が「恐山」の「イタコ」状態である。）/ oral（「口の」一方 aural は「耳の」。両方とも発音は[オーラル]だが、混乱を避けるために後者は[アウラル]と発音することもある。）/ orator（「演説者」）/ oratory（「雄弁」）

(12) orthos ＝ο ρ θ ος[オルソス]<希>= right「正しい」

orthodox（「正統派の」[オーソドクス]・dox は δ ο ξ α [ドクサ]で「教説」だ。see⇒***para / doceo*** 反対語が paradox[パラドクス]「逆説」で、これは para の項で述べた。see⇒***para / doceo*** ）/ orthopedics（「整形外科」・pedics は ***paidion*** ＝π α ι δ ι ο ν [パイディオン]で「子供」の意。この単語がもともとは「子供の整形」を意味していた名残だ。***paideuo*** [パイデウオー]「教育する」でギリシャ語学習者は動詞の活用を学ぶことは既に述べたが、それと同根の単語だ。see⇒***pes*** また化学でも「オルソ」・「メタ」・「パラ」などが「ベンゼン環（六角形をしている）」の「置換」のところで登場する。隣り合えば「オルソ<***ortho***>」、一つ間に入れば「メタ<***meta***>」、反対側につけば「パラ<***para***>」だ。）/ orthography（「正書法」see⇒***grapho*** ）/ orthodontics（「歯科矯正」see⇒***dens*** ）

(13) -osus [オスス]<羅>= full「いっぱい・たくさん」・delicious などの接尾辞-ous になった。形容詞を形作る。

a) ambiguous（「両義的な・どちらとも解釈できる」see⇒***ambi / ago*** ）/ ambitious（「野心のある」see⇒***ambi*** ）/ amphibious（「両生類の」see⇒***ambi / bios*** ）/ analogous（「似ている・類似の」see⇒***logos*** ）

c) conscious（「意識している」see⇒***scio / cum*** ）/ conscientious（「良心的な」see⇒***scio*** ）/ courageous（「勇気のある」see⇒***cor*** ）/ courteous（「礼儀正しい」see⇒***hortus*** ）/ conspicuous（「人目につく」see⇒***cum / specio*** ）/ contemptuous（「軽蔑的な」see⇒***tendo*** ）/ curious（「好奇心旺盛な」see⇒***curo*** ）

d-e-f-g) delicious（「おいしい」see⇒***lacio*** ）/ disastrous（「大災害の」see⇒***astron*** ）/ envious（「嫉妬深い」see⇒***video*** ）/ fallacious（「虚偽の・誤った・当てにならない」see⇒***fallo*** ）/ fabulous（「信じられない」see⇒***fabula*** ）/ famous（「有名な」see⇒***fabula*** ）/ generous（「寛大な」see⇒***genus*** ）/ glorious（「栄光ある」see⇒***gloria*** ）

h-i-j-l) harmonious（「調和のある」see⇒***arma*** ）/ homogeneous（「均質な」see⇒***genus / homoios*** ）/ humorous（「ユーモアのある」see⇒***humus*** ）/ industrious（「勤勉な」see⇒***struo*** ）/ infectious（「感染性の」see⇒***facio*** ）/ infamous（「悪名高い」see⇒***in② / fabula*** ）/ ingenious（「発明の才のある」see⇒***in① / genus*** ）/ indigenous（「その土地の・（その土地）原産の」see⇒***genus / in①*** ）/ jealous（「羨ましい」see⇒***zelos / video*** ）/ judicious（「判断力の確かな」see⇒***jus*** ）/ luminous（「光輝くような」see⇒***lux*** ）/ laborious（「骨の折れる・大変な」see⇒***labor*** ）

m-n-o) miraculous（「奇跡的な」see⇒***miror*** ）/ monotonous（「単調な」see⇒***monos / tono*** ）/ mischievous（「いたずらな」see⇒***capio*** ）/ malicious（「悪意ある」see⇒***malus*** ）/ marvelous（「驚くべき」・see⇒***miror*** ）/ notorious（「悪名高い」see⇒***noto*** ）/ numerous（「たくさんの」see⇒***nomos*** ）/ nutritious（「栄養のある」see⇒***nutrio*** ）/ obvious（「明瞭な」see⇒***ob / via*** ）

p-r-s) precious（「貴重な」see⇒***prehendo*** ）/ pluvious（「雨が多い」see⇒***fluo*** ）/ posthumous（「死後の」see⇒***humus / post*** ）/ previous（「前の・以前の」see⇒***pre / via*** ）/ rebellious（「反抗的な」see⇒***bellum*** ）/ religious（「宗教上の・敬虔（けいけん）な・信心深い」see⇒***longus*** ）/ righteous（「正しい・高潔な」see⇒***rex*** ）/ superstitious（「迷信の・迷信深い」see⇒***sto*** ）/ superfluous（「余分な・有り余った」see⇒***superus / fluo*** ）/ simultaneous（「同時の」see⇒***sim / tempus*** ）/ spontaneous（「自発的な・自然の」see⇒***spondeo*** ）/ spacious（「ゆったりした」see⇒***vaco*** ）

u-v-z) unanimous（「満場一致の」see⇒***unus / anima*** ）/ vigorous（「元気な」see⇒***vigeo*** ）/ virtuous（「純粋・高潔な」see⇒***vir*** ）/ zealous（「熱心な・熱狂的な」see⇒***zelos*** ）

P

(1) paleos ＝ π α λ ε ο ς [パレオス]<希>= old「古い」

paleolithic（「旧石器時代の」see⇒***lithos*** また neolithic「新石器時代の」see⇒***nova*** や mesolithic「中石器時代の」も確認。see⇒***lithos / philos*** ）

(2) pan - panis [パン・パニス] <羅>= bread「パン」・pater「父」とも同根語だ。see⇒***pater***

company（「仲間・会社・同伴」・一緒に<com>釜の飯<pan>を食った「仲間」が作ったから「会社」だ。したがってあくまで「人の集まり」であり「組織」を指す。会社の「建物」は office だ。会社の大きさの違いではない。see⇒***cum*** ）/ accompany（「同伴する」see⇒***ad*** ）/ companion（「仲間・友人」・お酒をついでくれる綺麗なお姉ちゃんもコンパニオンだが、それで覚えていてもあまり意味はない。）

(3) par - paris [パル・パリス] <羅>= part「部分」・また ***partio - partire*** [パルティオー・パルティーレ]<羅> で share「共有する」となる。それぞれの「部分」をいただくわけだ。また「部分」から「バラバラになる・分かれる」とうい動詞も生まれた。par だけでなく por もある。

partial（「不公平な」・一部だけ「えこ贔屓（ひいき）」することだ。）/ impartial（「公平な」・えこ贔屓がない<im=in>。see⇒***in②*** ）/ impartiality（「公平」）/ part（「分かれる」・part with 物で「物を手放す」。part from 人で「人と別れる」となる。）/ apart（「離れて」・see⇒***ad*** ）/ apartment（「アパート」・細かい部屋に分かれてる。）/ compartment（「区画・客室」・完全に<com>部屋は別々。 see⇒***cum*** ）/ depart（「出発する」・de は「分離」。see⇒***de*** ）/ departure（「出発」・空港の発着時間の表示版でよく見かける単語だ。）/ parcel（「小包」・もとは「小さい部分」の意。）/ particle（「かけら」see⇒***culum*** ）/ particular（「ある特定の」・「ある部分にだけ見られる小さい<cular>もの」が原義。see⇒***culum*** ）

/ particularly（「とりわけ・特に」）/ partner（「パートナー」・いわゆる分身だ。）/ partition（「区画」）/ participle（「分詞」・「現在分詞」・「過去分詞」というときの「分詞」だ。英文法でお世話になりっぱなしのはず。「分担<part>して役割を受け持つ<cip = ***capio***>」が原義。何の役割かといえば「動詞」と「形容詞」の・・だ。see⇒***capio*** ）/ participate（「参加する」・-cipate は participle と同じだ see⇒***capio*** ）/ participation（「参加」）/ participant（「参加者」 see⇒***-ans*** ）/ partake（「参加する」）/ proportion（「比率・割合」・port = part ）/ portion（「一部・分け前」）

(4)para = π α ρ α [パラ] <希> ①「並んで・傍らに<by the side of ->」②「～から外れて<beyond>」③「～に反して<against>」などがある。①と③では真逆のような気もするが、ギリシャ語の前置詞ではこういった現象がしばしば見られる。確かに「近く①」にいるから「ケンカ③」になる。compare「比較する①」⇒ comparable「匹敵する③」が好例だ。「敵」の字がもろに見える。②は「並んでいるから似ているけど、よく見るとちょっとズレてる」的な感じだ。またラテン語の ***paro - parare*** [パロー・パラーレ]「準備する」も同根の単語だ。「予め 2 つ揃える」といったイメージでいいだろう。par は pair / pir / por / per にも変化する。

com-em-imp) compare（「比較する」・2 つを一緒に<com>並べて比べること。see⇒***cum*** ）/ comparative（「比較の」）/ comparable（「比肩しうる・匹敵する」・comparative と comparable の意味の違い、およびアクセントはしっかり覚えておくこと。）/ comparison（「比較」）/ emperor（「皇帝」・「インペラトール（軍の最高指揮官）」に由来。凱旋パレード<parade>を行うことのできる者を指した。）/ empire（「帝国」）/ impair（「損なう」im は反対語。repair の反対。see⇒***in②*** ）/ impairment（「損傷」）/ imperial（「帝国の」）/ imperialism（「帝国主義」see⇒***ismos*** ）

par) parliament（「議会」・parlor からさらに「話す場所」⇒「議論の場」となった。see⇒***gradus*** ）/ parent（「両親」・2 人そろって「両親」だ。see⇒***-ans*** ）/ parlor（「客間」・フルーツ・パーラーのパーラーだ。***para*** とは直接関係はないが、parable「寓話」から派生して「お客と話す場所」の意味を持つようになった。）/ parody（「パロディー」・「横にずれた歌」が直訳。何かをまねているのだが、ちょっとズレてるのでみんな笑うのだ。para + oide。 oide については tragedy 参照のこと。see⇒***pas*** ）

para) parable（「寓話・譬え話」see⇒***ballo*** ）/ parabola（「放物線」・「パラボラ・アンテナ」の「パラボラ」だ。由来については see⇒***ballo*** ）/ parachute（「パラシュート」・chute = ***cado*** 「落ちる」だから「落ちることに反対する<para③>もの」の意。「落下に対して準備<prepare>する」という解釈でもいいとも思うが・・。see⇒***cado*** ）/ parade（「パレード」・準備して行進するもの。）/ paradox（「逆説」・dox は ***doxa*** = δ ο ξ α [ドクサ]で「教説」。正統派の説ではインパクトがないので、わざとこれに反対<para③>する説を出すことで注目を集めるのだが、しかし間違っているようでよく考えてみると正しい・・というような説だ。「逆説」とはよくぞ訳したものだ。一方正統派の説は orthodox[オーソドックス]と言う。***orthos*** = ο ρ θ ο ς[オルソス]「正しい」 see⇒***orthos / doceo*** ）/ paradoxical（「逆説的な」・「井沢元彦」氏の「逆説の日本史」などという本もある。筆者の愛読書だ。日本史で受験する方は読んでみてほしい。）/ paragraph（「段落」・「横に書く<graph>」が原義。古代ギリシャでは段落の切れ目に横棒を書き入れたことに由来すると言われる。筆者の読んでいるギリシャ語の聖書には、残念ながらそのような形跡は発見できていないが・・see⇒***grapho*** ）/ parallel（「平行の」・para + allos ***allos*** = α λ λ ο ς = other「他の」だから、「相手と並んで・・」の意。see⇒***alius*** ）/ paralyse （「麻痺させる」・lyse=***lyo*** = λ υ ω [リュオー] = loosen「緩める」。2 つの（完全な）ものを緩めてバラバラにすること。ギリシャ語辞典によると、この ***lyo*** は destroy「破壊する」の意味もあるようだ。see⇒***laxo*** ）/ parameter（「パラメーター・媒介変数」・例えば「原点を中心とする半径 r の円」を考える。するとこの円周上の点の座標（x, y）は（x=rcos θ ,y=rsin θ ）で表せる。このときの θ を「媒介変数」と呼ぶ。x と y の直接の関係を示す式はなく、変数 θ が x と y という 2 つの変数の、「仲介役」をしているからだ。see⇒***mens*** ）/ paranoia（「偏執狂・パラノイア」・noia = nus = ν ο υ ς[ヌース]「心・分別・知性」だから「理性から外れている<para②>こと」。「誇大妄想（俺はやがて世界の支配者になる！）」や「被害妄想（みんなが私を殺そうとしている！）」などといった症状だ。）/ paraphrase（「言い換え・言い換える」・「並べて別の表現をする」こと。phrase「句」とは、単語の集まりでしかも一つの意味をもったものだ。「副詞句」とか「名詞句」といった「句」だ。しかし S+V の関係はこの「句」にはない。S+V の関係があればそれは clause「節」と呼ぶ。「時・条件の副詞節」などという「節」だ。早い話が「文」のこと。ただし S + V because S + V. というときは「文」は 1 つ（一文）だが「節」は 2 つという勘定になる。see⇒***claudo*** ）/ parasite（「寄生虫」 ***sitos*** = σ ι τ ο ς[スィトス] = food だから、「並んで食べる」の意。確かに「居候（いそうろう）」は図々しい。）/ parasol（「パラソル」・「太陽<sol>に反対<para>するもの」の意。一説には「太陽への準備」の意味だとも・・。see⇒***sol*** ）

その他) apparatus（「装置」・「～に向けて<ap=ad>準備するもの」の意。 see⇒***ad*** ）/ prepare（「準備する」・前<pre>もって 2 つ揃える・・の意。see⇒***pre*** ）/ preparation（「準備」）/ repair（「修理する」・再び<re>2 つが揃うこと。see⇒***re / menda*** ）/ separate（「分かれる」・se は「分離」。「2 つあったものを分離する」の意。see⇒***seco*** ）/ disparity（「差異・不均衡」・「2 つのものが等しくない<dis>」が原義。see⇒***dis*** ）/ peer（「同僚」・2 人の関係は平等だ。）/ pair（「一対」・「2 つ」で一つ。）/ paradigm（「パラダイム」・話が長くなってしまったので、この単語だけは最後にもってきた。「パラダイム」とは「その時代には当たり前だとされていた概念」だ。たとえば「ガリレオ・ガリレイ」の時代には、「天動説」が「パラダイム」であった。それに挑戦したガリレオは、あやうく火あぶりにされかけたのだ。「パラダイム・シフト」となれば「それまでの考え方が根本から覆されること」となる。ついでだからシフト<shift>という単語も説明しておこう。「移す・変える」という意味だ。昔、プロ野球で「王シフト」というのがあった。「世界のホームラン王・王貞治」の「王」である。左打ちの王選手の打球は、そのほとんどがライト方向に引っ張る打球だったことを突き止めた広島カープの監督が、「ならライト方向に守備陣を集中させればいい」と考えたのだ。これを「王シフト」と呼んだ。「それならレフト方向に流し打ちすればいいじゃないか！」と考えるのは凡人だ。王選手は「ホームランをスタンドに叩き込めば、シフトなんて関係ない！」と、一層闘志を燃やしたと言われる。偉大な選手は発想からして違うのだ。話をもどそう。「パ

ラダイム」の「ダイム<-digm>」はギリシャ語の ***deiknymi*** = δ ε ι κ ν υ μ ι [デイクニューミー]「見せる<show>」に由来する。「横に置いて見せる物」だ。つまりは「お手本・模範」である。それにしてもへんてこな発音だと思われるだろう。筆者も最初は面食らった。古代ギリシャ語には～μ ι [ミー]で終わる「ミー動詞」と～ω [オー]で終わる「オー動詞」の 2 種類があるのだ。例えば**λ ε γ ω [レゴー]**「言う」などは「オー動詞」である。流石に「ミー動詞」は敬遠されたか、聖書の時代にすでに退潮の兆しが見られる。とにかく活用が「へんてこ」なのだ。）

(5) pas - pan = π α ς - π α ν [パース・パーン]<希> = all「すべて」・ラテン語の[***パン***]は bread の意味だが、ギリシャ語の[***パーン***]は「全ての」の意味だ。「パン・アメリカン航空」とか「パン・パシフィック」see⇒***pax***、「パナソニック」see⇒***sono*** だのというときの「パン」である。漢字では「汎（はん）」の文字が当てられている。音が似ているのは偶然ではない。中国語は英語と親戚なのだ。「汎神論」とくれば「すべての物に神が宿る」という考えだ。

pandemic（「世界的流行」see⇒***epi / demos***）/ Pan-American（「全米の」）/ panorama（「パノラマ・全景」・***horama*** = ο ρ α μ α は「光景」の意。）/ panacea（「万能薬」[パナシーア]・acea = ***akos*** = α κ ο ς は「治療」の意。）/ pancreas（「膵臓」see⇒***insula***）/ pantheism（「汎神論」[パンティイズム] see⇒***theos / ismos***）/ pantheon（「パンテオン・万神殿」[パンティオン] see⇒***theos***）/ Pangea（「パンゲア」・Pangaea とも書く。「超大陸パンゲア」というのがある。世界中のすべての陸地が、かつては一つの巨大な大陸だった・・という説だ。やがて何億年もかかってバラバラになり、現在の位置に落ち着いた。南北アメリカとアフリカ・ヨーロッパの海岸線がきれいに一致することに疑問を抱いた「アルフレッド・ウェーゲナー」という科学者が提唱したのが「大陸移動説」だ。中 1 のころ世界地図を見ていて筆者も「アレ？」と思ったが・・。無論当時は嘲笑をもって迎えられた。プレートに乗って大陸が移動するなど思いもよらなかったからだ。see⇒***ge***）/ panic（「パニック（恐慌）・パニックを起こさせる」・ギリシャ神話の「パン」という神に由来する単語。結構有名な話だからご存知の方も多かろう。***Π α ν*** と書き、正確には発音は[パーン]だ。「牧神」で、動物が突然何かにおびえて走り出すのが、この「パンの神」の仕業だとされた。上半身が人間で下半身がヤギ。ヤギはどんなところにも行けるので、ギリシャ語の ***pan*** = π α ν が all「すべて」の意味を持つことになったとも言われる。「サテュロス」という精霊とも同一視される。）/ tragedy（「悲劇」・***tragos*** = τ ρ α γ ο ς [***トゥラゴス***]<希>は goat「ヤギ」で eid = oide は「歌」。つまり「ヤギの歌」だ。oide については parody を参照にして欲しい。see⇒***para*** ただしここで言う「ヤギ」とは半神半獣の精霊 ***Satyros*** = ***Σ α τ υ ρ ο ς [サテュロス]***のこと。上半身が人間で下半身がヤギとされる。また頭には角もはえている。ちょっと・・というよりかなりグロテスクだ。このサテュロスをテーマにさまざまなギリシャの「悲劇」が演じられたことから、「ヤギ（サテュロス）の歌」が「悲劇」を表すこととなった。）/ tragic（「悲劇的な」）

(6) pater - patris [パテル・パトゥリス] <羅> = father・また食べ物の ***pan*** 「パン」も同根の単語。see⇒***pan***「食べ物を与えてくれるのは父ちゃん」という理屈だ。pan は pas にも、また pa はグリムの法則に従って fa / fe/ fo にも姿を変え、food「食べ物」/ feed「食べ物を与える」になった。

patriotism（「愛国心」・「母国」と日本語では言うが、古代ローマでは「父国」だ。see⇒***ismos*** ただ「母国語」はあちらでも mother tongue というからややこしい。 see⇒***longus***）/ patriot（「愛国者」・最近では「パトリオット」などと、ミサイルの名前にもなっている。）/ patriotic（「愛国的な」）/ patron（「後援者・パトロン」・金を出してくれるおじさんのこと。「パパ、マンション買って！」と言うときの「パパ」だ。）/ pattern（「お手本」・「父親が示す」からだ。アクセントに注意！）/ pan（「パン」を食べさせてくれるのは「父ちゃん」だ。）/ Pope（「ローマ教皇」・教会の「父」。その他、教会には mother もいる。最も有名なのは Mother Teresa「マザー・テレサ」だろう。またミッション系の学校に通われた生徒諸君は Sister○○に英語を教わったはずだ。「空飛ぶ教皇<Flying Pope>」と異名を取った第 264 代ローマ教皇「ヨハネ・パウロ 2 世」は Pope John Paul[ポープ・ジョン・ポール]だ。）/ 因みに brother は ***frater*** [***フラテル***]と言い、f が b に音韻変化して brother が生まれた。巻頭で述べた音韻変化「グリムの法則」だ。/ paternal（「父親の」・「母親の」は maternal[マターナル]だ。see⇒***mater***）/ pastor（「牧師」・父のように信者を導くから。ラテン語では「羊飼い」の意味がある。羊を牧草（食べ物）のある場所まで導く者だからだ。***pan - panis*** 「パン」とも語源が重なるので ***pan*** に分類しようかとも思ったが、こちらに入れた。）/ pastoral（「牧畜の・田舎の・牧師」・また「ベートーベン」の交響曲第 6 番「田園」もこの Pastoral だ。）/ pasture（「牧草地」）

最後に一つ。***pater*** で思いだした。ギリシャ人の名前にはすべて意味があるのだ。かのエジプト最後の女王「クレオパトラ<Cleopatra>」は、***cleos*** = κ λ ε ο ς = great / ***patra*** = π α τ ρ α = ***pater***（ギリシャ語の発音は[パテール]）で「偉大なるお父さん」という意味だ。また「アレクサンドロス大王（アレクサンドロス 3 世）<Alexandros>」は ***alexo*** = α λ ε χ ω = guard / ***andros*** = α ν δ ρ ο ς = man / see⇒***aner*** だから、さしずめ「ザ・ガードマン（ちょっと古いか？）」とでもなろうか。また「守る人」ではなく「人を守る（守護神）」という意味だとの解釈もある。何とも名前とは奇妙なものだ。　無論日本人の名前にも、それぞれに親の込めた意味はあるが・・。

(7) pathos = π α θ ο ς [***パトス***]<希> = emotion / suffer「苦しみの感情」また ***patior - pati - passus sum*** [***パティオール・パティー・パッスス スム***]<羅>で「苦しむ」となる。

a) antipathy（「反感」・anti「反」で反対語になっている see⇒***anti***）/ apathy（「無感動・無関心」・a はギリシャ語で反対語を表す。「感情」が無ければ「無関心」となる。see⇒***a*** indifference「無関心」と同じ理屈だ。see⇒***fero / in②***）

c-i) compassion（「同情」・「感情を同じく<com>すること」だ。see⇒***cum***）/ compatible（「互換性がある」・コンピューター用語で有名になった。タイプが異なればコンピューターではデーターが読み取れない。「感情を同じくする」から来た。see⇒***cum***）/ impatient（「短気な」im で反対語。see⇒***in②***）/ impatience（「短気」see⇒***ans***）/ impassive（「無感情・無感覚の」see⇒***in②***）

p-s-t) patience（「忍耐」・感情を押し殺すことだ。）/ patient（「忍耐強い・患者」・病気をすると患者は我慢強くなる。see⇒***-ans***）/ passion

（「情熱」）/ passionate（「情熱的な」[パッショニットゥ]・「パッション<Passion>」という、これまた「イエス・キリスト」を題材にした映画もあった。正確には The Passion of the Christ「キリストの受難」である。passion は確かに「情熱」だが、大文字だと「（イエス・キリストの）受難」という意味になる。監督は「ブレイブ・ハート」で主演を務めた名優「メル・ギブソン」だ。別にイエスは「情熱」に駆られて十字架に架かったわけではない。クリスチャンの中にも誤解している方がおられるようだ。）/ pathetic（「哀れな」）/ passive（「受動態」・「受け身」になることは「苦しむ」こと。）/ pathology（「病理学」see⇒***logos*** ）/ sympathy（「同情」・「同じ<***sim***= same>感情を持つ」ことだ。see⇒***sim*** ）/ sympathetic（「同情的な」）/ sympathize（「同情する」see⇒***ismos*** ）/ telepathy（「テレパシー」see⇒***tele*** ）

(8) pax - pacis [パクス・パキス]<羅> = peace「平和」・***pac*** はもともと「しっかり結びつける」・「踏み固める」という意味だ。「平和とは踏み固めるもの」という考え方である。「雨降って地固まる」と日本語にもある。pac / paec / pec / peac / pea / pag などにも変化する。

pa) pack（「包む・詰め込む・包み」）/ package（「包み・郵便小包」）/ pay（「支払う」・円満な金の貸し借りが人間関係の基本。借金を踏み倒すのはよくない。）/ ***Pax Romana***（[***パクス・ローマーナ***]・「ローマ帝国による平和」は世界史で習ったはず。またかつては ***Pax Britanica*** [***パクス・ブリタニカ***（大英帝国のよる平和）]があったし現在は ***Pax Americana*** [***パクス・アメリカーナ***]の時代だといえる。また ***Pax Sovietica*** [***パクス・ソビエティカ***]が「ベルリンの壁」とともに崩壊<1989>したのは記憶に新しい。***Pax Japonica*** [***パクス・ジャポニカ***]は果たしてくるのだろうか？）/ pagan（「異教徒」・「しっかり結びついた物」⇒「（行政組織としての）村」⇒「異教を崇拝する遅れた地域」⇒「異教徒」となった。）/ page（「ページ」・糸でしっかり結びつけられたもの・・が原義。）/ pageant（「野外劇」・所謂「ページェント」だが、読み方は[ペジェント]。「本の 1 ページを連想させる」ところから来たと言われる。）

pe) peace（「平和」）/ peasant（「小作人・農民」[ペザント]・「土地を踏み固める人」が原義。）

pr) propaganda（「宣伝・プロパガンダ」・思想的・政治的な「宣伝」を言う。「そんなのは共産主義のプロパガンダだ！」などと使う。地面にしっかり根を張って、民衆レベルで思想を蔓延させる・・が原義。何でもかんでも政治家の揚げ足取りをする輩がいるが、ああいった行為を「プロパガンダ」と言うのだ。SNS の普及で、もう若者たちは騙されなくなっているだろうが・・。see⇒***pro*** ）/ propagate（「（動植物を）繁殖させる」）

その他) appease（「なだめる」・相手をなだめて平和な方向へ<ad>・・。see⇒***ad*** ）/ compact（「契約・小型の」・固めればコンパクトになる。また「契約」は若干語源が異なるという説もあるが、「契約は徹底的に<com>固めるもの」で暗記する分には十分だ。see⇒***cum*** ）/ impact（「衝撃」・固めたものでガツンと一撃・・だ。「ディープ・インパクト」などという映画もあった。im = en で動詞化された。筆者はてっきり「～の上に・・」の in(= on)かと思ったが・・。いずれにしてもルーツは一つだが・・。see⇒***en*** ）

(9) pello - pellere - pepuri - pulsus [ペッロー・ペッレレ・ペプリー・プルスス] <羅>= push「押す」/ drive「駆り立てる」/ thrust「ぐいと押すこと」

compel（「強制する」com は「強調」see⇒***cum*** ）/ compulsory（「強制の」・compulsory education で「義務教育」となる。）/ expel（「（国などから）追い出す<ex>」see⇒***ex*** ）/ propel（「推進する」）/ propeller（「プロペラ・推進器」・文字通り「前に<pro>押す」だ。see⇒***pro*** ）/ propulsion（「推進（力）」）/ JPL（「ジェット推進研究所<Jet Propulsion Laboratory>」・アメリカの研究所。宇宙開発といえば NASA「アメリカ航空宇宙局」が有名だが、実際の仕事はほとんどこの JPL がやっているとされる。NASA とは仲が悪く、NASA が隠蔽している月面上の「不都合な写真」をリーク<leak>（漏らす・暴露する）したり、反骨精神旺盛な組織だ。アポロが撮った月面の写真の 99%が非公開とされていることは、ちょっと詳しい人間なら誰でも知っている。「かぐや」の映像もほとんど公開されてはおらず問題になっているらしい。投入されたのは我々の「税金」だからだ。）/ repel（「追い払う・追い返す<re>」see⇒***re*** ）/ impulse（「衝動」・「内部<in>から押し出してくるもの」が原義。see⇒***in①*** ）/ impulsive（「衝動的な」）/ pulse（「脈・パルス」・押すと押し返される。）/ appeal（「訴える」・～に対して<ap = ad>訴えを起こす（圧力をかける）こと。see⇒***ad*** ）

(10) pendeo - pendere - pendi - pendus [ペンデオー・ペンデレ・ペンディー・ペンドゥス] <羅>「ぶらさがる・ぶらさげる」から「重さを量る」「重い」の意味もある。・昔は貨幣・紙幣は存在せず、ましてや造幣局など影も形もない。金・銀をそのたびごとに計量して支払いの手段としていた。ここから「計量」⇒「金銭」の意味が生まれた。pend は pond にも変化した。このように母音が変わることを「アプラウト」と呼ぶ。sing - sang - sung と同じ理屈だ。

a) appendix（「付録・盲腸」・お腹にぶらさがっている。ap = ad / see⇒***ad*** ）

c) compensate（「埋め合わせをする」・みんな<com>が同じ重さ（金額）になるようにすること。つまりバランスをとることだ。see⇒***cum*** ）/ compensation（「埋め合わせ・補償・賠償」・「スーパー・コンペンセイション」という言葉がある。日本語にすると「超回復」だ。筋トレをすると筋繊維がズタズタに破壊される。しかしプロテイン補給や睡眠、成長ホルモンの分泌などでやがてその筋繊維は修復され、さらにパワーアップした筋肉が作り出されるのだ。これをボディー・ビル界では「超回復」と呼んでいる。毎日筋トレするなど愚の骨頂。休息も大切なトレーニングなのだ。筆者は筋トレには必ず中に 2 日を置く。）/ cash dispenser（「現金自動支払機」・測<pend>って分配<dis>することだ。）

d-e-i) depend（de「下方に」にぶらさがるから「頼る」だ。see⇒***de*** ）/ dependent（「依存している」see⇒***-ans*** ）/ dependence（「依存」）/ dispensable（「なしで済ませられる・なくてもいい」・「分配することができる<able>物」は「なくてもいい物」だ。重要な物だったら決して渡さない。see⇒***dis*** 反対語は indispensable「なしで済ますことができない<in>」だ。see⇒***in②*** ）/ expensive（「高価な」・ex「外に」払うお金のこと。see⇒***ex*** 一方「歳入」は revenue だ。see⇒***re / venio*** ）/ expenditure（「歳出<ex>」）/ ponder（「じっくり考える」・pending「未解決の」と理屈は同じ。結論をしばらく先延ばしにするおくこと。）/ independent（「独立した・自立した」・in は反対語 see⇒***in②*** ）

/ independence（「独立・自立」・映画「インディペンデンス・デイ」ですっかり認知。see⇒***-ans*** ）/ indispensable「なしで済ますことができない<in>」= necessary だ。see⇒***in②*** ）

p) pendant（「ペンダント」・確かに首からぶらさがっている。see⇒***-ans*** ）/ pending（「未解決の」・決断を下さない宙ぶらりんの状態。「この問題はとりあえずペンディングとしておこう・・」などと言う。）/ pendulum（「振り子」）/ pension（「年金」・お金を測って老人に支給することから来た。筆者が語学留学中滞在していた Eastbourne「イーストボーン」という田舎町は、この pensioner「年金生活者」が悠々自適の老後を過ごすのどかな港町でもあった。流石に「揺りかごから墓場まで・・(from cradle to grave)」のお国柄だ。一方我々日本人の pension はどうなるのだろう？）

s) suspend（「つるす・一時中断」・sus = sub だから下にぶら下がること。「サスペンダー（吊りバンド)」の「サスペンド」もこれだ。see⇒***sub*** ）/ suspension（「一時停止・保留・停学」・また車やバイクなどの衝撃を緩和する装置も「サスペンション」と呼ぶ。バイクなどでも、こいつがおかしくなると「サスがいかれたー！」などと言う。）/ suspense（「宙ぶらりんの状態」・下に<sus=sub>ぶら下がっている状態。「火サス（火曜サスペンス)」のサスペンス。「常にハラハラドキドキ」ということだ。アクセントにも注意！）/ spend（「費やす」・これも「お金」が関係している。「外に<s = ex>お金を使う」が原義。see⇒***ex*** ）

(11) penetro - penetrare - penetravi – penetratus [ペネトゥロー・ペネトゥラーレ・ペネトゥラーウィー・ペネトゥラートゥス]<羅> = penetrate / enter「突き通す・入る」また ***punio - punire - punivi - punitus [プーニオー・プーニーレ・プーニーウィー・プーニートゥス]<羅>*** = punish / avenge 「罰する・復讐する」・基本的には「pen = 痛い」で共通している。また pen は pun にも変化した。point も同根だが語根がかなり変化している。やはりフランス語が絡んでいるようだ。peni ⇒ poni ⇒ poin とても変化したか？諸法則に鑑みて、いろいろ考えてみるのも面白い。また pen と fen も同根であるが、こちらは ***fendo***「殴る」にまとめた。see⇒***fendo***

pen 系) pen（「ペン」・突き刺すと痛い。ラテン語の ***penna - pennae [ペンナ・ペンナエ]***「羽根」から来ている・羽の根本にインクをつけてものを書いたことからだが、さらい遡ると「突き刺す」に至る。）/ pencil（「鉛筆」・***penis [ペーニス]<羅>***「尻尾・ペニス」由来だが、こちらも pen と同じである。）/ peninsula（「半島」は「突きだした島（***insula*** = ***isla***（西語）= isle = island)」という意味だ。モアイで有名な「イースター島」は「イスラ・デ・パスクワ」と言う。see⇒***insula*** また pen=***paene [パエネ]<羅>*** = almost / nearly「ほとんど」で、「ほとんど島」⇒「半島」となったとする説もある。「半島（半分島のようなもの)」と訳した先人は、こちらの説を取ったということだ。「両論併記」の原則に従って、***insula*** とこちら、双方に掲載した。）/ pennant（「ペナント」・お土産に買った経験があるだろう。先の尖った三角旗のことだ。プロ野球の「ペナント・レース」もこの「ペナント」だ。優勝旗が三角形をしていることによる。）/ penetrate（「突き通す」）/ penalty（「罰金」・これも痛い！アクセントにも注意！）/ repent（「後悔する」・痛恨の・・というやつだ。re は「反復」。何度も心が痛むことだ。see⇒***re*** ）

pun 系) punish（「罰する」・「パニッシャー」などという「ドルフ・ラングレン」主演の映画も昔あった。）/ punishment（「罰・刑罰」）/ punctual（「時間厳守の・・」・appointment と考え方は同じ。約束の時間には「ピン・ポイント」で行かねばならない。）/ punctuality（「時間厳守・几帳面」）/ puncture（「穴をあける、パンクさせる」・「パンクした」は flat tire も使える。see⇒***placeo*** ）/ punch（「パンチ・打つ・穴をあける」）

point 系) point（「点・指す」・物を指せば穴があく。穴は点に見える・・というつながりだ。point out は「指摘する」で point at は「指さす」だから区別すること。）/ appoint（「任命・指名する」・指名するときは、相手の方<ad>を指す。see⇒***ad*** ）/ appointment（「任命・(人と会う）約束」・約束の日時をカレンダーで指すわけだ。「アポを取る」などと日本語にもなっている。同じ「約束」でも promise と区別 see⇒***mitto / pro*** すること。）/ disappoint（「失望させる」・任命されなかった<dis>ら失望するわけだ。これも「他動詞」だから使い方に注意。be disappointed で「失望させられる」⇒「失望する」となる。）/ disappointment（「失望」）

その他) pain（「痛み」）/ impudent（「生意気な・ずうずうしい」・もともとは「恥知らず」からきている。「痛みを感じない<im = in>ほど鈍感な」という意味だ。see⇒***in②*** ）/ pinch（「難儀・激痛」・「ピンチの後にチャンスあり」の「ピンチ」だ。確かに「痛い」。また「つまむ・つねる」の意味もある。「つねられれば痛い」からだ。pincettes「ピンセット」も古語だがこの派生語だ。）

(12) per [ペル]<羅> = throughout「～じゅう」/ whole「全体」から thoroughly「完全に・徹底して」の意味が生まれた。その意味では ***cum*** に似ている。英語読みでは[パー]となる。「パーセント」の「パー」だ。もともと ***fero / porto***「運ぶ」と同根語。fer = por = per だ。「運ぶ」⇒「通す」⇒「やり通す」⇒「徹底して」となった。see⇒***fero / porto***

perc-perf-peri) per cent = percent（「百分率」・アクセントにはくれぐれも注意して欲しい。see⇒***centum***)/ perceive（「感じる」see⇒***capio*** ）/ perform（「演じる」・演じるには徹底<per>して型<form>を磨くことが大切。see⇒***formo*** ）/ perfect（「完璧な」see⇒***facio*** ）/ perish（「腐る・滅びる」see⇒***eo*** ）

perm) permit（「許可する」see⇒***mitto*** ）/ per mil（「千分率」see⇒***centum*** ）/ permanent（「永遠の」・日本語の「パーマ」がこの単語だ。「パーマネント・ウエーブ」で、パーマをかけたら永遠に持ちますよ・・という意味だ。一方 manent の語源は ***maneo [マネオー]***で、stay「滞在する」というラテン語である。ラテン語で新約聖書を読むと、至る所にこの単語が登場する。イエスは伝道の旅に出ているから滞在する場所がない。そこで信者たちがイエスを招いて「宿泊<***maneo***>」させ、その教えに耳を傾けるのだ。その際必ず登場する単語がこの ***maneo*** なのである。per は「～を通して・徹底的に」だから「どっかり居座って動かないこと」が原義である。） / permutation（「順列・入れ替え」see⇒***muto*** ）

perp) perpetual（「永遠の」see⇒***peto*** ）/ perplex（「困惑させる」see⇒***plico*** ）

pers-perv) perspective（「展望」see⇒***specio*** ）/ persist（「固執する」see⇒***sto*** ）/ persecute（「迫害する」see⇒***sequor*** ）/ perspiration（「発汗」see⇒***spiro*** ）/ pervade（「広がる・充満する」see⇒***vado*** ）

その他) pardon（「許す」see⇒***do*** ）/ pilgrim（「巡礼」・pil = ***per***(= through)であり、grim = ***ager - agri***= land / field だ（***ager***に関しては agriculture 参照)。「野原を横切ってゆく」が原義。ヨーロッパの人々にとって聖地エルサレムは遥か中東の地。しかもイスラム教徒の支配下にあった。彼らにとってはまさに異国への命がけの旅だったのだ。また「ピルグリム・ファーザーズ（巡礼始祖)」といえば、信仰の自由を求めて 1620 年にメイ・フラワー号で新大陸（アメリカ）へ渡った人々のことだ。）/ disperse（「分散させる」・「ばらばらに<dis>して全体に<per>振り分ける」が原義。see⇒***dis*** ）

(13)peri ＝π ε ρ ι [ペリ]<希>「周囲」

period（「期間」・「ピリオド（終止符)」で覚えても、ほとんど使えない。「ピリオド」だと他の意味と混同しやすいので、イギリスでは full stop と言っていた。see⇒***hodos*** ）/ perimeter（「周囲の長さ」・ギリシャ語では ***perimetron*** ＝π ε ρ ι μ ε τ ρ ο ν [ペリメトロン]となり、この頭文字が「円周率π」となったことは「ギリシャ語アルファベット」の紹介ですでに書いた。meter は see⇒***mens*** ）/ peripheral（「核心から離れた・さして重要でない」・「周辺<***peri***>に運ばれ<phera = ***fero***>た。」が原義。サラリーマンで言えば「左遷」ということか・・。see⇒***fero*** ）/ ***perioikoi***（ [ペリオイコイ]・世界史で登場する単語。古代スパルタ人は「周辺の民」をこう呼んだ。農業や商業に従事したが参政権はなく、しかし従軍義務は負った。日本語でも「周辺」を「縁（へり)」と表現する。「オイ<***oi***>」は「オス<***os***>」の複数形だから、単数は ***perioikos*** [ペリオイコス]となる。***oikos*** [オイコス]= home がもろに出てきているから、「周辺の家」⇒「周辺の家に住む人々」となったと推察される。see⇒***oikos*** ）

(14)peria [ペリア]<羅>= trial「試み」/ ***peritus*** [ペリトゥス]<羅>= experienced「経験ある」

experiment（「実験」・徹底して<ex>やってみること。see⇒***ex*** ）/ peril（「危険」・試みは危険を伴う。）/ expert（「専門家・エキスパート」・経験<experience>を積んだ人・・の意。）/ experience（「経験」・「実験」と由来は同じ。see⇒***ex / -ans*** ）

(15)pes - pedis [ペス・ペディス] <羅>= foot「足」・ギリシャ語では π ο υ ς - π ο δ ο ς [プース・ポドス]となる。ped は⇒ pod ⇒ fot ⇒ foot となったしさらに ped ⇒ fed ⇒ feet ともなった。また ped ⇒ pat ⇒ pas ⇒ pace ⇒ pass「通過する」/ passage「道・通路」/ pace「ペース・速度」にも・・。母音の変換はこうなると手が付けられない。

pedal（「ペダル」）/ pedestrian（「歩行者」・「ピデストリアン・デッキ」というのがある。歩道橋を上るとそのまま駅の 2 階に入ることができる構造を言う。）/ expedition（「遠征・探検」・ex「外を」歩き回る・・が原義。see⇒***ex*** ）/ bipedalism（「二足歩行」・bi = two。bicycle は「二輪車」だ。see⇒***bi / ismos*** ）/ centipede（「ムカデ」・足が 100<cent>本あるから。漢字でも「百足（ムカデ)」と書く。種類にもよるが、多いものでは 47 対 94 本もの足を持つらしい。まさに「100 の足」だったわけだ。see⇒***centum*** ）/ pedigree（「血統・血統書」・キャットフードのペデイグリーチャムで一躍有名になった。系図が鶴<***grus - gruis***>の足<***pedis***>（いずれもラテン語）に似ているところからついたようだ。）/ impede（「阻害する」・所謂「足止め」だ。「電気抵抗」は impedance[インピーダンス]と言う。物理の授業でやったはず。see⇒***in②*** ）/ patent（「特許」・発明の「足跡」をたどる・・が原義。see⇒***opus*** ）/ octopus（「タコ」・「8 本の脚」が原義。「フーテンの寅さん」に登場する「タコ社長」の「タコ」。「タコ焼き」の「タコ」だ。pes = pus だ。see⇒***decem*** ）

最後に Wikipedia（「ウィキペディア」）と encyclopedia（「エンサイクロペディア・百科事典」see⇒***kyklos / en*** ）の話だ。これも長くなるので最後にもってきた。Wikipedia の pedia は「足」とは無関係。テレビで東進ハイスクールの林先生が「足と関係ある・・」みたいなことを言っていたが、これははっきり「間違い」である。国語の先生にギリシャ語・ラテン語について話させる番組側に問題がある。林先生も万能ではない。この ***pedia*** はラテン語ではなくギリシャ語。***paideuo*** ＝π α ι δ ε υ ω [パイデウオー]= teach「教える」に由来する。***paedia*** ＝π α ε δ ε ι α [パエディア]は「教育」だ。orthopedics「整形外科」see⇒***orthos*** の pedi も同じだ。もともとは「子供の整形」を意味していた。ギリシャ語の動詞は何と一つの動詞が 700 種類以上にも活用を起こす、まさしく「お化け言語」だが、その初歩として学習者はこの ***paideuo*** で「活用」を学ぶ。encyclopedia（エンサイクロペディア：百科事典）の ***pedia*** もこの ***paedia*** だ。「エンサイクロペディア・ブリタニカ」などという巨大な辞書もある。 ***cyclo*** は英語の cycle の語源になった言葉で ***kyklos*** ＝κ υ κ λ ο ς[キュクロス]に由来し、「円・一周 = around」から「すべて」の意味になった。「全部教えちゃいます！」ほどの意味だ。英語でも all around the world「世界中で」と言うではないか。en = in で「～の中に」だから「中にすべて入ってます」くらいの感覚か？ また「ホメロス」の 2 大叙事詩「イリアス<***Ilias***>（英語では Iliad)」see⇒***humus*** と「オデッセイア<***Odysseia***>（英語では Odyssey)」see⇒***humus*** の「オデッセイア（オデッセイウスの冒険)」において、主人公「オデッセイウス」が故国「イタケ（英語読みは[エスィカ])」に帰る途中で地中海をさまよっていた際、一つ目の怪物「キュクロプス」に襲われるという一幕がある。このキュクロプスはキュクロス(丸い)+オープス(目)=ω φ の意味だ。一方オデッセイウスを助ける「ナウシカア<***N*** α υ σ ι κ α α>」という女性も登場する。スケリア島という島の王女だ。「風の谷のナウシカ」の「ナウシカ」はこの女王から取ったものだ。「ギリシャ神話」を読んでいてこの名前を見つけ、驚いた記憶がある。「オデッセイア」も映画になっている。名作だ。是非見て欲しい。

(16)peto - petere - petivi - petitus [ペトー・ペテレ・ペティーウィー・ペティトゥス] <羅>「追い求め、飛びかかる」

petition（「嘆願書」・希望を追い求めること。）/ repeat（「繰り返す」see⇒***re*** ）/ repetition（「繰り返し」・「嘆願」は繰り返し<re>行うもの。）/ perpetual（「永遠の・永続的な」・per「徹底して」追求することから来ている。see⇒***per*** ）/ perpetually（「永遠に」）/ compete（「競

う」・com「みんなで」競って勝利を追い求める・・だ。一人では競争にはならない。see⇒***cum*** ）/ competition（「競争」・「ゴルフ・コンペ」の「コンペ」もこれだ。）/ competence（「能力」・もとは「競争する能力」からきている。）/ competent（「能力のある・有能な」）/ appetite（「食欲」は食べ物を追い求める心。ap = ad / see⇒***ad*** ）/ appetizer（「前菜」は食欲<appetite>を誘うもの。see⇒***ad*** ）

(17) petros＝π ε τ ρ ο ς [*ペトロス*]***<希>***＝rock「岩」

petrol（「ガソリン（英)」・米国では gas / gasoline と言う。gasoline はアクセントに注意！[ガソリン]だ。gas には「気体」という意味もある。「温室効果ガス」の「ガス」だ。）/ petroleum（「石油」・British Petroleum「ブリティッシュ・ペトロリアム」などという石油会社があった。ラテン語辞典には ***petra*** [*ペトゥラ*] = rock「岩」であり、***petros*** [*ペトゥロス*] = stone「石」とあるが、特に区別はないであろう。***petros*** の「女性形」が ***petra*** になるからだ。これまた聖書の話で恐縮だが、イエスの一番弟子の「ペテロ」は「岩」という意味だ。無論イエスがつけたニックネームである。元・宮崎県知事が師匠の「ビートたけし」に、「お前はそのまんま〇〇〇でいいや！」と名づけられたのと同じことだ。「私が教会を建てる礎（礎石）になりなさい」と言ったからだ。その「預言（予言？)」が成就（じょうじゅ）し、現在の「サン・ピエトロ（ペテロ）大聖堂」がペテロ殉教の地に鎮座している。因みにペテロの本名は「ケパ」と言う。こちらも「アラム語（当時の中東一体の共通語)」で「岩」という意味だ。またヨルダンに「ペトラ」という遺跡群もある。世界遺産に指定されており、その中の「エル・カズネ（宝物殿)」は「インディー・ジョーンズ・最後の聖戦」のロケ地にもなったと言えば、諸君らも思い浮かぶだろう。最後の ***oleum*** [*オレウム*]***<羅>*** は oil、あわせて「石・油」だ。「オレイン酸」などという物質もある。オリーブ・オイルから抽出され、コレステロールを減らす働きがあるとされる。ポパイの彼女の名前にもなっている「オリーブ」だが、は学術名「オレア・エウロパエア<***olea europaea*** >」。直訳すれば「ヨーロッパのオリーブ」。***olea*** は「オリーブ」***<羅>***。ギリシャ語では ***elaia***＝ ε λ α ι α [*エライア*]と言う。「メシア（救世主：油塗られたる者)」など、新約聖書でもしつこいほど登場する植物だが、かの地では「オリーブ ＝ 油」だったのだ。葉は薄い緑ともクリーム色ともつかぬ色で、非常に優しい色だ。見ていてほっとする。日本では「小豆島」を旅したとき目にした記憶がある。最後になるが「オリーブ<olive>」のアクセントは[オリヴ]となる。時々出題されるから要注意だ。）/ petrify（「動けなくする」・「石のように動けなくする」こと。古代ギリシャ神話の「メドウーサ」をイメージすればいい。目が合うとみんな石になってしまう・・というあの恐ろしい怪物だ。英雄「ペルセウス」は盾に映ったメドウーサの姿を頼りに、この怪物を退治したという。-fy = ***facio*** / see⇒***facio / sacer*** ）

(18) philos ＝φ ι λ ο ς[*フィロス*]***<希>***＝love「愛」

philosophy（「哲学」・「知<***philos*** >を愛する<***sophia*** >こと・・」と「倫社（倫理社会)」の時間に学んだはず。）/ philosophical（「哲学的な」）/ Philip（「フィリップ」・人名）/ ***philos*** [*ピロス*]は「愛」、***sophia*** [*ソピアー*]は「知恵」で「知を愛すること」となる。古代ギリシャ人は「真・善・美」を至高の価値観とした。「真」を究めるには「知」は不可欠だったわけだ。また体を鍛えることにも余念がなかったことは、「ギリシャ彫刻のような・・」という形容が今も残ることからもわかる。ブヨブヨの体をファッションで誤魔化すことしか考えない現代人には少々耳が痛いかも知れないが・・。また古代ギリシャ人の名前にはすべて意味がある・・とすでに書いた。philos から Philippos「フィリッポス」という名前が生まれた。英語風に発音すれば「フィリップ」だ。philos は無論 love だが、ippos は？これは「馬」という意味だ。発音は[*ヒッポス*]。ギリシャ語は h の音を表す文字がないが、代わりに「気息記号（コンマ)」をつけて表していた。しかも「左巻きのコンマ」だ。ここではそのコンマはワープロでは出ないので省略したが、読み方は[hi]だ。つまりフィリッポスは「お馬さん大好き」という意味なのだ。「アレクサンドロス大王（アレクサンドロス 3 世)」の父の名がこの「フィリッポス（2 世)」であった。武将であれば愛馬をかわいがるのは当然であろう。戦場では自分の命を預けるからだ。一方 ippos から ***ippopotamos*** [*ヒポ・ポタモス*]「カバ・河馬」という単語が暗記できる。***potamos***＝river だから、まさしく「河の馬」で「河馬」なのだ。この ***potamos*** から Mesopotamia ＝ ***Μ*** ε σ ο π ο τ α μ ι α「メソポタミア」[メソポティミア]という単語が導きだされる。***mesos*** [*メソス*]＝ middle だから、「河の真ん中」という意味だ。河とは無論「チグリス・ユーフラテス川」のことである。今ではこの 2 つは合流してペルシャ湾に注いでいるが、当時はまだ合流しておらず、別々の川としてペルシャ湾に注いでいた。チグリスの語源は ***tiger - tigris*** [*ティグル・ティグリス*]***<羅>***で tiger「虎」だとする説がある。太古この一帯はまだ森林に覆われており、虎が生息していたと言う。サハラ砂漠もかつては湿潤な気候で、象やキリンが生息していたことは広く知られている。この一帯で虎が生息していても何の不思議もない。一方ユーフラテス川の方は、語源は諸説あってはっきりしないようだ。mesolithic で「中石器時代」となる。see⇒***lithos / paleos*** / sophisticate（「洗練する」）/ sophisticated（「洗練された」・philosophy が出たついでに載せた。すでに上で書いたが ***sophia*** は「知」という意味だ。大文字で Sophia と書けば「上智大学」のこと。人名としてもしばしば用いられる。イタリアの肉体派女優「ソフィア・ローレン」やフランスのカワイ子ちゃん女優「ソフィー・マルソー」はすぐに思い浮かぶ。またウルトラ兄弟の長兄「ゾフィー」も、この「ソフィア（叡智)」から取ったとの説が根強い。頭文字はＺになっているが、これは初代ウルトラマンを倒した「ゼットン」に対抗する意味があったとも・・。確かにＺの方が強そうだ。）/ sophomore（「大学 2 年生（米)」。あまり聞きなれない単語だが・・。詳しくは see⇒***gradus*** ）

(19) phobos＝ φ ο β ο ς[*フォボス*] = afraid「恐れ」

math phobia（「数学恐怖症」see⇒***Hydra*** ）/ xenophobia（「外人恐怖症」see⇒***Hydra*** ）/ agoraphobia（「広場恐怖症」・***agora*** [*アゴラ*]「広場」については see⇒***cata*** ）/ hydrophobia（「狂犬病（恐水病)」see⇒***Hydra*** ）/ また火星の第 1 衛星の名も「フォボス」だ。第 2 衛星は ***deimos ＝*** δ ε ι μ ο ς[*デイモス*]（これも「恐怖」という意味だ。）といい、ギリシャ神話では彼らは兄弟とされる。小さくてまるでジャガイモもような星だが、この 2 つの衛星には一つの謎がある。「火星は 2 つの衛星を従えている」と予言した人物がいるのだ。天文学者ではない。小説家だ。彼の名は「ジョナサン・スイフト」。「ガリバー旅行記」で有名なあの「スイフト」だ。しかも発見よりも半世紀も前だ。

スイフトはどこでこんな情報を入手したのだろう。興味は尽きない。

(20) phono ＝ φονω[*フォノー*]***<希>*** = say / talk「言う・話す」

fabula の項を参考にして欲しい。

(21) phos＝ φως[*フォース*]***<希>*** = light「光」・photon[フォトン]が「光子」だからすぐに覚えられる。またちょっと前には「フォトン・ベルト」なるものが話題となった。太陽系が銀河とともに回転してゆくと定期的に光の帯の中に突入し、すべての生物が死滅してしまうという恐ろしいものだ。「ノストラダムスの大予言」の 21 世紀バージョンである。pho はさらに pha / phe / fa / pa などに変化した。また ***phasis*** ＝ φασις[*ファーシス*]「星の光」から phan / phen / fan などが生まれた。すでに ***phono*** でも書いたが、この ***phos***「光」と ***phono***「音」とは同語源だ。see⇒***phono***

phenomenon（「現象」[フィノミナン]・「光り現れるもの」が原義。複数は phenomena となる。on が a になる典型的なギリシャ語の「中性名詞」だ。他にも英語で同様の変化をする単語があったら見つけ出してみて欲しい。）/ phantom（「幻影」・光を当てると「影」ができる。）/ phase（「面」・光を当てると「面」が光る）/ fancy（「派手な」）/ fantastic（「すばらしい」・輝いて見えるから。）/ pant（「息切れする・あえぐ」・すばらしい物を見れば、興奮して息切れする。所謂「ドキドキ」だ。）/ photograph（「写真」・「光を刻む」が原義。see⇒***grapho***）/ emphasize（「強調する」・ex は「強調」。「光を強く当てる」が原義。see⇒***en / ismos***）/ emphasis（「強調」）

(22) physikos ＝φυσικος[*フュシコス*]***<希>***「自然界の」・***physica***＝φυσικα[*フュシカー*]で「自然科学」だ。

physics（「物理学」see⇒***ge / polis***）/ physical（「物理的な・肉体的な」・サッカー元日本代表監督のジーコがドイツ・ワールドカップ敗退後、「日本人はフィジカルが弱いんだからしょうがない・・」と捨て台詞を残して去っていった。サッカーですっかり有名になった単語だ。see⇒***meta***）/ physician（「内科医」）/ physicist（「物理学者」）/ physiology（「生理学」・体（肉体）についての学問・・の意。see⇒***logos***）/ geophysics（「地学・天文地球物理学」see⇒***ge***）/ metaphysical（「形而上学の」・「物質を超えた<meta>もの・・」というのは実は誤解。詳しくは see⇒***meta***）

(23) pingo - pingere - pinxi - pictus [*ピンゴー・ピングレ・ピンクスィー・ピクトゥス*] ***<羅>*** = paint「塗る」

depict（「描写する」・異論もあろうが de は「強調」でいいだろう。see⇒***de***）/ picture（「絵」）/ paint（「塗る」・pin⇒pai となった。一つだけちょっと形が変わりすぎていて違和感があったので調べてみると、やはり「フランス語経由」の単語であった。）/ picturesque（「絵のように美しい」・これも発音・アクセントに注意・[ピクチュアレスク]だ。）/ pigment（「顔料・絵の具」）/ pictogram（「ピクトグラム・図像」・トイレの入り口などにあるやつが有名だ。これが分からないとえらいことになる。）

(24) placeo - placere - placui - placitum [*プラケオー・プラケレ・プラクイー・プラキトゥム*] ***<羅>*** = please「喜ばせる」⇒「なだめる」⇒「心を平穏にする」⇒「平らな」と繋がる。ギリシャ語の ***platys*** ＝ πλατυς[*プラテュス*]= broad「広い」も同根であり、ここからの派生語も多い。pla は fla にも変化した。

c) complain（「不平を言う」・explain と似ているのでこの単語を期待された方も多かろうが、これは別語源。比較の意味でここに載せた。この plain は ***plango - plangere*** [*プランゴー・プランゲレ*]***<羅>*** =strike / beat「打つ」が起源だ。またこの単語には lament「嘆く」の意味もある。「一緒に<com>嘆き悲しむ」が原義だ。see⇒***cum*** また plague[プレイグ]「疫病・黒死病（ペスト）<pest>」see⇒***cado / mors*** という単語もここから生まれた。ヨーロッパの人口の 3 分の 1 の命を奪ったといわれる「ペスト」で、かの地は完全に打ちのめされた。この単語は「絶えず悩ます」という動詞でも用例がしばしば見られる。see⇒***cado / mors***）/ complaint（「不平」）

e) explain（「説明する」・平易な説明・・と日本語でも言う。ex は「外へ」。説明は外に向けて行うものだ。see⇒***ex***）/ explanation（「説明」・因みに explicable（「説明できる」という単語があるが、こちらは explain とは無関係だ。see⇒***plico / ex*** もっとも explain を利用して覚えてもいいが・・。）/ explore（「探検する」・物事を明らかにする・・が原義だが、もう一つの説もある。***plorare*** [*プロラーレ*]で shout「叫ぶ」の意味から来た・・というものだ。こちらは ***ploro*** を参照にして欲しい。see⇒***ploro / ex***）/ exploration（「探検」see⇒***ploro***）

f) flat①（「平らな」・「プ」が「フ」に変化。「グリムの法則」だ。この単語はさまざまなところで使われる。まず陸上競技で「10 秒フラット」などというフラット。小数点以下を「凸凹（でこぼこ）」と捉えるわけだ。ところでどうでもいいが、漢字の順番に注意。「凹凸」は「おうとつ」と読む。さらに「タイヤがパンクした！」という時も使える。He had / got a flat tire.と言えばいい。タイヤが「平ら」になるからだ。「パンク」は puncture「穴をあける・パンクさせる」から来ているので、こちらも使えるが・・。 see⇒***penetro***）/ flat②（「フラット・アパート」・イギリスではアパートをこう呼ぶ。「平らな」から「平屋建て」の意味となったらしい。リビングからキッチン、バスルームまで、すべて一つの階にあるからだ。see⇒***imitari***）/ flatter（「お世辞を言う」・平身低頭だ。）

i) implant（「埋め込む」（「イン・プラント」＝「イン＋プラント」からわかるように「中に<im>植える」だ。中とは「体内」のこと。see⇒***in①*** 歯科治療でも使われるが、最初に筆者が耳にしたのは「宇宙人<alien>による誘拐<abduction> see⇒***duco / ab***」である。帰宅した人間の体内に「チップ」が埋め込まれていた・・という「こわーい話」である。もっともこの手の話はちょっと「眉に唾つけて」みた方がいいだろう。alien に関しては see⇒***alius***）

p-r-t) placate（「宥（なだ）める」＝ soothe[スーズ]）/ plate（「お皿」・平らだ。）/ plain（「平原」）/ plane（「飛行機」は「平らに飛ぶ」もの。墜落はよくない。）/ plan（「計画」・平面図から・・。）/ plant（「植物・工場」・植物は「平野」に植え、工場は「平地」に建てるもの。）/ placebo effect（「プラシーボ効果」・「これはいい薬ですよ！」とビタミン剤をあげたら患者が喜んで本当に治ってしまう・・という、アレである。）/ placid（「穏やかな」）/ plaque（「歯垢・飾り板」・「プラーク・コントロール（歯垢を落としましょう）」で CM でも有名だ。）/ platform

（「プラットフォーム」は平らでなくては困る。また「教壇」の意味もある。form は「形」だ。）/ place（「場所・配置する」・場所といえば水平なもの。山の急斜面は「場所」とは言わないはずだ。）/ placement（「配置」・placement test で「クラス分けテスト」の意。）/ plaster（「石膏」・平らな板のようだ。）/ palm（「手のひら」・pla⇒ pal と、a と l が入れ替わった。「パーム・ツリー」は「ヤシの木」のこと。葉っぱが手のひらに似ているからだ。「パーム・オイル（ヤシの油）」や「パーム・ビーチ」、「パーム・リーディング（手相占い）」という、あの「パーム」だ。）/ please（「喜ばせる」・心を平らにさせること。これも「他動詞」だ。「喜ぶ」ではないので注意。）/ platanus（「プラタナス」・葉っぱが広いらしい。）/ planaria（「プラナリア」・平べったく長い生物・理科で習ったはず。半分に切っても分裂して 2 匹になるというキモい生物だ。a で終わっているからギリシャ語・ラテン語の中性名詞・複数形だ。s などつけないように・・。）/ plateau（「高地・台地」[プラトウ]）/ ***Platon*** = ***Πλατων[プラトーン]***（「プラトン（古代ギリシャの哲学者）」・肩幅が異様に広かったことからつけられた名前だ。古代オリンピックではレスリングの選手としても鳴らしたらしい。文武両道だ。）/ replace（「取り替える」・re は「再び」see⇒***re*** ）/ replacement（「取り換え」）/ transplant（「移植」・「移して植える」が原義。see⇒***trans*** ）

(25) ***platto*** ***= plasso = πλαττω = πλασσω[プラットー・プラッソー]<希>***「形作る」・どんな容器に入れても、その容器にあわせて形を自在に変えることができる・・というイメージで捉えてもらえればいい。また似た単語で ***pratto*** = ***prasso*** = ***πραττω = πρασσω*** というのがある。l が r に変わっただけだ。こちらは「追ってゆく・目的を実行する」という意味で pra = per「～を通して・徹底して」の派生語だ。see⇒***per*** / ***pragma*** = ***πραγμα[プラグマ]***「実行・行為」という単語もある。これらの関係は最後に載せた。

plastic（「プラスチックの・可塑（かそ）性の」・「石油の～」と訳した馬鹿者がかつていた。「可塑性の」とは「自在に形が変えられる」ということだ。だからこそさまざまな日用品がこれを原料として作られている。）/ plastic surgery（「形成外科」・早い話が「整形（顔をいじくること）」である。プラスチックのように簡単に美人になれればいいのだが、取返しのつかなくなった例もあると聞く。女性陣はくれぐれもご用心。）/ plasma（「プラズマ」・「原子」が「原子核」と「電子」に分かれ、バラバラになって飛び回っている状態をこう呼ぶ。「形作る」⇒「（神によって）形作られた物」⇒「神秘的な物質」と変化したようだから、比較的新しいの意味からのネーミングであろう。「UFO の正体はプラズマ生命体だ！」などという説もある。宇宙空間は 99.99%がプラズマ状態で、地球上では「炎」がプラズマ状態の身近な例と言える。懐かしい例では某有名私立大学の O 教授がこの「プラズマ研究」で有名だった。）/ extoplasm（「エクト・プラズム」・この単語をご存知の方はかなりの「オカルト好き」であろう。霊媒（霊能者）の口から出る半物質のことである。霊は肉体を持たないので、それを可視化するために霊能者は体内からこの物質を放出し、周囲の人間にも見えるようにするわけだ。ecto は「外へ<ex>」の意味だ。）/ cytoplasm（「細胞質」[サイトプラズム]・生物学で学習する。細胞の内部を満たしている物質だ。細胞の形や大きさに合わせて自らの形も変える。）

pratto 関係) practice（「練習・実行」）/ practical（「実用的な」）/ practically（「実際には」）/ practicable（「実行可能な」）/ malpractice（「医療ミス」see⇒***mal*** ）/ pragmatism（「プラグマティズム・実用主義・現実主義」・19 世紀のアメリカで起こった。「哲学なんて、実際の行動が伴わなかったら何の意味もないでしょ？」という考え方だ。また「行動してみておかしかったら、哲学の方を書き換えることもありかもね・・」ともなる。何ともアメリカ人らしい。see⇒***ismos*** ）

(26) ***plenus*** ***- plena - plenum [プレヌス・プレナ・プレヌム] <羅>*** = full「満たされた・いっぱいの」・「フル＝プル」だから「プルンプルン」で「いっぱい」をイメージすればいい。また ple は plen / pli / ply / plu にも変化し、やがて fill「満たす」/ full「いっぱいの」となった。fulfill「（要求を）満たす・（役割を）果たす」/ fulfillment「遂行・実現」などという、ちょっと「しつこい」単語もある。fulfill はアクセントにも注意！fulfill だ。

a) accomplish（「達成する」・ac = ad / com は「強調」・「完全<com>に満たす<pli>方向へ<ac>・・」が原義。see⇒***ad / cum*** ）/ accomplishment（「達成」）/ ample（「十分な・たっぷりの」・am= ambi 「周囲<***ambi*** >にいっぱい・・」の意。see⇒***ambi*** ）/ amplify（「増幅する」・see⇒***facio*** amplifier はいわゆる「アンプ（増幅器）」だ。）

c-p-s) complete（「完成する・完全な」・com は「強調」see⇒***cum*** ）/ compliment（「お世辞」・人の虚栄心を満たす。）/ comply（「要求に応じる・規則に従う」・相手の要求を完全に<com>満たすことだが、一方(27)の ***plico*** 「折りたたむ」だとする説もある。これだと「相手の要求に屈する」という解釈になる。日本語でも「こちらが折れるしかない・・」などと表現する。一応こちらにに収録した。see⇒***cum*** またこの名詞形が世にいう compliance[コンプライアンス]だ。日本語にすれば「（企業の）法令順守」となる。それだけ「悪い企業」が増えたということか。）/ complement（「補語」・「欠けた部分をみんな<com>で協力して満たす」の意。see⇒***cum*** ）/ plus（「プラスの・～に加えて」・またこれは ***multus*** の比較級でもある。see⇒***multus / surgo*** ）/ plenty（「たくさん」）/ supply（「供給する」・要求を上まで<sup = sur>満たす。・・・の意。see⇒***sur*** ）/ supplement（「補足」・「サプリメント」の「サプリ」だ。）/ supplementary（「補足の」）

その他) manipulate（「操作する」・「手で（要求されたことを）満たす」が原義。plu⇒pul と置換された。後ろの late(= ***latus***)との兼ね合いだろうか？see⇒***manus*** ）/ implement（「道具・器具」・動詞では「実行する」の意。「実行手段」から「道具」の意味も出た。「中<im>を満たす」の意。see⇒***in①*** ）

(27) ***plico*** ***- plicare - plicavi - plicatus [プリコー・プリカーレ・プリカーウィー・プリカートゥス] <羅>*** = fold「折りたたむ」(26)***plenus*** と似ていて区別が難しいが、両者は全く無関係のようだ。ple / pli / ply / plo / pla などに変化した。また ple が pel と置換を起こし、pel ⇒ fel ⇒ fol ⇒ fold「折りたたむ」が登場する。

a-c) apply（「応用する・適応させる・応募する」・apply A to B「A を B に適応する」や apply for A「～に応募する」と使う・「B に向かって<ap = ad>A を折りたたむ」の意。B に合致するように A に修正をかけるわけだ。「～に応募する」なら、会社の希望に合うように自分自

身<oneself>を折り曲げること・・と考えればいい。see⇒***ad*** ）/ application（「応用」・application form で「申込用紙」となる。）/ applicant（「応募者」see⇒***-ans*** ）/ complex（「複雑な・コンプレックス・強迫観念」・「徹底して<com>折りたたまれたもの」の意。人間心理は複雑怪奇・・ということだ。see⇒***cum*** ）/ complexity（「複雑さ」）/ complicated（「複雑な」・「何度も折りたたまれた」という意味だ。）

d) display（「表示・展示する」・残念ながら play「遊ぶ」とは無関係。「折りたたむ」の反対<dis>だ。パソコンの画面の「ディスプレイ」もこれだがアクセントにはくれぐれも注意！[ディスプレイ]だ。see⇒***dis*** ）/ diploma（「卒業証書」・di だから「2 つ折り」。卒業証書が 2 つ折りになっていたことから。see⇒***di*** ）/ diplomat（「外交官」）/ diplomacy（「外交」・こちらは「卒業証書」ではなく「外交文書」を指す。）/ diplomatic（「外交上の」）/ deploy（「（軍隊などを）配置につかせる。」・折りたたんであった軍隊を展開すること。de は「否定」see⇒***de*** ）/ duplicate（「複製する」du = ***duo*** = two だ。see⇒***duo*** ）/ double（「2 倍」・「ブル」⇒「ブル」となった。see⇒***duo*** ）/ triple（「3 倍の」see⇒***tri*** ）

e) employ（「中<em = en = in>に織り込む」だから「雇う」・会社の仲間に入れるという意味だ。see⇒***en*** ）/ employment（「雇用」）/ employee（「従業員」[インプロイイー]・アクセントに注意！see⇒***fero*** ）/ employer（「雇用主」）/ exploit（「外<ex>に開く」で「開発・利用」する。see⇒***ex*** ）/ exploitation（「開発・開拓」）/ explicable（「説明できる」・***placeo*** でも説明したが、explain「説明する」の形容詞形ではない。see⇒***ex / placeo*** explicate「明らかにする・明確にする・解明する」のそれである。「折り畳んであった中身を開示する」が原義。）/ explicit（「明白な・公然の」・手の内を外に<ex>全部見せること。see⇒***ex*** 反対語が implicit「暗黙の」だ。）

i-m-p-r-s) imply（「暗に意味する」・「中<in>に織り込まれたもの」。日本語で言う「含蓄（がんちく）ある表現」というやつだ。see⇒***in①*** ）/ implication（「含み・含蓄」）/ inexplicable（「説明できない」 see⇒***in②*** ） / implicit（「暗黙の」だ。see⇒***in①*** ）/ multiply（「掛け算する・増える」・multi は「マルチ<many>」だから「何度も折りたたむ」の意。see⇒***multus*** ）/ multiplex（「多様な・多重送信の」see⇒***multus*** ）/ perplex（「困惑させる」・徹底的に<per>折りたたむと相手は「困惑」する。see⇒***per*** ）/ perplexity（「困惑」）/ plight（「苦境」・まさにヘレン・ケラーの「三重苦」だ。）/ replicate （「複製する」see⇒***re*** お馴染みの単語「レプリカ・複製品<replica>」の動詞形。replica のアクセントは[レプリカ]だ。「再び折る」の意。）/ reply（「答える」・「折り<pli>返し<re>お電話致します」と言うではないか。see⇒***re*** ）/ simple（「折りたたみ方」が「1 つ<***sim*** = same>」だから「単純」だ。see⇒***sim*** ）

(28)ploro - plorare [プロロー・プロラーレ]<羅> = shout「叫ぶ」

explore（「探検する」・叫び声をあげながら外へ<ex>獲物を追い詰めていった・・が原義。また plore については別の解釈もある。これは ***placeo*** を参照して欲しい。see⇒***ex / placeo*** ）/ exploration（「探検」see⇒***ex / placeo*** ）/ deplore（「深く悲しむ」・悲しいときは声を上げて泣く。de は「強調」see⇒***de*** ）

(29)polis ＝ π ο λ ι ς [***ポリス***]<***希***> = city「都市」・世界史で学習する古代ギリシャの都市国家「ポリス」だ。

political（「政治的な」）/ politician（「政治家」・「汚職政治家」を politician、「高潔な政治家」を statesman と区別することもあるようだ。see⇒***sto*** ）/ policy（「政策」・国家の政策でもいいが、個人の場合でも使える。Honesty is the best policy.「正直は最善の策（正直にしていれば間違いない）」という諺もある。）/ police（「警察」・いわゆる「国家権力」だ。発音・アクセントは[ポリース]だ。see⇒***jus*** ）/ politics（「政治学」・既に書いたが、politics など学問名の最後の s は複数形の s ではない。ギリシャ語の「男性名詞」はオス<***os***>で終わるものが多いがその名残だ。学問はすべて古代ギリシャ発（本当は古代エジプト発）だからだ。学問名で s で終わるものの例は最後にまとめて挙げておいた。）/ acropolis（「アクロポリス」・ご存知「パルテノン神殿」の立つ丘だ。「アクロ」は ***akros*** =α κ ρ ο ς[***アクロス***]=summit「頂上」の意。ラテン語に入って ***acer*** [***アケル***]は「突き出た」の意味になった。***akros*** は acute「鋭い・急性の」で英語にも残っている。acid「酸」の語源にもなった。「突かれるように痛い」からだ。一方「慢性の」は chronic。「時間の神・クロノス」に由来する。see⇒***khronos*** ）/ cosmopolitan（「国際人・国際的な」see⇒***cosmos*** ）/ megalopolis（「超巨大都市」see⇒***magnus*** ）/ metropolis（「大都市」see⇒***mater*** ）

以下学問名の若干の例を挙げる。economics（「経済学」see⇒***oikos*** ）/ statistics（「統計学」see⇒***sto*** ）/ physics（「物理学」see⇒***physikos / ge / meta*** ）/ geopolitics（「地政学」see⇒***ge*** ）/ logistics（「兵站・兵站学・物流」・「兵站（へいたん）」という言葉は少し説明を要する。戦争の際の「補給部隊」のことだ。戦争は「飲まず食わず」で戦うのではない。腹が減っては戦はできない。負傷する人間も出る。見殺しにするわけにはいかないから医師団も必要だ。これらがしっかりしていて初めて戦争で勝利できる。むしろこちらの方が前線部隊より重要だ。古代ローマ軍が強かったのはこの「兵站」がしっかりしていたからだといわれている。この単語の語源は、スペルから logos「言葉」を連想してしまうが実は無関係。北欧の言語（ノルド語）で「丸太<log>」に由来する。lodge「山小屋」などが有名だ。そして兵隊が小屋に駐屯していたことからこの logistics が生まれたようだ。かの秘密結社「フリーメイソン」の地方支部も「ロッジ」と呼ぶ。log / log book「航海日誌」などの log もこの「丸太」だ。長期の航海で日付が分からなくなるので、丸太に刻みを入れて何日航海したかを記録したことによるのだとも、丸太を船首から船尾にまで流し、船の速度を測定したことに由来するとも言われる。昔の「スター・トレック」などでも物語は必ず「star log date・・・（宇宙航海日誌。日付・・・）」などという台詞から始まっていたと記憶している。子供のころ記憶なので定かではないが・・。また今流行りの「ブログ<blog>」も「b = web」と「log」の合成語であるし、log in / log out なども同様である。

(30)pono - ponere - posui - postus(or positus) [***ポーノー・ポーネレ・ポスイー・ポストゥス or ポスィトゥス***] ***<羅>*** = put / position「置く」から「置かれた場所・置かれた物」を意味する。ここから post が「柱・地位・ポスト・郵便・手紙を投函する」などの意味が生まれた。「後ろの」の post と区別すること！またラテン語で「橋」のことを ***pons - pontis*** [***ポンス・ポンティス***]と言うが、これも ***pono*** の派生語だ。「川の上に置かれたもの」ということらしい。お馴染みの put「置く」もまた pos から派生した単語だ。

c-d-e-i) compose（「作曲・作文する」・作文は単語を一緒<com>に置く・・こと。see⇒***cum*** ）/ composition（「作文・作曲」）/ component（「組成・成分」・ステレオなどの「コンポ」はこの「コンポーネント」だ。）/ composure（「平静・沈着」・ばらばらになった気持ちを一つ<com>にまとめること。所謂「精神統一」だ see⇒***cum*** ）/ composite（「合成の」・これも「一緒<com>に置く」が原義。see⇒***cum*** ）/ dispose（「処分する・配置する」・「ばらばら<dis>にして置く・・」の意。大きなゴミでは回収してもらえない。see⇒***dis*** ）/ disposal （「処分」）/ disposable（「処分できる・使い捨ての」）/ disposition（「性質」・心の配置・在り様。）/ deposit（「内金・預金・保証金」・相手に預け置くお金。ホテルに泊まるときやアパートを借りる時は、海外では必ず一定金額のお金を予め支払わなくてはならない。これを「デポジット」と言う。日本で言う「敷金」だ。see⇒***de*** ）/ expose（「暴露する」は外<ex>に置く・・だ。see⇒***ex*** ）/ exposure（「暴露・露出」）/ impose（「(税金などを）課す・押しつける」im = in = on で「上<on>から押しつける」だ。 see⇒***in①*** ）/ imposing（「堂々たる」・「威圧感がある」ということ。）

o) oppose（「反対する」・「～に反対<op = ob>して置く」が原義。see⇒***ob*** 反対の立場に自分を置くこと。「～に反対する」は be opposed to ～ing という受動態の形にして用いる。oppose は「他動詞」で「～に反対させる」だから、「自分自身を反対させる」⇒「反対する」となる。一方 object は object to ～ing と、これは完全な「自動詞」。そのまま使えばいい。see⇒***jacio / ob*** ここで登場する to は「不定詞ではなく前置詞」だから、うしろは「原形」ではなく「動名詞（または名詞）」だ。中 1 で学習する go to school の to だ。）/ opposite（「反対の」）/ opponent（「敵」）/ opposition（「反対」）

pos-pre-pro) position（「場所」）/ posture（「姿勢」）/ pose（「姿勢を取る・ポーズを摂る」[ポウズ]・一方 pause[ポーズ]は「一息いれる・区切り」というまた別の単語だ。）/ positive（「積極的な・自信のある」・「地位・柱」から「不動の」⇒「自信に満ちた」となった。また「比較」の単元で登場する「原級」もこの positive だ。因みに comparative が「比較級」see⇒***para***。superlative が「最上級」see⇒***super / latus*** となる。）/ postpone（「延期・後回し」・後ろ<post>に置く。see⇒***post*** ）/ postponement（「延期」）/ preposition（「前置詞」・「(名詞の）前<pre>に置く物」の意。see⇒***pre*** ）

pro) propose（「提案する・結婚を申し込む」は pro「前に」差し出すこと。see⇒***pro*** ）/ proposal（「提案・結婚申し込み」）/ proposition（「提案」・proposal との差はあまりないようだ。高校レベルでは気にしなくていいだろう。ただし「結婚申し込み」の意味は、こちらにはない。「ナンパ」という意味はあるらしいが・・。）/ proponent（「擁護者・支持者」・pro は op の反対語。プラスの意味を連想すればいい。see⇒***pro*** ）

pur) purpose（「目的」・pur = pro だ。「前<pro>に置かれた<pono>物」の意。馬の目の前にニンジンをぶらさげて、走らせるわけだ。see⇒***pro*** ）/ purchase（「購入する」see⇒***capio*** ）

r) repository（「保管所」・再び<re>置く場所・・の意。「墓場」の意味もある。なるほど人間が再び<re>置かれる<pos>場所・・だ。人は「土から生まれて土に還る」のだ。「後ろに」の re でもいいと、個人的には思うのだが。see⇒***re*** ）

s) suppose（「思う・考える」・sup = sub だから「下からそっと控えめに自分の考えを差し出す・・」といった感じだ。「もし意見を言わせてもらえるなら私はこう考える・・」というニュアンスだ。see⇒***sub*** ）/ supposition（「推測・想定」）

(31)porto - portare - portavi - portatus [ポルトー・ポルターレ・ポルターウィー・ポルタートゥス] ***<羅>*** = carry / harbor「運ぶ・通す・港」・fer[フェル] / for[フォル] / por[ポル] はつながっており ***fero*** の親戚の単語だ・・と ***fero*** にも書いた通りだ。see⇒***fero*** さらに fer は per「～を通して」/ pre「前で」/ pro「前に」ともつながりがある。「通す」は「前に通す」の意味だからだ。see⇒***per / pre / pro*** / 「運ぶ・通す」から「港」の意味が出た。したがって「港」で覚えてもあまり使えない。por はまた per / par / pear にも変化する。

a) appear（「現れる」・ラテン語の ***pareo*** [パレオー]で「現れる」だが、さらに遡れば ap(=ad) + potro で「～の方向に<ad>通す」⇒「姿を現す」となる。see⇒***ad / trans*** ）/ appearance（「外見」） / apparent（「明らかな」see⇒***-ans*** ）/ apparently（「①一見したところ ②明らかに」）/ airport（「空港」・「空の港」だ。）

d-e-i-o) disappear（「消える」see⇒***dis*** ）/ disappearance（「消失」see⇒***-ans*** ）/ export（「輸出」・「外へ<ex>運ぶ」の意。see⇒***ex*** ）/ important（「重要な」・輸入<import>するのは重要なもの。see⇒***-ans*** ）/ import（「輸入」・文字通り「中へ<im = in>運ぶ」。see⇒***in①*** ）/ opportunity（「機会・チャンス」・***ob portus veniens*** [オブ・ポルトゥス・ウェニエンス]「港に対し<op = ***ob***>て近づいて<***venio***>いる」が原義だそうな。確かにこのチャンスを逃したら陸には上がれない。see⇒***ob / venio*** ）/ opportune（「好都合の」・これらは port「港」が「都合がいい」ことから来ている。）

p-r-s) port（「港」）/ passport（「パスポート」・港<port>を通る<pass>とき必要。）/ portable（「携帯用の・持ち運び可能な」・携帯電話は portable phone だ。）/ porter（「ポーター」・ホテルの荷物運びのボーイさんのこと。）/ report（「報告する」・「情報を持ち返る<re>」の意。see⇒***re*** ）/ sport（「スポーツ・気晴らし」・disport の di が欠落した。「離れて運ぶ」⇒「日々の暮らしから離れる<dis>こと」が原義。港から海外へ旅行に行く様子を想像すればいい。see⇒***dis*** ）

t) transport（「輸送する」・「トランスポーター」という映画もあった。直訳すれば「運び屋」だ。 see⇒***trans*** ）/ transparent（「透明な」・「越えて<trans>姿を現す・・」だ。appear のところで説明した。see⇒***trans*** ）/ teleportation（「テレポーテーション」・ご存知、超能力者の「瞬間移動」だ。tele は ***telos<希>***「遠く離れた」。see⇒***tele*** ） / また tele が出たついでに仲間の単語を列挙しておこう。telephone（「電話」は遠くと「話す」こと。***phono = φωνω*** [フォーノー]はギリシャ語で「話す」。see⇒***fabula / tele*** ）/ telegram（「テレグラム・電報」は遠くへ書くもの。 see⇒***grapho / tele*** ）/ telescope（「望遠鏡」は遠くを見る<scope>もの・・などに使われている。see⇒***skopo / tele*** ）

(32)possum - posse - potui [ポッスム・ポッセ・ポトゥイー] ***<羅>*** = can「～できる」・***potentia*** [ポテンティア]***<羅>*** = power「力」/ potential

「潜在能力」・ラテン語の文章では後ろに「原形不定詞」を取り、can と同じように使う。

possible（「可能な」）/ possibility（「可能性」）/ impossible（「不可能な」・映画「ミッション・インポッシブル」ですっかり認知された。「不可能な使命」という意味だ。im は反対語。see⇒***in②***）/ impossibility（「不可能」）/ possess（「所有する」・力があるから所有できる。see⇒***sido***）/ possession（「所有・所有物」・「ポゼッション・サッカー」などと言う。自分たちがボールを持っている限り相手に得点されることはない・・という考え方だ。つまり自分たちの間で細かいパスを回しゴールを狙う。これによってワールド・カップを制したのが「無敵艦隊」の異名を取るスペイン代表だ。もっともこの戦法にはリオネル・メッシの如き「天才的ストライカー」が不可欠となるが。）/ potential（「潜在的な・潜在能力」・「ポテンシャルが高い・・」とサッカーでも言う。）/ omnipotent（「全能の」・see⇒***omnis***）

(33)post **[ポスト]** ***<羅>***「後ろ」・「ポスト安倍」などという。「安倍首相の次に総理の座を得るのは誰か？」という意味だ。英語読みでは[ポウストゥ]となる。「郵便・地位・柱」の post と区別！see⇒***pono***

p.m.（「午後」・***post meridiem***「正午の後で・・」の意。see⇒***ante / medius / dies***）/ postscript = p.s.（「追伸」・see⇒***scribo***）/ posterity（「子孫」・我々のあとからやってくるものだから。日本語でも「後世おそるべし」と言う。「若者たちの中からどんな凄い奴が出てくるかわからない」という意味だ。）/ postpone（「延期する」see⇒***pono***）/ posterior（「～より後の」・-ior はラテン語の「比較級」。see⇒***superior***）/ posthumus（「死後の」see⇒***humus / -osus***）

(34)pre ①「前に・で（場所）」・これに対して「動き」を表すのは ***pro***「前へ」だ。もともと ***pre*** があり、そこから ***pro*** が派生したようだ。ただし ***pro*** の中には ***pre*** の意味を残しているものもあり、境界線は曖昧だ。ややこしければ pre = pro として覚えてもいい。さらに遡れば for とも同根だ。pre = pro = for = por = pur となる。see⇒***pro / fore***

prec) precise（「正確な」see⇒***cado***）/ precede（「先行する」・みんなの前で進むこと。see⇒***cedo***）

pred) predict（「予言する・予測する」see⇒***dico***）/ predominant（「圧倒的な」see⇒***domus***）

pref) preface（「序文」see⇒***fabula***）/ prefecture（「県」see⇒***facio***）/ prefer（「好む」see⇒***fero***）

preg-prej) pregnant（「妊娠した」see⇒***nascor***）/ prejudice（「偏見」・前もって判断してしまうこと。see⇒***jus***）

prel) prelude（「プレリュード・前奏曲」see⇒***ludo***）/ preliminary（「予備の・準備の」see⇒***limen***）

prem) premise（「前提・土地建物」see⇒***mitto***）/ premium（「割増金・高級品」[プリーミアム]・pre「前もって」+ emo「買う」だ。***emo - emere - emi - emptus*** と変化する。「チケットをプレミア付きで売りさばく」などと言う。筆者が某流派の空手世界選手権大会を観戦しようとでかけた時のことだ。会場前でおかしなおじさんに呼び止められた。「チケットは売り切れです。でもここに残り一枚あります。あなたは運がいい。ちょっとお高くなりますが・・」と「ダフ屋」が近づいてきた。丁寧にお断りして会場に入ると、ちゃんとチケットは売っていた。受験生諸君も用心することだ。一方サッカーの「プレミア・リーグ」の「プレミア<premier>」は ***primus***「第一の・最高の」の意味だ。「（映画などの）上演初日」という意味での「プレミア」は premiere と書く。発音は[プレミア]でまったく同じ・・と覚えていい。see⇒***primus***）

prep-pres) preposition（「前置詞」・「前に置く物」の意。何の前かといえば「名詞の前」だ。see⇒***pono***）/ prepare（「（前もって）準備する」see⇒***para***）/ present（「出席している・現在の」see⇒***est***）/ prescribe（「処方する」see⇒***scribo***）/ preserve（「保存する」see⇒***servo***）/ prestige（「名声」・由来は see⇒***stringo***）/ presume（「推定する」see⇒***sumo***）/ president（「大統領・社長」・「前に座る者」の意。see⇒***sido / -ans***）

pret-prev) pretend（「～のふりをする」see⇒***tendo***）/ pretext（「口実」see⇒***texo***）/ prevent（「防止する」see⇒***venio***）/ previous（「以前の」see⇒***via / -osus***）

その他) represent（「象徴する・表す・代表する」see⇒***re / est***）

(35)prehendo - prehendere - prehendi - prehensus ***[プレヘンドー・プレヘンデレ・プレヘンディー・プレヘンスス] <羅>***= seize / catch「先<pre>まわりしてつかむ<hend>」の意。・hend= hand「手」・また「つかんだ物」⇒「価値のある物」⇒「価値を認める」⇒「感謝する」と、どんどん意味が広がってゆく。また pris / prec などに変化する例も多数あり、かなり戸惑われるかもしれないが、これもやはり「フランス語経由」組であるからご理解いただきたい。

a) appreciate（「評価する・感謝する」・～に対し<ad>て価値を認めること。I really appreciate it.「本当に感謝しています。」などと使う。目的語は人ではなく物（相手の行為）だから注意！一方 Thank you for your help.などと thank は thank 人 for 物・・の形で使う。）/ appreciation（「感謝」）/ apprehend（「理解する・意味をつかむ・（犯人・獲物などを）捕らえる」・～の方向<ap = ad>へ向かって手を伸ばすこと。「逮捕する」は～の方向<ap = ad>へ先回り<pre>して hend = hand = have「つかむ」の意味だ。後手に回ると犯人を取り逃がす。see⇒***ad***）/ apprehension（「理解」）

c-e-i) comprehend（「理解する」は com「すべて」・pre「前もって」・have「つかむ」の意味。所謂「リスニング・テスト」は listening comprehension test だ。see⇒***cum***）/ comprehension（「理解」・すべて<com>理解する。）/ comprehensive （「包括的な・網羅する範囲の広い」・「すべてつかんでいる」・・から。）/ comprise（「～含む・構成する」・prise = prehend・構成要素をすべて<com = ***cum***>その中に含んで（手にして）いること。be comprised of ～= consist of ～= be composed of ～= be made up of ～「～から構成されている・成り立っている」see⇒***cum***）/ enterprise（「事業」・価値あるものめがけて手を突っ込む<enter>こと。see⇒***inter***）/ interpret（「通訳する」・間<inter>に入って意味を取り持つこと。see⇒***inter***）/ interpreter（「通訳」・simultaneous interpreter「同時通訳」については・・see⇒***sim***）/ interpretation（通訳すること・解釈」）

p-s) prize（「賞」・「賞」はつかみ取る物。）/ prison（「牢屋」・罪人をつかまえておく所。）/ precious（「貴重な」・つかみ取ったものは貴重だ。see⇒***-osus*** ）/ price（「値段」価値あるものにはいい値段がつく。）/ priceless（「計り知れない価値がある」 see⇒***valeo*** ）/ praise（「褒める」・価値を認めて称賛する。）/ prey（「餌食」・つかまえられたもの。反対語は predator「捕食者」だ。「エイリアンとプレディター」で一躍認知された。）/ surprise（「驚かせる」・上<sur>からつかまれたら誰でも驚く。see⇒***sur*** ）

(36) premo - premere - pressi - pressus [プレモー・プレメレ・プレッスィー・プレッスス] <羅> = press「圧迫する・押す」

c) compress（「圧縮する」・コンプレッサーは圧縮機だ。みんな<com>集めて「ギュー」だ。see⇒***cum*** ）

d) depress（「意気消沈させる」・de = down・日本語でも「落ち込む」と言う。英語では be depressed とすればいい。see⇒***de*** ）/ depression（「憂鬱・意気消沈・不景気」・the Great Depression で「世界大恐慌<1929>」となる。）

e) express（「表現する」・外<ex>に自分の意見を押し出すこと。see⇒***ex*** ）/ expression（「表現・表情」）

i-o-s) impress（「印象を与える」・im = in / see⇒***in①*** ）/ impression（「印象」・フィギュア・スケートで認知されるようになった単語。）/ impressive（「印象的な」）/ oppress（「抑圧する」op =ob「～に反対して」・独裁者が民衆を鎮圧するときなどに使う。see⇒***ob*** ）/ oppression（「抑圧」）/ suppress（「鎮圧する」・下<sup = sub>へ押すこと。see⇒***sub*** ）/ suppression（「鎮圧」）

(37) primus - prima - primum [プリムス・プリマ・プリムム] <羅> = first「最初の」・prim / prem / prin にも変化する。

prim-prin) prime（「第一の」）/ prime minister（「総理大臣」see⇒***minus*** ）/ primary（「最も重要な・初等教育の」）/ primary school（「小学校」・米国では elementary school と言う。）/ primary education（「初等教育」）/ primitive（「原始的な」・「その種の中で最初の」が原義。逆に「派生的な（それに伴って、後で出てきたもの）」は derivative だ。see⇒***rivus*** ）/ primate（「霊長類」・レスリングで「アレクサンダー・カレリン」というロシアの選手がかつていた。キャッチ・フレーズは「霊長類最強の男」だ。）/ principal（「主要な・校長」）/ principle（「原理・原則」・アイザック・ニュートンの著書に「プリンキピア（自然哲学の数学的諸原理）」という大著がある。「ニュートン力学」の集大成だ。ラテン語で書かれており ***Philosophiae Naturalis Principia Mathematica [フィロソピアエ・ナトゥラーリス・プリンキピア・マテマティカ]***だ。出版を薦めたのはかの「エドモンド・ハレー」。ご存知「ハレー彗星」の「ハレー」である。）/ ***princeps***（「第一人者・プリンケプス」）/ ***principatus***（「元首政・プリンキパトゥス」・ともに世界史で登場する。古代ローマは帝国の版図拡大にともなって、「共和制」から「帝政」へと脱却せんとしていた。巨大な版図を効率的に支配するには帝政の方が適しているからだ。300 人もの元老院議員がローマに集まって、ああだこうだと議論していては何も決まらない。しかし共和制を死守せんとする元老院の一派は、カエサルを暗殺してまで歴史の歯車を逆に回そうとした。そこでカエサルの死に学んだ養子「アウグストゥス（オクタヴィアヌス）」は、「元老院の推挙を受ける」という形で皇帝に就任する・・という形を取ったのだ。これを「元首制」と呼ぶ。）/ prince（「王子」・***princeps*** の ps が落ちた。）

その他) premier（「第一級の・最高の」[プリミーア]・イングランド・サッカーの「プレミア・リーグ」がこれだ。see⇒***pre*** ）/ prior（「～より前に」see⇒***superior*** ）/ priority（「優先・優先事項」see⇒***superior*** ）

(38) privus - priva - privum [プリウス・プリウァ・プリウム] <羅> = private「個人の・私的な」・車の「プリウス」は prius で、こちらは earlier / sooner「他者より先んじて・・」の意味で無関係。またギリシャ語では「私的な」は ***idios*** = ι δ ι ω ς[***イディオース***]と言う。**idiotes** = ι δ ι ω τ η ς[***イディオーテース***]で「素人・教養のない人・兵卒」の意だ。idiom「慣用表現・イディオム」や idiot「バカ・間抜け」などはここから来た。従って idiom は「教養のない人々の表現方法」あるいは「私的で自分勝手な表現方法」だったわけだ。

a) appropriate（「適した」・もともとは「(ある特定の個人の目的に）適した」の意。）

d) deprive（「奪う」・文字通り個人の所有物でなくして<de>しまうことだ。see⇒***rivus / de*** / derive「由来する」と似ているので区別すること。derive は derive from ～で「～に由来する」という形で使われる。see⇒***rivus / de*** また「deprive 人 of 物」=「rob 人 of 物」の語順で、「steal 物 from 人」とはちょうど語順が逆である。この違いを突いてくる文法問題も多い。この of は「分離の of」と呼ばれ、人と物を「離れ離れ」にしてしまうことだ。rob は「強奪」だが steal は「気づかれないうちに奪うこと」だ。この名詞形が stealth「ひそかな行為」・発音は[ステルス]。「見えない戦闘機」はこれに由来する。これに似た変化では、heal[ヒール]「癒す」⇒health[ヘルス]「健康」がある。）

p) private（「私的な」・読み方は[プライヴィット]だ。）/ privacy（「プライバシー・私生活」）/ privilege（「特権」・private + leg(= law)「個人の法律」が原義。「自分の好きなようにやれる・・」というほどの意味か？legis は lex「法律」の「属格」だ。see⇒***lex*** ）/ proper（「適切な・本来の」・pro + per (= private)・appropriate と考え方は同じ。「個人の目的に」の意味が軽視され、「適した」の意味が残った。）/ properly（「適切に」）/ property（「財産」・「個人の財産」より。やがて「個人」の意味はどうでもよくなった。）

(39) pro ①「前へ・・(動作)」②「～のために（利益）・～に賛成して」また③「～の前で（場所）」の意味を引きついでいるものも見られることは ***pre*** のところでも述べた。pro = pre = for = por = pur だ。反対語は ***contra*** だ。see⇒***pre / fore***

pro 関係) problem（「問題」see⇒***ballo*** ）/ proclaim（「宣言する」see⇒***clamo*** ）/ proceed（「前進する」see⇒***cedo*** ）/ process（「過程」see⇒***cedo*** ）/ produce（「製造する」see⇒***duco*** ）/ profession（「職業」see⇒***fabula*** ）/ profit（「利益」see⇒***facio*** ）/ progress（「進歩する」see⇒***gradus*** ）/ prohibit（「禁止する」see⇒***habeo*** ）/ ***Prometheus*** = Π ρ ο μ η θ ε υ ς[***プロメーテウス***]（「プロメテウス」・ギリシャ神話の神の名前。「先見の明がある」が原義。see⇒***mens*** ）/ promise（「約束・約束する」see⇒***mitto / penetro*** ）/ promote（「昇進させる」see⇒***moveo*** ）/ prominence（「プロミネンス」 see⇒***mineo / -ans*** ）/ pronounce（「発音する」see⇒***nuntio*** ）/ propaganda（「宣伝」see⇒***pax*** ）/ propeller（「推進装置・プロペラ」see⇒***pello*** ）/ prophet（「預言者」see⇒***fabula*** ）/ proponent（「擁護者・支持者」see⇒***pono*** ）/ propose（「提案する」see⇒***pono*** ）/ pros and cons（「賛否両論」see⇒***contra*** ）/ prosecute（「訴える」see⇒***sequor*** ）/ prospect（「見込み」see⇒

specio ）/ protest（「抗議する」see⇒***testa*** ）/ provide（「供給する」see⇒***video*** ）/ provoke（「刺激する」see⇒***vox*** ）/ compromise（「妥協する」see⇒***cum / mitto*** ）

pur) pursue（「追及する」see⇒***sequor*** ）/ purchase（「購入する」・pro ⇒ por ⇒ pur となった。see⇒***capio*** ）/ purpose（「目的」see⇒***pono*** ）

(40) probo - probare - probavi - provatus [プロボー・プロバーレ・プロバーウィー・プロバートゥス] <羅> = prove / show / demonstrate「（良いものだと検査を経て）証明すること」が原義。・b が v に変化。***habeo*** ⇒ have だ。see⇒***habeo***

a) approve（「是認する」・良いと証明されたものだけを認める方向へ<ap = ad>だ。see⇒***ad*** ） / approval（「是認」）

d) disapprove（「反対する・認めない」see⇒***dis*** ）/ disapproval（「反対」）

i) improve（「改善する」・「中で<im = in>試す」の意。see⇒***in①*** ）/ improvement（「改善」）

p) prove（「証明する」[プルーヴ]・probe と間違えないこと！）/ proof（「証拠」・v ⇒ f に変化。）/ probe（「探査機・探査する」・発音は[プロウブ]であり[プルーブ]ではない。もともとは宇宙に派遣する「探査機」をこう称した。筆者は「スタート・レック」でこの単語とはじめて出会った。今では「ナノ・プローブ」など、人間の体内に侵入させることのできる超微小の検査機器の名称にもなっている。「ナノ」は「10 億分の 1」を表す。「1000 分の 1」は「ミリ」、「100 万分の 1」は「マイクロ」だ。科学も進歩したものだ。「単位」については see⇒***mikros*** ）/ probable（「ありそうな・有望な」・検査に耐えられてこそ、本当にありそうだと証明できる。）/ probably（「多分」）/ probability（「見込み」）/ proud（「誇り高い」・検査を経て良い物だと証明されれば誇りを持つ。）/ pride（「誇り」・また pride には「（ライオンの）群れ」という意味もある。「群れ」は英語では動物によってさまざまだ。日本人が「魚」の名前を細かく使い分けるように、遊牧民族である彼らは「群れ」という表現にこだわりを持っている。故に英語を学ぶ上で、主だったものは覚えておくといい。「鳥」は flock。「牛・豚」は herd。see⇒***capio*** しかし「羊」となると再び flock となるからややこしい。「なぜ羊は鳥の仲間なの？」という問いには諸説あるようだから、調べてみると面白い。もっとも「毛の有無」で区別すれば解決するわけだが・・。また「魚」は school②。だから「メダカの学校は～♪♪」と歌うが、これは誤訳。「メダカの群れは～♪♪」が正しい。もっともこれに対する反論も最近はあるようだ。Birds of a feather flock together.「類は友を呼ぶ」という諺もある。「同じ羽毛を持った鳥は群れる」が直訳。ここでの a は the same「同じ」の意味だ。）

w) water-proof（「防水の」・「水に強いと検査を経て証明された・・」が原義。）

(41) proximus - proxima - proximum [プロキシムス・プロキシマ・プロキシムム] <羅> = nearest「もっとも近い」・「近くに」という副詞は ***prope [プロペ] ⇒ propius [プロピウス] ⇒ proxime [プロクィスィメー]***と変化するが、その「形容詞・最上級」だ。

approximately（「おおよそ」・～に向かって<ap=ad>近くに・・の意。日本語でも「近似値」と言うではないか。see⇒***ad*** ）/ approximate（「おおよその」）/ approximation（「接近・近似すること」）/ proximity（「近似」） / ***Proxima Centauri***（「プロキシマ・ケンタウリー =（ケンタウルス座・アルファー星）」は、太陽にもっとも近い恒星として理科の時間に習ったはず。地球から 4・8 光年の距離にある。「ケンタウリ ***<i>***」は「ケンタウルス ***<us>***」の「属格（所有格）」で「ケンタウルスの」の意味だ。）/ approach（「近づく」・ap=ad / see⇒***ad*** ）/ reproach（「非難する」・何度も繰り返し<re>嫌がらせしに近づいてくること。see⇒***re*** ）

(42) psyche = φυχη ***[プシュケー]「霊・魂・心」<希>***・もともとはエロスの神が愛した美少女の名前である。文頭の p は英語では「サイレント（黙字）」なので読んではならない。何とも奇妙なスペルだが・・・。

psychology（[サイコロジー]「心理学」see⇒***logos*** ）/ psychological（「心理学的な」）/ psychologist（「心理学者」）/ psychedelic（[サイケデリック]「幻覚を起こさせるような」・劇画「タイガーマスク」にも、「サイケデリコ」なる覆面レスラーが登場する。何と「千の顔を持つ男・ミル・マスカラス」の実弟・・という設定だ。無論原作者である梶原一騎の創作であろうが・・。）/ psychoanalysis（「精神分析（学）」see⇒***laxo*** ） / psychic（「精神の・心霊の・超自然的な」・「サイキック・パワー」などと言う。そう言えば、かつて「スプーン曲げ」で一世を風靡した「ユリ・ゲラー」という超能力者がいた。イギリスの「EU 離脱」騒動でまたしてもお茶の間を賑わせているようだ。元気で何よりだ。懐かしい。）

(43) publicus - publica - publicum [プブリクス・プブリカ・プブリクム] <羅> = public「公の」

public（「公の」）/ publish（「出版する」・公の目にさらすこと。）/ publication（「発表・出版」） / publicity（「周知・知れ渡ること」）/ republic（「共和国」・***res + publica [レス・プブリカ]***「公の物事」が原義。ここから古代ローマでは「国家」の意味になった。***res*** = thing「物・事」だ。故に国家は決して私物化してはならない。どこの国とは言わないが。「塩野七生（ななみ）」女史の大著「ローマ人の物語」で一躍周知された単語だ。全 15 巻からなり、各巻がそれぞれ 500 ページ程度だからトータルで 7000 ページ以上にも及ぶが、面白くて一気に読み終えた。続編の「ギリシャ人の物語」全 3 巻もお薦めだ。因みにラテン語・ギリシャ語は、ほとんどすべて形容詞は「後置修飾」。something new「何か新しいもの」など something / anything / nothing は「形容詞を後ろに取る特殊な名詞だ・・」と中学で習ったはずだが、実は「形容詞を前に置く英語の方が特殊」だったのだ。またメールなどの文章の最初に ***re)*** などとついているのを目にしたことがあるだろうが、これがその ***res*** の「奪格（前置詞を内部に組み込んだ目的格）」だ。「ある物事について・・(= about something)」を意味する。return「返信」の re ではない。「～という事について書きますよ」ということだ。real（「現実の」）/ really（「本当に」）もこの ***res / re*** から来ている。「現実に存在する物」という意味だ。）/ reality（「現実」）

(44) puto - putare - putavi - putatus [プトー・プターレ・プターウィー・プタートゥス] <羅> = think / count「考える・数える」・ここから「整理する」⇒「順序だてて説明する」となった。また ***computo - comptare [コンプトー・コンプターレ]***という単語もあり、似たような意

味を持つ。話が長くなるのでこちら関係は最後にまとめた。

a) account（「考慮・説明」・「～に対して<ad>説明する」だ。また銀行の「口座」という意味もある。筆者はイギリス滞在中、バークレイ銀行で口座を開設した際この単語を知った。動詞は文字通り open を使えばいい。また take ～ into account「～を考慮に入れる」や It is no use doing～「do しても無駄だ」.などは受験生の必須熟語。It is no use accounting for tastes「蓼（たで）食う虫も好き好き（人の好みは説明がつかない）」という諺で昔の受験生は覚えた。「蓼食う虫も好き好きの構文」と、高校時代の英語の恩師は教えてくれた。ac = ad / see⇒***ad*** ）/ accountability（「説明責任」・「アカウンタビリテイー」はすでに日本語。企業が株主に対してお金の使い方を説明することから始まり、政治家が国民に対して果たさねばならない説明責任まで、広範囲で用いられる。）/ accountant（「会計士」see⇒***-ans*** ）

c) compute（「計算する」・「共に<com>考える・・」が原義。see⇒***cum*** ）/ computer（「コンピューター」）

d) dispute（「議論する」・dis は「離れて」の意。個々人がそれぞれ（バラバラ）の考えを持ち寄って戦わせること・・という意味だ。see⇒***dis*** ）/ discount（「割り引く・割引」・勘定に入れないこと。「ディスカウント・ショップ」といっても、最近の若者には通じないようだ。それほどお金に困っていないのか？see⇒***dis*** ）

r) repute（「評判・評する」・有名人は何度も<re>人の脳裏に蘇るからだ。）/ reputation（「評判」see⇒***re*** ）

computo 関係) count（「数える」・ちょっと意外な変化だが、***puto - putare*** 以外にも ***computo - computare*** **[コンプトー・コンプターレ]**というラテン語があり、これも「数える・考える」の意味がある。やがて mp が消えて[コウトー]から[カウント]となった。counter①（「(バーなどの）カウンター（席）」）もこちらだ。see⇒***contra*** もともとは「お勘定台」の意で、お金を「数えた（清算した）」ことから来ている。バーテンさんと「向かい合って」いるから「カウンター」なのではない。一方ボクシングの「カウンター<counter②>」は「数える」とは無関係。こちらは ***contra*** 「～に対して」の派生語だ see⇒***contra*** ）

Q

(1)quantus - quanta - quantum **[クアントゥス・クアンタ・クアントゥム] <羅>** = how much「どれくらい（量）」を意味する。・また ***qualis*** **[クアリス]**= how「どのように（方法）」 であり ***quotus*** **[クオトゥス]** = where「どこに（場所）」だ。ややこしいので「***qu*** = 疑問詞」程度の把握でいいだろう。筆者もラテン語歴はかれこれ 12 年くらいなるが、この ***qu*** 関係は未だに苦手ですぐに辞書に手が伸びる。

quantity（「量」・量はどれくらい***<quantus*** = how much***>***かな？から来ている。）/ quantitative（「量の」）/ quality（「質」・品質はどう***<qualis*** = how***>***かな？・・から。）/ qualitative（「質の」）/ qualify（「資格を与える」・qualifying game は「予選」だ。see⇒***facio*** ）/ qualification（「資格」・英検の賞状にはこの文字が記されているはずだ。早い話が諸君の英語力の品質証明書だ。）/ quote（「引用する」）/ quotation（「引用」）/ quotation marks（「引用符」・・もともと「どこの<***quotus*** >部分か？」から来ている。「(引用箇所は）ここの部分ですよ」と示す印となった。「直接話法」などに書き換えるとき用いる“〇〇〇”という符合のことだ。）/ quota（「割り当て」・「ここからここまでがあなたの取り分ですよ」が原義。また ***quotus*** にも「量」の意味がある。）/ quantum theory（「量子論」・quantum = how much だから文字通り「どれくらいの量？」だ。「量子」とは、諸君らが物理などで学習する「陽子」や「中性子」、「電子」や「光子」、「ニュートリノ」や「クオーク」など、原子より小さい粒子の総称である。）

(2)qui - qae - quod - quem - quam **[クイー・クアエ・クオッドゥ・クアム] <羅>** = who / what ラテン語の「疑問詞・関係代名詞」でさらに様々な形に変化するが、代表的なものを順不同に羅列してみた。***qu*** が目印だ。「何かを求める」・「何かちょうだい！」という感覚を想像してもらえれば間違いない。また ***quaero - quaerere*** **[クワエロー・クワエレ]**「探し求める・探求する」という動詞もある。(1)で紹介した ***quantus*** とも親戚だ。この「ク」、「ケ」の音が中国では「求」となったという説もある。「ク」⇒「キュウ」となったわけだ。

a) acquire（「獲得する」・～の方向<ac = nad>に求める。 see⇒***ad*** ）/ acquisition（「獲得」）/ antique（「骨董品の・古くて価値のある」・anti = ***ante*** = before だから「昔を望む」だ。see⇒***anti*** ）/ antiquity（「古さ・古代の遺物」）

c) conquer（「征服する」・すべて<con = com>要求すること。発音は[コンカー] see⇒***cum*** ）/ conquest（「征服」・発音に注意。[コンクウェスト]と[w]の音が入る。かつてセンター試験で出題があった。かなりセコい出題だ。）/ conqueror（「征服者」[コンカラー]・またこれをスペイン語で言うと「コンキスタドール」、あるいは「コンキスタドーレス」となる。1492 年の「コロンブス」の「新大陸発見（？）」とともに、一攫千金を夢見る無法者たちがどっと南北アメリカになだれこんだ。その煽りをくって、メキシコでは「アステカ文明」が<1522>、南米では「インカ文明」が<1534>滅亡する。前者の犯人は「エルナン・コルテス」。後者の犯人は「フランシス・ピサロ」だ。彼らを称して「コンキスタドール」または「コンキスタドーレス」と呼ぶ。前者が単数形、後者が複数形だ。ラテン語でもまったく同じ形である。まったくひどい奴らである。因みに 1534 年には、日本では織田信長が生まれている。そんな時代だ。）

e) exquisite（「絶妙の」・ex「徹底して」追い求める・・と「絶妙なもの」が生まれる。see⇒***ex*** ）

i) inquire（「尋ねる」see⇒***in①*** ）/ inquiry（「質問」・「中に<in>探し求める」が原義。）

q-r) question（「質問する」は「答ちょうだい！」ということだ。）/ quest（「探求・探し回る」・「ドラゴン・クウェスト」は「ドラゴンを探せ・・」とでもなるのだろうか？）/ quiz（「クイズ」・「小さな質問」の意。）/ questionnaire（「アンケート用紙・質問票」・アクセントに注意！[クエスチョネアー]だ。）/ require（「要求する」・要求は何度も<re>するもの。see⇒***re*** ）/ requirement（「必要品・必要条件」）/ request（「要請」・何度も<re>求めること。see⇒***re*** ）

R

(1)radix - radicis「ラーディクス・ラーディーキス」<羅>= root「根」・四方八方に根を広げる様子を想像すること。

radius（「半径」・発音は[レイディアス]。数学で登場する 2πr の r がこの radius だ。/ diameter（「直径」・「半径」つながりで「直径」も載せた。see⇒***dia / mens*** ところで meter が出たついでにアクセントを確認しておく。[ダイアミター]だ。アクセントは「meter の直前」にある。他の meter を語尾に持つ単語は ***mens*** の項にまとめた。see⇒***mens*** ）/ radiate（「放射する」・放射線は四方八方に放射される。）/ radiation（「放射能」）/ radish（「大根」・確かに根が四方八方に張り巡らされている。「大きな根」とはよく言ったものだ。horse radish は「わさび」だ。「ビートたけし」の映画ではない！）/ radio（「ラジオ・電波・無線」・確かに四方八方に飛ぶ。）/ radical（「過激・急進的な・「ラジカルな思想・・」などと日本語になっている。「根底から覆そう」と言うのが「過激派」だ。）/ radiant（「光を放つような」see⇒***-ans*** ）/ ray（「光線」・X-ray は「X 線」。Ray Ban「レイバン」はサングラスの名前で、文字通り「光線を禁止<ban>する」だ。筆者も海外を旅するときはお世話になった。特にサハラ砂漠などの乾燥地帯を旅する際は、「レーバン」と「ターバン」の 2 つの「バン」は必須アイテムだ。）/ radioactive fall-out（「放射性降下物」・いわゆる「死の灰」だ。3・11 の大災害は記憶に新しい。see⇒***fallo*** ）/ eradicate（「殺戮する」・徹底して<e = ex>だから、まさに「根絶」だ。see⇒***ex*** ）

(2)rapio - rapere - rapui - raptus [ラピオー・ラペレ・ラプイー・ラプトゥス] <羅>= steal「すばやく強奪する」

rapid（「素早い」・rapid train で「急行列車」となる。）/ rape（「レイプ・強姦する」）/ rapture（「恍惚・歓喜」・心を奪われること。）/ ravage（「荒廃・ひったくる」[ラヴィッジ]）/ ***Ovi Raptol***（「オビ・ラプトル（恐竜の名前）」・「卵泥棒」という意味だが、実は卵を暖めていたことが後に判明した。「まさか爬虫類が子育てはするまい・・・」と、濡れ衣を着せられていたのだ。see⇒***sauros*** 恐竜の既存の概念は続々と書き換えられつつある。ovi は oval「卵型の・楕円の・長円の」という形容詞でラテン語の ***ovum [オウム]***に由来する。また ***Velociraptor [ウェロキラプトル]***という小型恐竜も、映画「ジュラシック・パーク」で有名になった。see⇒***sauros*** velocity「速度」から推測できる通り、「素早い強奪者」が原義だ。velocity はこれも「速度 v」として物理などで登場する。「恐竜は大型化したため滅んだ」などという人もいるが、小学生にもバカにされるから言わない方がいい。彼らは「ドラえもん」を見て、ちゃんと知っているからだ。はっきり言って「半世紀前の説」である。）/ reptile（「爬虫類」・これは別の語源。比較のため載せた。creep「（地面を）這（は）う・密かに忍び寄る」の親戚の単語だ。creep - crept - crept と活用する。車で「クリープ現象」というのもある。また「スーパーマン」の故郷「クリプトン星」も、「ドミトリ・メンデレーエフ」の「元素周期律表」に登場する原子番号 36 の「クリプトン（無味無臭無色の物質）<***Kr*** = ***Krypton*** >」も、reptile / creep と同根語だ。ギリシャ語の ***kryptos*** =κρυπτος[***クリュプトス***]「隠された」に由来する。「アルゴン」に隠れてなかなか発見されなかったからだという。）

(3)ratus - rata - ratum [ラートゥス・ラータ・ラートゥム] <羅> 「数を数えられた」⇒「合理的に考えらえた」・確かに数が合っていたら納得する。また ra は rea にもなる。read の過去・過去分詞が[レッド]であることを考えれば ra[ラ] ⇒ rea[レ]が理解できる。rat ⇒ ras ⇒ reas から reason「理由」が生まれた。

rate（「比率」）/ ratio（「比」[レイショウ]・比率は「～%」などというものだが、「比」は「～：～」と表現する。）/ ratify（「批准（ひじゅん）する」・国際会議で出された条件を母国に持ち帰って締結するかどうかを決定すること。「正当だ」と考えるから「批准」できるわけだ。無論本国の「議会」で否決されれば、条約は締結できない。see⇒***facio*** ）/ ration（「割り当て」）/ rational（「合理的な」）/ irrational（「不合理な」・ir = in で「反対語」。see⇒***in②*** ）/ reason（「理由」）/ reasonable（「理にかなった・納得のゆく」・「リーズナブルなお値段・・」などと言う。）/ read（「読む」・論理的に目を通して納得する・の意。）/ riddle（「なぞなぞ」・何度も読ま<read>ないと解けないから・・。[リードゥ]が[リドゥ]となった。）/ irritate（「イライラさせる」・人は不合理なものにいらだつ。see⇒***in②*** irritated「イライラしている」/ irritating（「いらいらさせるような」となる。）/ irritation（「いらだち」）などの派生語がある。）この irritate も不思議な単語だ。日本語とそっくりである。ラテン語で ***irritatus [イッリータートゥス]***というが、筆者には「イラっとする」に聞こえた。こうした日本語とラテン語・ギリシャ語に共通した単語は、これらの言語を勉強していると結構お目にかかる。かつて「かなりの数のラテン語が、古代のある時期日本語に流れ込んだ」という説があった。提唱者は「与謝野達（とおる）」さんという。名前から推測できる通り、「与謝野鉄幹・晶子」夫妻ご子孫だ。厳密にはお孫さんにあたり、政治家の故「与謝野馨（かおる）」さんの弟に当たる。無論余りの突飛さに、学会は冷笑をもってこの学説を無視したのだった。筆者もこの本を入手し読んでみたが、確かにかなりの「強引さ」が目立つ。「牽強付会（けんきょうふかい）」というやつだ。しかしまんざら根拠のない説でもないことが、最近の「DNA 研究」で証明されつつある。「日本人の DNA は中国・朝鮮とはまったく違う」というのだ。ここで言う DNA とは「Y 染色体 DNA（父系）」であり、「ミトコンドリア DNA（母系）」ではないのだが、中国・朝鮮の DNA はほぼ 100%が「ハプロタイプ（後述）」で「O タイプ」なのに対して、日本人の DNA の 30%は「D タイプ」という「古い」タイプに属するらしい。では我々の仲間は他にどの地域に見られるかと言えば、「チベット」と、何と「東地中海」だというのだ。どうして地球の反対側に我々の「親戚」がいるのか？ というよりどうして地球の反対側にしか、我々の親戚がいないのか？太古、東地中海地方から日本列島に大規模な民族流入があったらしいことは昔から指摘されてきたが、「偶然の一致だろう」ということで無視され続けてきた。しかし科学の進歩に伴って、これらの説にも再考の動きが高まっている。「人文科学」が「どうせ神話だろう・・」と否定してきた歴史上の記述が、「自然科学」の分野から「事実だった・・」と解き明かされようとしているのだ。さてこの DNA 解析のニュースを聞いて、多くの日本人は「驚く」というより「やっぱり・・」というリアクションの方が多かったようだ。昨今の国家的対立で、「顔は似てるのにどうして考え方がこんなに違う

の？」と、多くの日本人は頭を悩ませていたからだ。因みに「ハプロタイプ」の「ハプロ」は ***haplos*** = α π λ ο ς[ハプロス] = half「半分」の意で、ここでは「父方の DNA（Y 染色体 DNA)」のことである。ご存知子供は父親と母親から、「減数分裂」した半分ずつの染色体（X or Y）をもらう。）

(4)re ①「再び・繰り返して」②「元へ・後ろへ」③「反～」

rea-reb) reaction（「反応」see⇒***ago*** ）/ reassure（「安心させる」see⇒***curo*** ）/ rebellion（「反乱」see⇒***bellum*** ）

rec) recreate①（「気晴らしをする」see⇒***creo*** ）/ recede（「後退する」see⇒***cedo*** ）/ receive（「受け取る」see⇒***capio*** ）/ recognize（「認識する」see⇒***cogito / ismos*** ）/ record（「記録・記録する」see⇒***cor*** ）/ recruit（「リクルート・新兵調達」see⇒***credo*** ）/ recur（「繰り返し起こる」see⇒***curro*** ）/ reconfirmation（「再確認」see⇒***firmus*** ）/ recollect（「思い出す」see⇒***lego②*** ）/ recommend（「推薦する」see⇒***mando*** ）/ reconcile（「和解する・妥協する」see⇒***calo / cum*** ）

red) redundant（「余分な・冗長な」see⇒***unda / -ans*** ）/ reduce（「減少させる」see⇒***duco*** ）

ref) refine（「洗練・精製する」see⇒***finis*** ）/ reflect（「反射する・熟考する」see⇒***flecto*** ）/ reform（「改革する」see⇒***formo*** ）/ refrain（「慎む」see⇒***frango*** ）/ refuse（「拒否する」see⇒***fundo②*** ）/ refer（「参照にする・言及する」see⇒***fero*** ）/ refuge（「避難」see⇒***fugio*** ）

reg-reh-rei-rej) regress（「逆行・退行する」see⇒***gradus*** ）/ regret（「後悔する」see⇒***grapho*** ）/ regard（「みなす・考える」see⇒***verto / specio*** ）/ rehabilitation（「リハビリ」see⇒***habeo*** ）/ reincarnation（「輪廻・再生」see⇒***voro*** ）/ reinforce（「補強する」see⇒***fortis / in①*** ）/ reject（「拒絶する」see⇒***jacio*** ）

rel) relate（「関係させる・物語る」see⇒***latus*** ）/ relax（「リラックスさせる・くつろがせる」see⇒***laxo*** ） / relevant（「関係ある」see⇒***levis/ -ans*** ）/ relief（「安心」see⇒***levis*** ）/ religion（「宗教」see⇒***longus / lego②*** ）/ relic（「遺物」see⇒***longus*** ）/ release（「解放する・放出・販売」see⇒***laxo*** ）/ rely（「頼る」see⇒***longus*** ）

rem) remind（「思い出させる」see⇒***mens*** ）/ reminiscence（「回想」 see⇒***mens*** ）/ remedy（「治療」see⇒***medico*** ）/ remove（「除去する」see⇒***moveo*** ）/ remote（「離れた」see⇒***moveo*** ）

ren) renounce（「(権利を）断念する」see⇒***nuntio*** ）/ render（「与える」see⇒***do*** ）/ renaissance（「ルネッサンス・再生」see⇒***nascor*** ）/ renovate（「刷新・修復する」see⇒***nova*** ）

rep-req) repel（「追い返す」see⇒***pello*** ）/ repent（「後悔する」see⇒***penetro*** ）/ repeat（「繰り返しす」see⇒***peto*** ）/ replace（「取り替える」see⇒***placeo*** ）/ replicate（「複製する」see⇒***plico*** ）/ reply（「答える」see⇒***plico*** ）/ repository（「保管所」see⇒***pono*** ）/ reproach（「非難する」see⇒***proximus*** ）/ reputation（「評判」see⇒***puto*** ）/ repair（「修理する」see⇒***para / menda*** ）/ represent（「表す・代表する」see⇒***est*** ）/ report（「報告する」see⇒***porto*** ）/ reproduction（「再生・繁殖」see⇒***duco*** ）/ request（「要請」see⇒***qui*** ）/ require（「要求する」see⇒***qui*** ）/ recreation（「レクリエーション」see⇒***creo*** ）/ revolution（「革命」see⇒***volvo / rota*** ）

res) result（「結果」see⇒***salio*** ）/ resent（「憤る」see⇒***sensus*** ）/ reserve（「予約する・とっておく」see⇒***servo*** ）/ resident（「居住者」see⇒***sido / -ans*** ） / resign（「辞める・辞職する」see⇒***signum*** ）/ resemble（「似ている」see⇒***sim*** ）/ respect（「尊敬する」see⇒***specio*** ）/ respirator（「人工呼吸器」see⇒***spiro*** ）/ respond（「反応する」see⇒***spondeo*** ） / resist（「抵抗する」see⇒***sto*** ）/ restrain（「抑制する」see⇒***stringo*** ）/ resume（「再び始める・要約する」see⇒***sumo*** ）/ resurrection（「復活」see⇒***surgo*** ）/ resource（「資源」see⇒***surgo*** ）/ resonance（「反響」see⇒***-ans / sono*** ）/ research（「調査・研究」see⇒***kyklos*** ）/ restore（「回復する・復興・復元する」see⇒***sto*** ）

ret-reu) retailer（「小売店」see⇒***talio*** ）/ retain（「保持する」see⇒***teneo*** ）/ return（「返る」see⇒***torqueo*** ）/ retort（「言い返す」see⇒***torqueo*** ）/ retreat（「撤退」see⇒***traho*** ）/ reunion（「同窓会」see⇒***unus*** ）

rev) reveal（「暴露する」see⇒***velo*** ）/ recover（「回復する」see⇒***velo / capio*** ）/ reverse（「逆・逆の・逆転させる」see⇒***verto*** ）/ review（「復習」see⇒***video*** ）/ revival（「復活」see⇒***vivo*** ）/ revolt（「反乱を起こす」see⇒***volvo*** ）/ register（「記録・登録する」see⇒***gero*** ）/ revenue（「歳入」see⇒***pendeo / venio*** ）/ reward（「報いる」see⇒***verto*** ）/ revolution（「革命」see⇒***volvo / rota*** ）/ revise（「復習する・改訂・校正する」see⇒***video*** ）

その他) surrender（「降伏する」see⇒***sub / do*** ）

(5)retro ①「遡って」

retrospective（「懐古的な」see⇒***specio*** ）/ retroactive（「法的に訴求効果のある」see⇒***ago*** ）

(6)rex - regis [***レックス・レギス***] ***<羅>*** = king「王」また ***rectus - recta - rectum*** [***レクトゥス・レクタ・レクトゥム***] = right「正しい」/ straight「まっすぐな」・「王様」は常に「正義」なのだ。reg ⇒ rig ⇒ right となったたと筆者は考えているが・・。「レックス」とくれば誰でもまっさきに連想するのが「ティラノザウルス・レックス<T-Rex>」だ。「レックス・恐竜物語」という映画もあった。T の tyrant[タイラント]は「暴君・専制君主」。故に「暴君竜」と訳されている（正確には「竜」ではなく「トカゲ」だが・・)。ギリシャ語の ***tyrannos*** [テュランノス]「僭主（せんしゅ)」に由来。「僭主・ペイシストラトス」という人物も世界史でも登場する。tyranny で「暴政・専制国家」となる。

a) address（「住所・演説する・呼びかける」・「メッセージを真っ直ぐに送る」が原義。「送る場所」だから「住所」だ。ad + ***rectus*** ⇒ address ではないかと筆者は推測する。またこの単語には「対処する・まっすぐ向き合う」の意味もある。see⇒***ad*** ）/ alert（「警戒している」・「J・アラート（緊急地震速報・弾道ミサイル情報)」ですっかり有名になった。ert = erect で、もともとは「監視のための塔」から来ている。塔は垂直に建てられていたからだ。細かい話になるので al = ad「～へ」と考えてもらってほぼ間違いないだろう。「みんな監視塔へ向かえ！」

の意。）

c-d-e-i) correct（「訂正する」・みーんな<con>訂正すること。一部訂正では意味がない。see⇒***cum*** collect「集める」と読み違えないこと。rect は rex で「王」だから「正しい」であり、lect は lego で「言葉を集め、選び抜いて話す・・」だから「集める」だと類推できる。see⇒***lego② / cum*** ）/ correction（「訂正」）/ direction（「指示」・指示するのは王様だ。di = de で「強調」だ。see⇒***de*** ）/ direct（「指示する・直接の」・センターからダイレクトで返球・・などと野球で使う。「まっすぐに<straight>」という意味だ。）/ dress（「着せる」・direct から派生した言葉。「正しくする・まっすぐにする」⇒「正装する」が生まれた。また「着る」は be dressed in ～と受動態にする。「着せられる」⇒「着る」だ。前置詞の in は映画「Men in Black」でお馴染みだろう。d は dis「離れて」で「正装してその場を離れる」だというが、この「離れる」の意味がよくわからない。一方サラダの「ドレッシング」は「野菜の着る衣装」というのが由来である。see⇒***dis*** ）/ escort（「（女性の）付き添い・護送・護衛」・es = ex「徹底して」、cor = correct「正しく」する・・の意。女性をエスコートする際は間違いがあってはならない。犯人を護送するときも・・だ。最近警察のミスが目立つが・・。）/ erect（「建てる」・柱は直角（垂直）に立てるもの。「外に<e = ex>向かってまっすぐ立てること」が原義。elect「（選挙などで）選ぶ」と区別。こちらは「言葉を集め、選んで話す<lect>」から来ている。collect の lect と同じだ。see⇒***lego② / ex*** ）/ irregular（「不規則な」・ir で反対語。see⇒***in②*** ）

rai) rail（「レール」・無論まっすぐだ。monorail（「モノレール」も同様である。see⇒***monos*** ）/ railway（「鉄道」）

rea) realm（「王国・領域」[レルム]・これまた余談になるが、サッカチームの「レアル・マドリード<Real Madrid>」の「レアル<Real>」も Rex の意味だ。一方 Villa Real「ヴィジャ・レアル」は「王の町・村<village>」だ。ワールド・カップで活躍した「ヴィジャ」という選手もこの Villa だ。「柏レイソル」の「レイソル」は Rey Sol と書くが、これも王<Rey> + 太陽<Sol> =「太陽王」・・となる。この「太陽王」が「ルイ 14 世」を指すのかどうかは定かではないが・・。とにかく R を見たら King だと心得よ！ see⇒***sol / vicus*** この realm など、もろに「レアル」が隠れている。）

rec) rectangle（「長方形」・「正しい<rect>角度<angle>」とは「直角」のこと。長方形はすべての角が直角だ。「正方形も直角だぞ！」と言う意見もあるだろう。しかし幾何学的には正方形は長方形の一種なのだ。right 自体にも「直角の」の意味がある。right angle で「直角」だ。こっちの方がよく出るか・・。）/ reckon（「（正しく）計算する・考える」）

reg-rei-rig) regime(「政治体制」[レジーム]・アンシャン・レジーム「古い政治体制」などと、フランス革命の歴史で登場する。）/ region（「領域」・無論「国王の領土」を意味した。）/ regional（「地方の・局地的な」）/ regulate（「規制する」は「間違いを正す」ことだ。）/ regulation（「規制・規則」）/ regal（「王の」・legal は「法律の」だから、読み違えないように。see⇒***lex*** ）/ regular（「正規の」）/ regal（「堂々たる・荘厳な・王にふさわしい」・legal と区別。靴メーカーでお馴染み。see⇒***lex*** ）/ reign（「支配する・治世」[レイン]・rain「雨」と同じ発音だ。foreign「外国の」は for + reign で「外を支配する」が原義だ。see⇒***foris*** ）/ right（「正しい・右」・なぜ「右」が「正しい」かといえば、「右利き」が主流だからだろう。「左利き」の筆者にはいまいましい限りだ。rec ⇒ ric ⇒ rig とつながる。これもどこかで書いたが h は気にする必要はない。***χ*** [キー]が ch[ク(フ)]の音を表し、やがて c[ク]と同じ音でも OK となった。これと同じ h である。実際 character は[ク]であり、いちいち[ク(フ)]などと発音しないはずだ。what も今では[ワットゥ]が主流で h はほとんど発音しない。）/ righteous（「正しい・高潔な」[ライチャス] see⇒***-osus*** ）/ righteousness（「正しいこと」）

roy-s) royal（「王の」・loyal「忠実な」と区別すること。see⇒***lex*** / reg = rog = roy だ。）/ royalty（「特許権・使用料・印税」・もともとは「王の権利」を意味した。loyalty と区別。see⇒***lex*** ）/ sovereign（「主権者・主権を有する」・sove(= super / sur) + reign・「上から支配すること」。発音は[ソブリン] see⇒***sur*** ）/ sovereignty（「主権・統治権」）

(7) rheuma = ρ ε υ μ α [レウマ] <希>「流れ」・動詞は ***rheo*** = ρ ε ω [レオー] 「流れる」。rh のスペルは何とも目障りに見えるかも知れないがこれは[ル(フ)]という音である。簡単に言えば ch / rh / gh などの h は無視していい。

rheumatism（「リューマチ」・脳から流れ出した異常な体液のせいで病気になると考えられていたことに由来する。関節が炎症を起こし、骨が変形してしまう恐ろしい病気だ。see⇒***ismos*** ）/ river（「川」・次項の ***rivus*** のもとになった単語・こちらにも敢えて載せた。）/ arrive（「到着する」これも次項の ***rivus*** を参考にして欲しい。）/ Rhine（「ライン川」・名曲「ローレライ」で有名なドイツの大河だが、もともとライン自体が「川」という意味だ。だからライン川というと「川川」になってしまうが・・。）/ diarrhea （「下痢」[ダイアリア]・dia が「～を通して」だから「通して流れるもの」となる。日本語でも「便通」とか「お通じ」とか言うではないか。そのちょっと流れ過ぎたのが「下痢」だ。see⇒***dia*** ）/ rhythm（「リズム・律動」・流れるような・・の意。）/ rhythmical（「リズミカルな」）

(8) rivus - rivi [リーウス・リーウィー] <羅> = river「川」

rival（「ライバル」・川を挟んで対岸でにらみ合った敵ということだ。川は「水源」として重要であるから、その確保は命がけであった。一方「共同で水を使う仲間」という意味もあったようだが・・。）/ arrive（「到着する」・川岸へ<a = ad>やっとたどり着くこと。see⇒***ad / rheuma*** ）/ derive（「由来する」・川の流れのように下って<de>行くと派生語にたどり着く・・ほどの意か？早い話が「美空ひばり」だ。derive from ～の形で「～に由来する」となる。see⇒***de / privus*** また deprive と区別すること。see⇒***de / privus*** こちらは「奪う」で deprive 人 of 物の形で「人から物を奪う」となる。see⇒***de*** ）/ derivation（「由来・起源・派生」）/ derivative（「デリバティブ」・経済用語で「金融派生商品」のこと。また「派生語（語）」・「誘導体（化）」・「導関数（数）」の意味もある。see⇒***primus*** ）

(9) rogo - rogare - rogare - rogatus [ロゴー・ロガーレ・ロガーウィー・ロガートゥス] <羅> = ask / beg / question「尋ねる・頼む」

interrogative（「疑問文・疑問文の」see⇒***inter*** ）/ surrogate（「代理の」・surrogate mother は「代理母」だ。sur = sub だから「サブの

メンバーを募集する」となる。レギュラーが怪我したから補欠登場・・ということだ。see⇒***sub*** ）/ arrogant（「傲慢な」・傲慢なおばちゃんは要求もきつい・・で覚えればいいが、もともとは「神の命じた分け前に満足せず、さらに要求すること」に由来する。「～に対して<ad = ad>要求をつきつける」の意。see⇒***ad*** ）

(10)rota - rotae [ロタ・ロタエ] <羅> = wheel「車輪」・***roto - rotare - rotavi - rotatus [ロトー・ロターレ・ロターウィー・ロタートゥス]***が「回転する」だ。***rotula - rotulae [ロトゥラ・ロトゥラエ]***で small wheel「小さな車輪」の意。

rotor（[ローター]・rotator「回転する物」の略で、ヘリコプターの「回転翼」を指す。）/ rotary（「回転式の・環状交差点・ロータリー」・マツダの rotary engine「ロータリー・エンジン」などで認知されるようになった。また駅前の広場も「ロータリー」と呼ばれている。車がぐるぐる回るからだ。イギリスでは roundabout「ラウンド・アバウト」と呼ばれるものだ。）/ roll（「巻物」・「ロール・ケーキ」や「ロール・キャベツ」の「ロール」だ。）/ enroll（「入学させる・登録する」・「巻物」に名前を記載したことから。en で「動詞化」。see⇒***en*** ）/ enrollment（「入学・登録」）/ control（「支配する」・control = contra + roll で「記録<roll>に対して<contra>照らし合わせること」だ。see⇒***contra*** ）/ rotate（「回転する」）/ rotation（「回転」・また天文学では「自転」の意味もある。see⇒***volvo*** 一方「公転」は revolution だ。see⇒***volvo / re*** ）/ round（「丸い・四捨五入する」・***rota*** の受動態未来分詞 ***rotundus***「回転させられるべきもの」からこの単語が出た。surround「取り囲む」とは無関係だ。また「端数を丸める」から「四捨五入する」という意味もある。昔プログラマーをやっていころ覚えた意味だ。こちらは see⇒***unda*** ）/ around（「～の周りに」・round と同じ。）

(11)rumpo - rumpere - rupi - ruptus [ルンポー・ルンペレ・ルーピー・ルプトゥス] <羅> = break / tear「破る・引き裂く」

route（「道筋」・[ルプトゥ]⇒[ルートゥ]になった。森の裂け目に道ができたことから。古代ゲルマンの森を想像されたし。）/ disrupt（「引き裂く」see⇒***dis*** ）/ disruption（「分裂・混乱」）/ interrupt（「邪魔する・中断する・間に<inter>割って入る」see⇒***inter*** ）/ interruption（「邪魔・妨害」）/ erupt（「噴火する」・裂け目から炎が外に<e = ex>出てくる。see⇒***ex*** ）/ eruption（「噴火」）/ abruptly（「突然」・ab = of = off「ばらばらに・・(分離)」・「突然破裂する」より・・。いわば break off だ。see⇒***ab*** ）/ bankrupt（「破産する」・ここの bank は「銀行」ではなく ***banca***「机」の意味だという。イタリア語らしい。南米などを旅すると、私設の両替所が路上に「机」ひとつで営業しているのを今でも目にすることができる。「机を壊される」ということは「営業ができなくなる」ことなのだ。無論「銀行」という解釈でも、完全に間違いというわけではない。もともと「盛り上がったもの」の意味から「土手」や「机」、「ベンチ」などの意味が出た。ルーツはひとつだ。）/ bankruptcy（「破産」）/ bank（「銀行・土手」・bankrupt つながりでここに載せた。）/ banquet（「宴会」・こちらも「bank つながり」だ。see⇒***culum*** ）/ corrupt（「汚職する・腐敗する」・「完全に<cor = con>壊れてる」連中のこと。see⇒***cum*** ）/ corruption（「汚職・腐敗」・collaption「崩壊」と区別！see⇒***lapsus*** ）/ routine（「日課・お決まりの仕事」・route「ルート」より。「毎日通る（貫通する）道」だ。「五郎丸」選手の活躍で一躍有名になった。）

S

(1)sacer - sacra - sacrum [サケル・サクラ・サクルム] <羅> = sacred / holly「神聖な」また ***sanus - sana - sanum [サヌス・サナ・サヌム] <羅>*** = healthy「健康」・sac / sec / sanc / san / sain などで始まる単語になった。

sac-sag) sacred（「神聖な」[セイクリッドゥ]）/ sacrifice（「犠牲」・捧げものは穢れたものではいけない。fic = ***facio*** = make / see⇒***facio*** ）/ ***Sagrada Familia***（「サグラダ・ファミリア」・いわずと知れた「アントニオ・ガウディー」の建築だ。英語では Sacred Family「聖なる家族」の意味。「聖なる家族」とは無論、イエス・キリスト一家だ。因みにイエスには兄弟が 4 人もおり、かなりの大家族だったようだ。また 12 歳ですでに旧約聖書を諳（そら）んじており、かなりの高等教育を受けた形跡もある。エルサレムの神殿内で「ラビ（ユダヤ教の教師）」たちを論破してのける・・という場面も聖書の中にある。今で言う「お受験組」といったところか・・。少なくとも貧乏な家庭ではなかったようだ。今も昔も「大工さん」はいい稼ぎになるのかも知れない。もっとも「聖書外伝」には、自分をいじめた子供たちを石に変えて<petrify>しまったり see⇒***petros / facio*** ・・と、すでに超能力と思（おぼ）しきものの萌芽が見られる。しかもかなり気性の荒い面もあったようだ。成人してからも神殿内で鳩を売る商人たちに激怒し、「神聖なる私の父の家で、商売するとは何事か！」と大暴れしている。「右の頬を打たれたら・・」といったソフトなイメージだけではないことが、新約聖書を読んでみるとわかる。もっとも怒るべきときには怒らねばならない。）

sai-sal-san) saint（「聖人」・発音は[セイントゥ]。「聖（せい）」と妙に音が似ているな・・と感じられた方は鋭い語感をお持ちの方だ。この saint が中国語で「聖」となったとする説が根強い。「セント・ジョージ（聖ゲオルギオス）」や「サン・ピエトロ（聖ペテロ）大聖堂」などというときの「セント」・「サン」だが、日本人にとって最も馴染み深いのは何といっても「サンタクロース<Saint Claus>」だろう。「セント・ニコラウス」の訛りである。「大津事件<1891>」で津田三蔵に殺されそうになったロシア皇帝「ニコライ 2 世（当時は皇太子）」なども有名だが、ニコライ（ニコラオス）は「ニケー<***Nike*** = ***Νικη***>：勝利」と「ラオス<***laos*** = ***λαος***>：人民・民衆」からなるれっきとしたギリシャ語だ。「人民の勝利」という意味である。「あれ？」とお気づきの方は大したものだ。そう、運動靴メーカーの「ナイキ」はこの Nike に因んだものである。因みに layman「素人」もこの ***laos*** に由来する。もともとキリスト教の「聖職者」に対して「平信徒」の意味もこの ***laos*** にはあった。）/ salute（「挨拶する・会釈する」・相手の健康を願うことから。）/ sanatorium（「療養所」）/ sane（「正気の・(神のように)健全な」see⇒***mens*** ）/ sanitary（「衛生上の」）/ sanction（「制裁」・もとは「聖なる裁き」の意。道理で経済制裁を加える国は態度がでかいわけだ。どこの国とは言わないが・・。）/ sanctuary（「聖域」）/ ***Mens Sana in Corpore Sano.***（「健全な精神を健全な肉体に宿らしめよ！」も再度確認して欲しい。see⇒***mens*** ）

その他) insane（「気が狂った」・in は反対語。see⇒***in② / mens*** ）/ sound（「健全な」）/ consecrate（「聖別する」・リンカーンの「ゲティスバーグ演説」に何度も出てくる。con は「強調」。see⇒***cum*** ）

(2)salio - salire - salui - salutum [***サリオー・サリーレ・サルイー・サルトゥム***] ***<羅>*** = jump / leap「飛びかかる」また sal は sail / sau / sol / sul にも変化した。

sal) salt（「塩」・舌にとびかかるような刺激がある。以下「塩辛い」ものを列挙する。塩分補給は人間にとって死活問題であったことの名残りである。）/ salad（「サラダ」・塩がなければ食えない。）/ salami（「サラミ」・「塩を愛する」の意。ami は ***amo***「愛する」だ。see⇒***amicus*** ）/ salary（「給料」・salarium「塩銀・銀塩」に由来。「古代ローマでは兵士に給料を塩で払っていた」などとかつては言われた。無論そんなはずはない。これは「塩を買うためのお金」としての「特別手当」のようなもの。塩がなくては死んでしまうからだ。日本は島国なのであまりピンとこないだろうが・・。手元の羅英辞典には the allowance given to soldiers for salt との定義がある。）/ salmon（「鮭」は飛びかかる魚という意味だそうな。産卵の為に川を遡上（そじょう）する鮭を想像してほしい。2 メートルも飛び上がるそうだが、これは人間の身長に換算すると 4 階建てのビルに相当するとか・・。）

sau-sol) sauce（「ソース」）/ sausage（「ソーセージ」）/ solid（「固体」・「塩の塊」が原義。）/ soldier（「兵士」・「塩銀を受け取る人」⇒「兵士」となった。動きの激しい兵士に塩分補給は欠かせない。）

その他) assail（「攻撃する」）/ assault（「攻撃」）/ insult（「侮辱する」・人の心の中<in>を攻撃すること・・と一般的にはされているが、筆者にはどうもこの in は on の意味に思えてならない。つまり「上から襲い掛かる」だ。まあどっちでもいいか・・。see⇒***in①*** ）/ result（「結果」・re「再び」跳ね返ってくるもの。他人への攻撃はほどほどに・・see⇒***re*** ）/ Moonsault（「ムーン・サルト（月面宙返り）」・ご存知「ミュンヘン・オリンピック<1972>」で塚原光男が金ベダルを獲得したときの技だ。無論「アポロ 11 号の月着陸<1969>」を念頭においたネーミングであろう。これは和製英語だとの説もあるので掲載をためらったが、一応載せた。）

(3)sauros ＝σαυρος[***サウロス***] ***<希>*** = lizard「トカゲ」・ラテン語では ***saurus*** [***サウルス***]となる。

dinosaur（「恐竜」・[ダイナソー]「恐竜」が「恐ろしい<***deinos*** = δειν ος >＋トカゲ<***sauros*** = σαυρος >」の意味だということはどこかで聞いたことがあるだろう。「～ザウルス」とつくのはこのためだ。しかし現代恐竜学の長足の進歩により、「恐竜爬虫類説」はほぼ否定された。「鳥類」もしくは「哺乳類」に分類するのが妥当なようだ。以下アルファベット順に恐竜の名前を列挙する。）

Brachiosaurus （「ブラキオザウルス」・大型草食恐竜。直訳すれば「腕トカゲ」。***brachion*** = βραχιων [***ブラキオン***]は arm「腕」だ。想像図を見てもらえば一目瞭然だが、「前肢が後肢より極端に長い」ことからこの名がつけられた。bracelet「ブレスレット」や embrace「（腕で）抱きしめる」などの派生語がある。see⇒***en*** ）/ ***Deinonychus*** （「ディノニクス」・「恐ろしい<***deinos*** = δειν ος>＋かぎ爪<nychi= νυχι >」の意。身長は 2 メートル余りと小さいが、恐ろしい爪を持つ。映画「ジュラシック・パーク」で、逃げ惑う主人公たちを次々に襲撃するシーンで有名になった。実際はあの恐竜は「ディノニクス」と「ヴェロキラプトル」を合体させたイメージで作られたという。）/ ***Iganodon*** （「イグアノドン」・「イグアナの歯」が原義。最初に発見された「恐竜第一号」がこのイグアノドンだ。以下 ***sauros*** の仲間ではないが「恐竜繋がり」でいくつか載せた。see⇒***dens*** ）/ ***Maiasaura*** （「マイアサウラ」・「子育て恐竜・マイアサウラ」で有名になった。直訳は「良い母親トカゲ」だ。このあたりから「恐竜爬虫類説」が怪しくなった。***saura*** は ***sauros*** の「女性形」だ。）/ ***Oviraptor*** （「オウィラプトル」・原義は「卵泥棒」。see⇒***rapio*** ）/ ***Plesiosaurus*** （「プレシオザウルス」・首長竜だ。「トカゲに近いもの」の意。***plesios*** = πλησιος[プレーシオス]は close「近い」の意。ネッシーの正体がこれではないかと噂された時期もあった。「恐竜に近いもの」だから正確には恐竜の仲間ではない。水棲爬虫類とされる。）/ ***Pteranodon*** （「プテラノドン」・代表的な「翼竜」だ。「翼はあるが歯はない」というへんてこな名前である。詳しくは see⇒***a / dens*** ）/ ***Stegosaurus*** （「ステゴザウルス」[ステゴソーラス]・直訳は「屋根トカゲ」。由来は・・ see⇒***omnis*** ）/ ***Tyrannosaurus*** （「ティラノザウルス」・「暴君トカゲ」が原義。see⇒***rex*** ）/ ***Triceratops*** （「トリケラトプス」は「3 つ<tri>の角<cerat = κερας[***ケラス***]>の顔<ops= οπς[***オプス***]>」の意だ。see⇒***tri*** ）/ rhinoceros（「サイ」・恐竜ではないが、「角」つながりでここに載せた。rhino は ***rhis*** = ρις[***リス***]で「鼻」の意。鼻のところに角が生えているからだ。発音は[ライノサラス]となる。）/ ***Velociraptor*** （「ウェロキラプトル」・「素早く強奪する」が原義。see⇒***rapio*** ）

(4)scando - scandere - scandi - scansus [***スカンドー・スカンデレ・スカンディー・スカンスス***] ***<羅>*** = climb「登る」・scand が scend にもなった。

ascend（「登る」・see⇒***trans / ad*** the Ascension[アセンション]と大文字になれば、イエス・キリストの「昇天」となる。十字架にかかって死んだイエスは 3 日目（3 日後ではない！）に復活し、弟子たちの前に姿を現したのち、彼らの目の前でオリーブ山から天に昇っていったと言われる。オリーブ山とはエルサレム城の東の丘だ。ここからエルサレムの町が一望に見渡せる。）/ descend（「降りる」see⇒***de / trans*** ）/ descendant（「子孫」・家系図を見れば意味は明白。ご先祖様は上にあり、時代が下るほど下<de>になる。see⇒***-ans*** ）/ descent（「下降」）/ transcend（「超える」・see⇒***trans*** transcendent meditation「超越瞑想」・オウム真理教の麻原がやっていたやつだ。see⇒***trans / medico*** ）/ scandal（「スキャンダル・醜聞」・***scandalum*** [***スカンダルム***] ***<羅>*** / ***scandalov*** = σκανδαλον [***スカンダロン***] ***<希>***で「躓（つまず）きの石・わな」という意味だ。聖書によく出てくる単語である。）/ scale（「スケール・規模・階級・階段を登る」）またこれとは別の単語だが、scale には①「はかり・天秤」②「（魚の）うろこ」の意味もある。/ escalator（「エスカレーター」・scale「階段」から。一方「エレベーター<elevator>」に関しては・・see⇒***levis*** ）

(5)scio - scire - scivi - scitus [***スキオー・スキーレ・スキーウィー・スキートゥス***] ***<羅>*** = know「知る」

science（「科学」・文字通り「知っていること」だ。see⇒***-ans***＝ ～ing ）/ scientific（「科学的な」） / conscious（「意識している」・発音は[カンシャス]・con は「強意」・「しっかり意識があること」。see⇒***cum / -osus*** ）/ conscience（「良心」・conscious の姉妹語・善悪を意識すること。良心はみんな<con>が共通に知っている<***-ens***>もの。発音は[カンシャンス]。間違っても[コンサイエンス]などと読まないこと。see⇒***cum / -ans*** ）/ conscientious（「良心的な」see⇒***-osus*** ）/ school①（「学校」・***schole＝σ χ ο λ η [スコレー]***はギリシャ語で確かに「余暇」という意味で、古代ギリシャでは「余暇」があったから学問が発達したのだ・・と「倫理社会」の時間に学習する。その日暮らし<from hand to mouth>では学問もへったくれもない・・という理屈だ。日々の仕事はすべて奴隷がやってくれた。「随分いい身分だな・・」などと考えてはならない。奴隷を捕えてくるには戦争しなくてはならないから、自由民には「兵役の義務」が課せられていたのだ。それでも ***scio*** の項にこの単語を載せたのは、school の語源が ***scio*** であるという説も、一方で存在しているからだ。）/ scholar（「学者」）/ omniscient（「全知の」偉大なる神はすべて<***omni***>「お見通し」だ。see⇒***omnis*** ）

(6)scribo - scribere - scripsi - scriptus [スクリーボー・スクリーベレ・スクリプスィー・スクリプトゥス] <羅>「刻む」・詳しい由来は ***grapho*** に書いた。see⇒***grapho***

a) ascribe A to B（「A は B のおかげ・A を B のせいにする」・～に<a = ad>書き送る。つまり「チクる」わけだ。良い意味でも悪い意味でも使われる。また attribute A to B も確認。こちらは良い意味で使う。see⇒***tri / ad*** ）

d) describe（「描写する」・de「下に」書く。小説でも「書き下ろし」とよく言う。see⇒***de*** ）/ description（「描写」・「グリムの法則」で、b が p に転化している。beyond description で「筆舌に尽くしがたい」となる。浦島太郎風に言えば、「絵にも描けない美しさ～♪♪」というわけだ。最近はこの日本語を知らない人がほとんどだが、筆者の時代は小学校の国語の教科書に登場した。人類最初の宇宙飛行士であるソ連の「ユーリー・ガガーリン少佐」が、眼下に広がる真っ青な地球を見て言った言葉・・としてこの表現が充てられていたのだ。）

m-p-s) manuscript（「原稿」・「手で<manu>書いたもの」の意。see ⇒***manus*** /prescribe（「処方する」・「こんな薬がいいでしょう」と前もって<pre>薬の名前を医師が書いてくれるのが prescription「処方箋」だ。see⇒***pre*** ）/ postscript（「追伸・追記」・所謂 p.s.だ。ラテン語では ***post scriptum*** [***ポスト・スクリプトゥム***]と言う。「後で<post>思い出して付け足したもの」。see⇒***post*** ）/ subscribe（「定期購読する」・契約書の下<sub>の欄に「署名」したことから・・。see⇒***sub*** ）/ subscription（「定期購読」）/ script（「台本・スクリプト」・リスニングなどで内容が聞き取れない時は、この「スクリプト」を見れば何と言っていたかが書いてある。有難い代物だ。）/ scribble（「落書き」）

t) transcript（「写本」・聖書の原本などは現代には残っていない。パピルスや羊皮紙など、あっという間にボロボロになってしまうからだ。それではどうしてこれらの書物を我々が今日目にすることができるかといえば、過去の人びとが「写本」に「写本」を重ねてくれたからだ。「神」はラテン語では ***deus*** [***デウス***]、ギリシャ語では ***theos＝θ ε ο ς[テオス]***であることはすでに書いてきたが、これでは多神教の神と間違える可能性があるので、キリスト教の神のことをクリスチャンは特に「主（しゅ）」と呼ぶ。ラテン語では ***Dominus*** [***ドミヌス***]、ギリシャ語では ***kyrios＝κ υ ρ ι ο ς[キュリオス]***）」と表記するのだが、これらのスペルを間違えた場合、何と 1 ページ目（天地創造）から写し直さなくてはならなかったというのだ。神の名を間違えることはそれほど恐ろしいことなのだ。先人たちの苦労を偲びながら trans は「時代を越えて・・か」と覚えてほしい。see⇒***trans*** ）/ transcribe（「写す」）/ transcription（「写すこと」）

(7)seco - secare - secui - sectus [セコー・セカーレ・セクイー・セクトゥス] <羅>＝cut「切り離すこと」・「se は cut の意味」と書いたが、それがこの ***seco*** だ。また ***se*** [***セー***]で without の意味もあることも ***curo*** で書いた通りだ。see⇒***curo***

sec) section（「区画」）/ secret（「秘密」see⇒***Ceres*** ）/ secretary（「秘書」see⇒***Ceres*** ）/ secure（「安全な」see⇒***curo*** ）/ security（「保証・安全・安心」・「スィキュリティーは万全です」などと言う。see⇒***curo*** ）/ secant（「セカント・正割」・数学の「三角関数」で登場する。sin / cos / tan の親戚だ。see⇒***tango / -ans*** ）/ seclusion（「引きこもり」）see⇒***claudo*** ）/ sect（「派閥」・共産主義が「革マル派」と「中革派」などのセクトに分かれて対立し・・などと言う。「革マル」の「マル」は「マルクス」の「マル」でこちらの方がより過激な一派とされる。これもちょっと古かったか・・。）

seg) segment（「部分・区分・体節」・世にいう「ワン・セグ<one segment>」の「セグ」である。「セク」が「セグ」に転化した。周波数帯のある「一区画」を利用していることからこの名がある。）/ segregation（「隔離」see⇒***grex*** ）

その他) seduce（「誘惑する」see⇒***duco*** ）/ selection（「選択」see⇒***lego②*** ）/ separate（「分かれる」see⇒***para*** ）/ sex（「性別」see⇒***mens*** ）/ bisect（「2 分する・両断する」・bi = 2 / see⇒***bi*** ）/ insect（「昆虫」・体が内部<in>まで切れている・・ように見える。see⇒***cado / in①*** ）/ intersection（「交差点」・「間で<inter>切れる」。確かにお互いに切り合っているように見える。see⇒***inter*** ）/ cosecant（「コセカント・余割」・こちらも「三角関数」だ。see⇒***cum / tango / -ans*** ）

(8)semen - seminis [セーメン・セミニス] <羅>＝seed「種」/ seeding「種まき」/ offspring「子孫」/ race「種族」・この se が中国語の「種（しゅ）」となったとする説がある。

seminar（「セミナー・ゼミ・研究会」・学問の種をまくところ。）/ disseminate（「普及させる・種をまく」・dis は「ばらばらに」の意。see⇒***dis*** ）/ ***seminaryo***（「セミナリオ」・「フランシスコ・ザビエル」によって戦国時代の日本に設置された神学校。大河ドラマなどで聞いたことがあるはず。「キリスト教の種をまこう！」ということだ。）/ seminary（「神学校」）/ inseminate（「妊娠させる」・in は「中に」。see⇒***in①*** ）/ artificial insemination（「人工授精」）

(9)semi **[セミ]<羅>** ①「半分」⇒***hemi＝ η μ ι [ヘーミー]<希>*** に当たる

semifinal（「準決勝」・「決勝」は final だ。因みに「準々決勝」は quarter final という。優勝の可能性がそれぞれに「四分の一」あるから

だ。）/ semiconductor（「半導体」）/ semicircle（「半円」see⇒***kyklos*** ）/ semi-detached house（「セミ・ディタッチトゥ・ハウス（一軒家を 2 つに割ったもの。2 世帯が住める。）」see⇒***tango*** ）

(10) ***senior*** **[セニオール] <羅>** = senior / older「年上の」 ・ラテン語がそのまま英語に入った。「ラテン語比較級」として「後ろに than でなく to を取る・・」と文法でも習ったはず。もっともラテン語には to はないが・・。see⇒***superior***

Senate / senate（「(古代ローマの)・(アメリカの) 上院」・発音は[セニット]。下院は The House of Representatives と言う。英国議会はちょっと異なり、「上院」は House of Lords で「下院」は House of Commons と言う。）/ senator（「(米国) 上院議員・(古代ローマの) 元老院議員」）/ senile（「老人の」・[スィーナイル]と読む。反対語は juvenile[ジュビナイル]だ。see⇒***altus*** junior と同語源だ。）/ senior（「年上の」see⇒***superior*** ）/ seniority（「年長であること」see⇒***superior*** seniority system なら「年功序列」となる。see⇒***superior*** ）

(11) ***sensus*** **- *sensus* [センスス・センスース] <羅>** = sense「感覚」

c) consent（みんなが<con>同じ感覚を持つから「意見が一致する」・一方電化製品の「コンセント」は和製英語。see⇒***cum*** 差し込む方は plug[プラグ]で、差し込まれる方は socket[ソケット]と言う。）/ consensus（「意見の一致・コンセンサス」・「コンセンサスを得た・・」などと日本語にもなっている。）

r) resent（「憤る」・再び<re>怒りの感覚がこみ上げてくる。see⇒***re*** ）/ resentment（「憤慨」・心理学で言うところの「ルサンチマン」がこの resentment だ。キルケゴールが使い始め、ニーチェが広めたと言われる。「(弱者の) 怨念」を意味する。「優秀な俺様が負けるなどありえない。相手がよっぽどずる賢い手を使ったに違いない。」といった感情だ。「朱子学」にも似た傾向がある。ある作家は朱子学をして、「インテリのヒステリー」と評している。）

s) sense（「感覚」）/ scent（「香り」は感覚器官で感じるもの。）/ sensitive（「敏感な」）/ sensitivity（「敏感さ」）/ sensible（「思慮分別のある」・善悪を感じわけることができる<able>・・だ。）/ sensibility（「思慮分別」）/ sensation（「感覚・大騒ぎ・大事件」）/ sensational（「世間をあっと言わせるような」）/ sentence（「文・判決文・判決を下す」・感じたものを述べる・・という意味だ。）/ sensory（「感覚の」）/ sentiment（「感傷・感情」）/ sentimental（「感傷的な・感情に訴える」）/ sensual（「官能的な・みだらな」）

その他) assent（「同意する」・as = ad / see⇒***ad*** ）/ dissent（「意見を異にする」see⇒***dis*** ）/ Extra Sensory Perception（「超感覚的知覚・超能力」・ESPer で「エスパー（超能力者）」となる。perception については see⇒***capio*** ）/ hypersensitivity（「過敏症」see⇒***hyper*** ）/ nonsense（「ナンセンス・バカげたこと」）

(12) ***sequor*** **- *sequi* - *secutus sum* [セクオール・セクイー・セクートゥススム] <羅>** = follow「後に続く」・また sequ ⇒ secu ⇒ su / sec ⇒ soc / sec ⇒ sic ⇒ sig とも変化した。

e) execute（「処刑する」・かつて劇画「空手バカ一代」で、主人公の「マス・オーヤマ（大山倍達）」がアメリカで「ザ・エクスキューショナー（処刑人）」なるプロレスラーと対決する・・という場面がある。筆者はこの時この単語を覚えた。無論フィクションであろうが・・。）/ execution（「処刑」・外まで<ex>追いかけて処刑するのだ。この「外」とは「墓場」のこと。ラテン語で ***exequor*** **[エクスクオール]**は「墓まで続く」の意味だからだ。x に飲み込まれて s が消えているが・・。see⇒***ex*** ）/ executive（「重役」[エグゼキュティブ]・execution と同じ理屈。仕事を徹底して<ex>追及する人。ひところ「ヤン・エグ」なる言葉は流行った。「ヤング・エグゼキュティヴ（若い重役）」という意味らしい。see⇒***ex*** ）

con-per-pro) consequence（「結果」は後についてくるもの。con だから「一緒についてくる」の意味だ。アクセントにも注意！see⇒***cum / -ans*** ）/ consequent（「結果として起こる」）/ consequently（「結局」・つなぎのことばでよく出るから、しっかり覚えておくこと。アクセントは[コンスィクエントゥリ]だ。）/ consecutive（「連続した」・みんな<con>数珠つなぎ・・。see⇒***cum*** ）/ persecute（「迫害する・悩ます」も同じ語源・per「徹底的に」ついてまわることだ。要するにストーカーである。see⇒***per*** ）/ persecution（「迫害」）/ prosecute（「起訴する・訴える」・「訴訟の手続きを前に<pro>進めるぞ・・」ということだ。see⇒***pro*** ）/ prosecution（「起訴」）/ prosecutor（「検事」）

pur) pursue（「追求する」・pur = pro だ。see⇒***pro*** また ***capio*** の purchase も参照。see⇒***capio*** ）/ pursuit（「追及」）

sec) second（「2 番目の」・またボクサーにつく「セコンド」も「つき従う人」の意味。早い話が選手の「付き添い」だ。「2 番目の選手」の意味ではない。そもそもセコンドは戦わない。see⇒***minus*** また新約聖書の「ルカ伝（ルカによる福音書）」はラテン語で ***Secundum Lucam*** **[セクンドゥム・ルカム]**と言う。「ルカによれば<according to>」だから「ルカの話に従えば・・」との意味になる。second hand は「中古 (の)」。所謂「セコハン」だ。）/ secondary（「二次的な」）

seq-su) sequence（「連続・結果として起こること」）/ sequential （「続いて起こる・連続的な」）/ sue（「訴訟を起こす・訴える」・ここまでくると、かなり形が変わるが・・。）/ subsequent（「その後の・その後に続く」・アクセントは[サブスィークエント] 。sub は「下に」。「後についてゆく」のは「下っ端」だ。see⇒***sub*** ）/ subsequently（「それゆえ・したがって」）/ suitable（「適した」・その場にふさわしい・ぴったりの・・。）/ suite（「ひと続きの部屋・スイート・ルーム」・新婚さんが泊まるからといって「甘い<sweet>部屋」ではない！）/ suit（「①ぴったりあう・②スーツ」）

その他) lawsuit（「訴訟」・法律<law>で、どこまでも追いかけてゆくこと。see⇒***lex*** ）/ sign（「合図」・「次々と連続して送るもの」の意。これら関連の単語は ***signum*** にまとめた。see⇒***signum*** ）/ society（「社会」・つながりが大切だ。こちら関連の単語は ***socio*** にまとめた。see⇒***socio*** ）

(13) ***sero*** **- *serere* - *serui* - *sertus* [セロー・セレレ・セルイー・セルトゥス] <羅>** = join together「連結する・結びつける」

assert（「断言する」・自説に<as = ad>結び付ける・・の意。また「主人が奴隷の手を取って（手と手が連結）、自由民であることを宣言した」という故事に由来する・・との説もある。この際どっちでもいいだろう。see⇒***ad*** ）/ desert（「砂漠・見捨てる」・「（連結を）切り離された<de>土地」・・の意。see⇒***de*** 尚 dessert「デザート」は別語源。こちらは ***servo*** を参照。see⇒***de*** ）/ exert（「力を行使する・使う」[イグザ―トゥ]・「外<ex>に対して力を行使する」の意。x に s が吸収されてしまっている。またこれも「奴隷の手を取って外に引っ張り出して、労働させた」という行為に由来するという説もある。see⇒***ex*** ）/ exertion（「力の行使・努力」）/ insert（「挿入する」see⇒***in①*** ）/ serial（「連続している」）/ series（「シリーズ」）/ sermon（「説教する」・「つながった一連の言葉」・・の意。***Sermo est imago animi.***[***セルモー・エスト・イマーゴ・アニミー***]「言葉は心の似姿である」⇒「文は人なり」というラテン語の諺もある。***Sermo***（= word）***est***（=is）***imago***（=image）***animi***（=soul / mind).だ。see⇒***est / imitari / anima*** ）/ sew（「縫う」[ソウ]・縫えば布同士は繋がる。発音にも注意。sow「種をまく」と同音。saw「見た」は[ソー]だ。saw は「のこぎり」の意味もある。「チェーン・ソー」の「ソー」だ。）/ sort（「種類・分類する」・種類が同じものは繋がりがある・・から。sert ⇒ sort となった。）

(14) ***servo*** **-** ***servare*** [***セルウォー・セルウァーレ***]<***羅***>「注視する」= keep / watch carefully また ***servio*** **-** ***servire*** = serve[***セルウィオー・セルウィーレ***]<***羅***>= to serve「奉仕する」・いずれにしても、「至れり尽くせり」がこの 2 つの単語だ。

c) conserve（「保存する」）/ conservative（「保守的な」・昔の人のいいつけをしっかり守ること。con は「強意」see⇒***cum*** 反対語は liberal「革新の」だ。see⇒***liber*** ）/ conservation（「保存」）/ civil servant（「公務員」・市民に奉仕する。「公僕」という言葉もある。「僕は・・」と何気なく我々は使うが、僕は「しもべ」とも読むのだ。）

d-o) deserve（「～に値する」・奉仕するに値する・・から。de は「強意」。see⇒***de*** ）/ dessert（「デザート」・最後のサービス。de は「これで（サービスから）離れますよ！」の意。see⇒***de / sero*** 一方 desert「砂漠・見捨てる」は ***sero*** を参照。see⇒***de / sero*** ）/ observe（「①観察する ②遵守する」・どうしてこの 2 つの意味が出たかがご理解いただけただろう。昔のいいつけをしっかり「見て①」、それに対して<ob>「守る②」ことだ。see⇒***ob*** ）/ observatory（「観測所」）/ observance（「遵守」see⇒***-ans*** ）/ observation（「観察」）

p) preserve（「保存する」・悪化する前に、前もって<pre>監視すること。see⇒***pre*** ）/ preservation（「保存」）

r-s) reserve（「予約する・取っておく」・大切なものは後ろ<re>に置いて監視する。see⇒***re*** ）/ reservation（「予約」）/ reservoir（「貯水池」・また「トーナメント（勝ち抜き戦）」でよく耳にする「リザ―バー」もこれだ。トーナメントでは故障がつきものだ。勝った選手が次の試合に出場できないケースもある。かといってその試合が相手選手の「不戦勝」ではお客さんに不満が残る。そこで予め準備させておいた交代要員の選手を出場させるのだ。「K-1 グランプリ」などでしばしば見られた風景だ。）/ serve（「奉仕する」）/ service（「奉仕」）/ servant（「召使い」see⇒***-ans*** ）/ serf（「農奴」・領主に奉仕する存在。serv ⇒serf となった。）/ serfdom（「農奴制」・dom は「状態」を表す。）

(15) ***sido*** **-** ***sidere*** [***スィードー・スィーデレ***]<***羅***>= sit「座る」***sedeo*** **-** ***sedere*** **-** ***sessum*** [***セデオー・セデーレ・セッスム***]<***羅***>= remain seated「座って動かない」 / be determined「決心を固めた」/ firm「固い」・また車の「セダン」もこれが語源だ。sid ⇒ sit / sed ⇒ set と変化した。

a) assessment（「査定」・補佐として判事の横に座る・・の意。「査定」という言葉は学生諸君には馴染みがないだろうからちょっと説明しよう。早い話が「通信簿」だ。上司は部下のサラリーマンに通信簿をつける。「こいつよくやってるかな？」というわけだ。それがボーナスの額に直結する。こわーい単語である。また「環境アセスメント」なる言葉も最近聞く。「企業による大規模開発が、環境に悪くないないかな？」と事前に調査するのだ。こちらは政府が企業に対してつける「通信簿」といえる。see⇒***ad*** ）/ assess（「査定する」）

c) consider（「見なす・考える」・con「一緒の」立場に sid「座って」やること・considerate「思いやりのある」[コンスィダリットゥ]はここから来ている。また considerable「かなりの」と区別すること。「考慮に入れることができる」⇒「影響力が大きい」⇒「かなりの・相当な」となった。see⇒***cum*** ）/ consideration（「考慮」）/ consul（「コンスル（古代ローマの執政官）・（現代の）領事」・由来は consult 参照のこと。コンスルは 2 名選ばれた。任期は 1 年。しかし戦時などの非常時には、元老院の要請により、コンスルが 1 名の「ディクタートル（独裁官）」を指名して指揮を執らせる。指揮官が 2 人では指揮命令系統が混乱をきたすからだ。ただし独裁官の任期は半年だ。独裁官は dictator「独裁者」の語源にもなった。see⇒***dico*** ）/ consulate（「領事館・領事の職」・「命のヴィザ」で有名になった元・リトアニア領事の「杉原千畝（ちうね）」氏が英語の教科書に取り上げられた際、これらの単語を目にした記憶があるが・・。）/ consular（「領事の」）/ consult（「相談する・辞書を引く」・con「一緒に」座って相談にのってやること。see⇒***cum*** consider と似ている。別語源だ・・との説もあるが、こちらの方が覚えやすいと判断して載せた。。相談にのってくれる人は「コンサルタント・相談する人・顧問<consultant>」だ。see⇒***-ans*** また受験生諸君が嫌悪してやまない作業である「辞書を引く」も consult a dictionary である。「辞書に相談」するわけだ。look up も同じ意味で使えるが、こちらは look up a word in the dictionary と言う。「引く」のは「辞書」ではなく「単語」だ。）

d) desire（「欲望」・「星<***sidus*** = star>が見えない」の意。「星から離れる<de>」と「欲しく」なる。see⇒***de*** / この ***sidus***「星」<***羅***>もまた、語源を遡れば ***sido***「座る」にたどり着く。「常に同じ場所に居座っている」からだ。「星座」・「恒星」とはよく言ったものだ。また「立ち<stand>止まって動かないもの」から「星・恒星」となったのが「英語」の star だ。「座る」と「立つ」で対照的なのが興味深い。see⇒***sto*** 一方地球などの「惑星」は「恒星」ではないから star とは言わない。こちらは planet see⇒***sto*** といい、***planeto*** = π λ α ν ε τ ω[***プラネトー***]<***希***>「さまよう<wander>」から来ている。「誘惑の惑だよ！」と、中学の理科の先生が教えてくれたことを思い出す。月のような「衛星」は satellite[サテライトゥ]。「人工衛星」は artificial satellite となるが、最近では satellite とくれば即「人工衛星」となるようだ。もっとも「恒星」は sun で、「衛星」は moon でも通じる。see⇒***mens*** 銀河系には約 1000 億個の恒星があると言われるから suns と s がつくし、土星や

木星は多くの衛星を従えているから moons とすればいい。）/ desirable（「望ましい」）

e) exile（「亡命・亡命者・追放する」[エグザイル]・外に<ex>座る・・の意。無論「外」とは「外国」のことだ。x の中に s が隠れてしまっていることに注意。この単語も今ではすっかり有名になったが・・。see⇒***ex*** ）

o-p) obsessed（「(ある考えに）取り付かれる」・「～に対して<ob>座り込む」の意。see⇒***ob*** 「何」に対して「何」が座り込むか・・・といえば、「ある考えが人間の頭に（対して）座りこむ」こと。つまり「ある考えから離れられない」ということだ。名詞は obsession「妄想・執念・強迫観念」。また be obsessed with～「～（という考え）にとりつかれている」といった形で使う。）/ possess（「所有する」・pos = ***possum*** = can だから、「座ることができる」の意味。自分の所有地だから居座ることができるわけだ。see⇒***possum*** ）/ president（「大統領・社長」・文字通り「pre「前に」座る人」だ。大統領の席はいつも「前」だ。see⇒***pre / -ans*** ）/ preside（「司会する・議長となる」[プリザイドゥ]）

r) resident（「居住者」・re「後ろに」ゆったりと座る人・・の意。住人は最後まで居座るもの。 see⇒***-ans / re*** ）/ residence（「居住」）/ reside（「居住する」[リザイドゥ]）

s) saddle（「(自転車の）サドル・(馬の）鞍（くら)」）/ sedentary（「座りがちの」・要するにメタボだ。）/ sediment（「堆積物」）/ subsidy（「助成金」・下に<sub>すわる・・が原義。これにはさまざまな説が飛び交っている。①「下に座って、お金貸してくれませんか？・・と相談した。」 ②「下に落ち着かせる・・つまり反乱が起こらないように宥（なだ）めるために出すお金だった。」③「古代ローマ軍において、下に座っている兵・・つまり補助部隊、サッカーで言えばサブのメンバーに由来し、補助部隊⇒補助金となった。」これも覚えやすいものでいいだろう。因みに「古代史研究家」を自任する筆者としては、③が気に入っているが・・。）/ session（「会合・会期」・みんなが腰かけて会議・・だ。）/ supersede（「取って代わる」・super<上に>すわる。see⇒***superus*** ）/ 以下、簡単なもので恐縮だが同語源の単語を列挙しておく。set（「置く」）/ seat（「位置させる・座らせる」・sit は「自動詞」、seat は「他動詞」だ。だから「どうぞお座りください」は Please be seated.と「受動態」にしなくてはならない。「自分自身を座らせる」⇒「座る」と表現するわけだ。）/ settle（「定住する」）/ settelment（「植民・植民地・解決」）/ sit（「座る」）/ side（「横・脇」）/ site（「場所」）

(16)signum - signi [スィグヌム・スィグニー]<***羅***> = mark「印」・sequor から派生した語。see⇒***sequor***

a-d) assignment（「宿題・割り当て」・印をつけて割り当てること。もともとは不動産用語で土地の割り当てから来ている。as=ad / see⇒***ad*** ）/ assign（「割り当てる」）/ design（「デザイン・設計する」・印をつけながら計画・設計したことから・・。de は「強調」。see⇒***de*** ）/ designate（「指名する」・「ディズィグネイテッド・ヒッター<designated hitter = DH>」といえばプロ野球ではパ・リーグの「指名打者」を言う。守備にはつかず、打順が回ってきたときだけに打席に立つバッターのこと。パ・リーグ特有のシステムであり、打撃にすぐれた選手が当てられる。）

r-s) resign（「退職する・辞める」・re は反対語。see⇒***re*** sign = seal で「封印する」。したがって「封印を破って中の書類を破棄する」が原義。また resign は「中途退社」だが、retire は「定年退職する」という違いもある。名詞は retirement だ。）/ resignation（「退職・辞職」）/ sign（「兆候・しるし・標識」・「芸能人のサイン」という意味はない。「ネオン・サイン」という時の「サイン」だ。see⇒***sequor*** 芸能人のサインは autograph と言う。名詞でも動詞でも使える。see⇒***autos / grapho*** ）/ significant（「重要な」・重要なものには印をつける。see⇒***-ans / facio*** ）/ significance（「重要性」）/ seal（「封印・判」・封印は開けてないという印。）/ signal（「信号」）/ signify（「意味する」・相手にサインを送るわけだ。-fy = ***facio*** / see⇒***facio*** ）/ signature（「署名」）

(17)sim - sem [シム・セム] <***羅***> = same・「セム」は「セイム」なのだ。ギリシャ語の ***sym*** = σ υ μ / ***syn*** = σ υ ν [シュム・シュン]に由来。

a) assemble（「集める」・「似た<sem>物を集める」が原義。as = ad だから「同じ方向へ・・」の意。see⇒***ad*** ）/ assembly（「会議」・人が集まる。）/ assembly line（「流れ作業」・「同じ方向へ流れる」から。）/ assimilate（「同化する」・体内に取り入れて自己の一部にしてしまうこと。植物の「光合成」を「炭酸同化作用」と呼ぶ。CO2 を体内に取り込むことだ（正確には C だけ吸収して O2 は吐き出すわけだが・・。）。「スター・トレック」に「ボーグ」という宇宙人が登場する。何と彼らは地球人を改造して仲間にしてしまうのだ。これを「assimilate」と映画では表現していた。）

f-r-s) facsimile（「ファックス」[ファクスィミリ(ー)]・同じ<sim>ものを作る<fac>こと。アクセントにも注意！see⇒***facio*** = make ）/ resemble（「似ている」・似てる<sem>と思うのは 2 回目<re>に会ったとき。see⇒***re*** ）/ resemblance（「類似」see⇒***-ans*** ）/ seem（「～のように思える」・似ているからそう思えるのだ。）

sim) simple（「単純な」see⇒***plico*** ）/ similar（「類似の」）/ similarity（「類似・類似点」）/ simultaneous（「同時の」[サイマルテイニアス]・taneous = ***tempus*** = time だ。see⇒***tempus / -osus*** ）/ simultaneous interpreter（「同時通訳」 interpreter については・・see⇒***prehendo*** ）/ simultaneous equations（「連立方程式」・「同時」というより「同時並行の」がいいかもしれない。equation については see⇒***aequalis*** ）/ simulation（「スィミュレーション」・似た状態を作り出すこと。[シュミレーション]と読む人がいるが間違い。[シュミ]（趣味？）ではなく[シミュ]だ。もっとも「ギリシャ語読みだ！」と言うのであれば、[シュミ]でいいのだが・・。）/ simile（「直喩」・see⇒***meta*** 反対語は metaphor で「隠喩」だ。see⇒***meta*** 「直喩」は「誰にでもわかる喩え（同じものをもってくること)」で、いわば「直球勝負」。「隠喩」は「一見しただけでは分からないようにしてある喩え」で、「変化球」だ。「彼はエジソンのような人だ」は「直喩」であり、「彼は日本のエジソンだ。」が「隠喩」である。「エジソンは日本人ではない。」という知識がなければこの「隠喩」は解けないわけだ。したがって「隠喩」のほうが「レトリック（修辞法)」としてのインパクトは大きい。***simile*** [シミレ]は英語では[シミリ（ー）]と読むので注意。）

sym) sympathy（「同情」 see⇒***pathos*** ）/ symptom（「兆候」・ギリシャ語で「共に<***sym***>落ちる<***pipto*** = = fall >こと」の意。***pipto*** = π

ι π τ ω [ピプトー]も新約聖書でよく登場する単語。長血（生理不順による出血か？）で 10 年以上苦しむ女が、イエスの足元にひれ伏しその衣に触れると病が立ちどころに快癒した・・などという奇跡の物語が至るところに出てくる。この「ひれ伏して」で使われる単語がこの ***pipto*** だ。英語でも fall ill「病気になる」と表現する。日本語でも「危篤状態に陥（おちい）る・・」と言うではないか。see⇒*ab* ）/ symmetry（「対称」・左右が同じこと。metry = meter。つまり長さが同じということだ。see⇒***mens*** ）/ symmetrical（「(左右）対称の」）/ symbol（「象徴」・bol = throw「投げる」だ。see⇒***ballo*** 「同じ<sym>ものを投げる<bol>・置く」の意。「契約の象徴」としてコインを 2 つに割り、「双方」が同じ物を所持していたころの名残りだ。bol はギリシャ語で ***ballo*** = β α λ λ ω [バッロー]「投げる」の派生語。ダンスの ballet[バレイ]も同語源。see⇒***ballo*** t は「サイレント（黙字)」。アクセントにも注意。踊るとき「体を投げ出す」からだ。また「大陸間弾道弾（弾道ミサイル)」を ICBM と言う。ソ連崩壊後はめっきり耳にしなくなったが、昔は恐怖の対象だった。Inter Continental Ballistic Missile[インター・コンティネンタル・バリスティック・ミスル]の意味だ。ball room は「ダンス・フロア」のこと。野球を始めると怒られるので念のため。一方「バレーボール」は volleyball のスペル通り、無関係の単語。***volo - volare*** [ウォロー・ウォラーレ] = fly「飛ぶ」だ。see⇒***longus*** ***volo - velle***「望む」と区別すること。see⇒***volo*** サッカーで言う「ボレー<volley>・シュート」はこちらだ。「地面につく前に打つこと」から来ている。）/ symbolize（「象徴する」see⇒***ismos*** ）/ symbolic（「象徴的な」）

syn) synthesize（「統合する」・矛盾のないように一つにまとめること。see⇒***tithemi / ismos*** ）/ synchronize（「同<syn>時<chronos>進行させる・同時に起こる」・「シンクロさせる・・」などと日本語でも用いる。「シンクロナイズドゥ・スイミング」の「シンクロ」だ。see⇒***khronos / ismos*** ）/ synonym（「同義語」see⇒***nomen*** ）/ syndrome（「症候群」・「同じような症状をもつ病気の総称」をこう呼ぶ。つまり原因がよくわからないということだ。drome=***dramo*** = δ ρ α μ ω = run だから「一緒に走る」の意味となる。「メタボ<metabolic syndrome>」などでお馴染みだ。see⇒***meta*** また AIDS　see⇒***muto / facio*** の S もこの syndrome である。）

(18) skopo = σ κ ο π ω [スコポー] <希> = watch out「監視する」

archbishop（「大司教」[アーク・ビショップ] see⇒***archo*** ）/ bishop（「司教」・bi [ビ]= ***epi*** [エピ]「上」だから「上から監視する者」だ。[エピ]が[ピ]⇒[ビ]となった。see⇒***epi / cata*** ）/ horoscope（「黄道十二宮」・horo = ***hora*** = time だから「時間を見る」だ。この ***hora*** は hour「時間」となって英語の中にも生き延びている。もともと時の経過を観察するためのもの。「歳差運動」という言葉をご存じだろうか。地球は自ら「自転」し、太陽のまわりを「公転」するとともに「第 3 の運動」をしている。それがこの「歳差運動」だ。回転する独楽（コマ）のように、地軸が「首振り運動」をしているのだ。従って現在は「北極星（こぐま座α星)」を中心に星々は地上から見て反時計回りに回転しているように見えるが、何千年も昔の人々は他の星を「北極星」として見ていたということになる。またそのあおりをくって、他の星座も少しずつその位置を変える。「春分点（春分の日)」を例に取ろう。この日の太陽は、現在は「みずがめ座」とともに東の地平線から上ってくる。つまり「春分の日には絶対に水瓶座は見えない」ということだ。そしてこれは何百年も変わらない。故に現代を「みずがめ座の時代」と呼ぶ。しかし 2160 年前にはこれが「うお座」であり、4320 年前には「牡羊座」であったのだ。12 星座が一周するのに 2160 年×12 = 25920 年かかる。何とも気の遠くなりそうな天体ショーである。「時を観察する」の意味がおわかりいただけただろうか・・。）/ kaleidoscope（「万華鏡」・k をもろに[カ]と読んでいるからギリシャ語起源の単語だとわかる。kal =***kalos*** = κ α λ ο ς [カロス]「良い・美しい」+ ***eidos*** = ε ι δ ο ς [エイドス]「姿・形」だから、「美しい物を見られる鏡」となるか？***eidos*** は ***ido***「見る」に由来。「目に見える物」⇒「姿・形」となった。see⇒***ido*** ）/ microscope（「顕微鏡」・小さい<micro>物を見る。see⇒***mikros*** ）/ skeptical（「懐疑的な」・(疑いの目で）見る・・だ。）/ skeptic（「懐疑論者・無神論者」）/ skepticism（「懐疑論」see⇒***ismos*** ）/ scope（「見ることができる範囲」）/ telescope（「望遠鏡」・遠く<tele>を見る。see⇒***tele / porto*** ）

(19) socio - sociare - sociavi - sociatus [ソキオー・ソキアーレ・ソキアーウィー・ソキアートゥス] <羅>「社交する・同盟する」・こちらも ***sequor*** からの派生語だ。see⇒***sequor***

social（「社会的な」）/ sociable（「社交的な」）/ society（「社会」see⇒***sequor*** ）/ associate（「付き合う・連想する」・「～に対して<as = ad>付き合う」だ。see⇒***ad*** ）/ association（「協会」・「西城秀樹」のヒット曲「Y.M.C.A.」は Young Men's Christian Association「キリスト教青年協会」だ。「キリスト教精神に基づいて青少年の教育、活動などを支援しよう・・」という団体のことである。その「ヒデキ」も今や「草葉の陰」だが・・。また今や世界的スポーツとなった「サッカー<soccer>」も、この association が語源だ。Association football「協会ルールに基づいたフットボール」だ。soc に c を重ね、「～する人」の er を最後にくっつけた「造語」である。）/ sociology（「社会学」see⇒***logos*** ）/ sociological（「社会学の」）

(20) sol - solis [ソル・ソリス] <羅> = sun「太陽」

solar （「太陽の」・「ソーラー・パネル」で今や知らない人はいない。）/ solar system（「太陽系」）/ solar eclipse（「日食」see⇒***longus*** ）/ parasol（「パラソル」・太陽に対する準備<prepare>の意。see⇒***para*** また sol に関してラテン語の諺を一つ。***Nihil novum sub sole.*** [ニヒル・ノウム・スブ・ソレ]「日のもとに新しきものなし」。これもどこかで聞き覚えのある言葉だろう。「旧約聖書・伝道の書」の一節だ。これも英語で There is nothing new under the sun.では恰好がつかないから、ラテン語で覚えておいたほうがいいだろう。***novum*** = ***nova*** = new / ***sub*** = under / ***sole*** = ***sol*** = sun だ。see⇒***nova / sub*** また ***nihil*** = nothing だ。「ニヒルな奴」だの「ニヒリズム（虚無主義）<nihilism> see⇒***ismos*** 」などと言う、あのニヒルだ。）

(21) solus - sola - solum [ソルス・ソラ・ソルム] <羅> = alone / only「たった一人の」

solemn（「荘厳な」）/ solitary（「孤独な」）/ solitude（「孤独」）/ solo（「独唱」）/ console（「慰める」・みんな<con>で慰めてやること。see

⇒***cum*** ）/ desolate（「孤独な・寂しい・荒れ果てた」de は「離れて」の意。see⇒***de*** ）

(22)sono - sonare - sonui - sonitus [***ソノー・ソナーレ・ソヌイー・ソニトゥス***] ***<羅>*** = sound「音がする」/ utter「声に出す」・また ***sonus - soni*** [***ソヌス・ソニー***]で「音」となる。「ソナー」といえば「魚群探知機」で有名。音波で魚の群の所在を突き止める。これで「音」関係の単語だと類推できる。「ソニー」や「パナソニック」などもこの ***sonus*** だ。「パナソニック<Panasonic>」は文字通り ***pan***「すべての」+ ***sonus***「音」の意。see⇒***pas*** 昔は「松下電器」や「ナショナル」と言った。プロレス中継はこの「ナショナル」が提供しており、番組の終わりには「明るいナショナル♪♪」と CM ソングを聞かされて筆者は育った。しかし「ナショナル」が「ナショナリズム（国家主義）」を連想させるということで、海外進出に際して「パナソニック」に変更したと聞く。

c) consonant（「子音」・いっしょ<con>に響く・・が原義。口の中のいろいろな部分をすべて<con>動員して発音することから・・。当然「母音」より発音が大変だ。see⇒***-ans*** 一方母音は vowel[バウウェル]という。vowel は voice と同根の単語 see⇒***vox*** だが、ここで Great Vowel Shift[グレイト・バウウェル・シフト]「大母音転移」について書いておく。英語を中 1 で始めた方の頭痛の種は、「スペルと発音（母音）の不一致」だ。同じスペルなのに読み方が違う。実はこんな言語は英語だけなのだ。ラテン語にもギリシャ語にも「発音記号」など存在しない。スペルを見れば読み方がわかる。アルファベットは「表音文字」だからだ。しかし英語だけは違う。どうしてこんなことになったのか。これもまた「英語の歴史」に原因がある。ヨーロッパの人口を実に 3 分の 1 にまで激減させた「ペスト」という疫病がある。このあおりをくって、知識階級が壊滅的打撃を受けたのだ。読み書きができない農民ばかりが生き残った。そこで彼らは好き勝手に単語を読み始めたのだ。文句を言っても仕方がない。「多勢に無勢」である。そこでスペルの方を発音に合わせることが考えられたのだが、おりしも運悪く（?）「ヨハネス・グーテンベルク」の「活版印刷術」の普及のため、スペルを変更する前に書物が爆発的に広まってしまった・・ということらしい。二重の意味で「悲劇」であった。しかし日本人がそれほど違和感を持たないのは「漢字」の伝統があるからだ。漢字には何種類もの読み方がある。だから「英語もそんなもんだろ・・」程度にしか感じないわけだ。漢字は「表意文字」だ。だから読み方はわからなくていい。しかしアルファベットは「表音文字」なのだ。音を伝えるための文字に何種類もの読み方があるというのは、これはやはり「欠陥言語」と言わざるを得まい。いずれにしても過ぎたことは仕方がない。受験生諸君には「頑張って覚えてくれ！」としか言えない。）

d) dissonance（「不調和・不協和音」・dis は「離れて」。「離れた音を出す」が原義。see⇒***dis / -ans*** ）

p-r) person（「人」・ギリシャ語のペルソナ<***persona*** >「仮面」に由来する。「人」は「仮面」をかぶるものだ。さらに遡れば、仮面の下から聞こえる役者の「声」だ。「人格＝役者」とは何だか怖いが・・。ここで personality と character の違いも確認しておこう。日本語で区別するのはいささか難しい。personality の「人格」に対して character は「性格」とでも訳すべきか。***characto＝χ α ρ α κ τ ω*** [***カラクト―***]はギリシャ語で「刻みこむ」の意味だからだ。character は生まれ持ったもので変えられないが、personality は後天的に習得が可能なものだ。personality の「外見」に対し、character は「本性」と考えればいい。「性格」の「性」は「性悪説」「性善説」などの「性」であり、「さが」とも読むから生まれ持ってのものだとわかる。一方「人格」と言うと「人格者」など、何やら高潔なイメージがあるが、「二重人格」や「多重人格」など、必ずしも良い意味とは限らない。characteristic で「特有の・特色」となり、Chinese character で「漢字」となる。確かに文字を骨に刻んだことから漢字の歴史は始まっている。see⇒***littera*** ）/ personal（「個人的な・私的な」）/ personnel（「職員・隊員」・アクセントに注意。[パーソネル]だ。staff も「職員・スタッフ」だが、こちらは「課長以下」で、personnel は「社長まで含む」ということらしい。また「隊員」など、特徴的な意味もある。personal と読み違えないこと。もっとも由来はやはり person「人（=人員）」から来ている。staff には stuff「物・材料・詰め物をする」という、これまた紛らわしい単語がある。）/ resonance（「反響」・再び<re>響く。see⇒***re / -ans*** ）

s) sonar（「ソナー・水中音波探知機」）/ sonata（「ソナタ」）/ sonic（「音の」）/ supersonic（「超音速の・超音波の」see⇒***superus*** ）/ sonnet（「ソネット」）/ song（「歌」）/ swan（「白鳥」・白鳥は死ぬときだけ鳴くらしい。）

(22)specio - specere - spexi - spectus [***スペキオー・スペケレ・スペクスィー・スペクトゥス***] ***<羅>*** = look at ～「見る」・spe / spi / spa などに注意。

a-c) aspect （「(物事の）面。側面・観点・様相」・冒頭の「仮定法のウソ」のところで述べた概念だ。a= ad で「(～の方を）見る」という意味だ。see⇒***ad*** ）/ conspicuous（「人目につく」・みんな<con>が見てること。see⇒***cum / -osus*** ）

d) despise（「軽蔑する」・人を見下す<de>こと。see⇒***de*** ）/ despair（「絶望」・希望がない<de>こと。see⇒***de*** ）/ desperate（「絶望した」・発音・アクセントは[デスパリットゥ]）/ desperately（「やけになって・絶望的になって」）

e) expect（「期待する」・何かいいことないかいな？と外<ex>を見ること。x に s が吸収された。see⇒***ex*** ）/ expectation（「期待」）/ Esperanto（「エスペラント語」・「どの国の人にも不公平にならないように人工的言語を作ろう・・」という試みがかつてあった。しかしその崇高な志にも拘わらず、期待したほどには普及していない。言語とは結局は自然発生的なものだということだ。ところで私事で恐縮だが、昔「エスペランサ」というスペインの女の子がいた。「エスペランサって希望っていう意味なのよ」と教えてもらったことがある。）/ espionage（「スパイ活動」・「スパイ<spi = spy>」があるから類推は容易だ。「外に<e = ex>探索に行く人」の意。see⇒***ex*** ）/ especially（「とりわけ・特に」・specially「特別に」と違うのは、例えば「好きな物」など何か例を挙げて、さらに付け加える形で「その（好きな物の）中でもとりわけ・・」という文脈で用いる。「その中から<e = ex>さらにナンバー・ワンの物を選べば」という意味だ。see⇒***ex*** ）

i) inspect（「検査する」・in「中」を見ること。see⇒***in①*** ）/ inspector（「査察官」）

p) prospect（「見込み・可能性」・文字通り「前<pro>途への展望」だ。see⇒***pro*** ）/ prospective（「見込みのある・期待できる」）/ perspective（「展望」・per「全体」を見渡すこと。see⇒***per*** ）

r) respect（「尊敬する・点」・尊敬する人は何度でも<re>見たくなる。また「点」という意味もある。in this respect で「この点において・・」となる。どこかで書いたと思うが「見る」⇒「視点」⇒「点」となった。see⇒***re*** ）/ respectable（「尊敬すべき・立派な」・尊敬される方・・だ。）/ respectful（「尊敬している」・こちらは尊敬する側。）/ respective（「めいめいの・各々（おのおの）の」・この意味も「点」から来ている。）/ respectively（「めいめい・各々」）/ regard（「見なす・考える」・これはラテン語・ギリシャ語系ではないが載せた。respect と regard は熟語において「～という点で」と、非常に似かよった意味で使われるからだ。regard は guard に re がついたものだ。guard は「ガードマン」からもわかるように「見張る」だから、regard は「よく見る・何度も<re>見る」の意味となる。with regard to ～で「～に関して・～という点で」という熟語も出てくる。この由来は respect と同じだ。regard にも respect と同じで「尊敬」・「点」という 2 つの意味がある。ラテン語系とゲルマン語系の違いはあれ、「見る」の意味は共通だ。詳しくは・・see⇒***re / verto*** ）/ retrospect（「回想」・後ろ<retro>を振り返ること。）/ retrospective（「懐古趣味の・昔を懐かしがるような」日本語で言う「レトロ」がこの retrospective だ。see⇒***retro*** ）

spec) speculate（「推測する」）/ speculation（「推測・投機」・先が見えないとできない。）/ spectrum（「スペクトル」）/ species（「種（しゅ）」[スピーシィーズ]・チャールズ・ダーウインの「種の起源<On the Origin of Species>」の「種」である。「たね」と読まないように。「種」が同じなら見かけも同じ。因みにこの名詞は「単複同形」だ。ラテン語でもまったく同じスペルで読み方は[***スペキエース***]。単数と複数がまったく同じ形を取る「第 5 格変化名詞」だ。また「スピーシーズ」などという SF 映画もあった。きれいなお姉ちゃんが実は宇宙からやってきたエイリアンで、スケベな男たちを次々と食ってゆく・・というストーリーだ。「ホラー ＋ お色気」で結構楽しめる。）/ specimen（「見本」[スペスィミン]・容貌がかけ離れていたら「見本」とはならない。）/ specific（「特有の」・外見が特徴的な・・ということ。）/ specifically（「とりわけ・特に」）/ spectator（「観客」）/ spectacular（「壮観な」）/ spectacle（「壮観・見物（みもの）」see⇒***culum*** ）/ special（「特別な」）/ specially「特別に」/ specialize（「専門とする・専攻する」see⇒***ismos*** ）/ specialist（「専門家」・反対語は generalist「何でも屋・万能選手」だ。see⇒***genus*** ）/ specialty（「専門・専攻」）

spi) spice（「スパイス」・種（たね）をじっくり見て選り分けたらしい。当時アジアの「香辛料」は、ヨーロッパでは同じ重さの金（きん）と取引きされたという。）/ spite（「悪意」・軽蔑<despise>はやがて悪意に変わる。・in spite of ～「～にも拘らず」もこの spite だ。「周囲の意地悪にもめげずに・・」というのが原義。despite ～も同じ意味。悪意<spite>を否定<de>しているからだ。see⇒***de*** 因みに despite of ～の形はないので注意を要する。間違える人が後を絶たない。in spite も、もとは inspite と 1 語だった。この in も「否定」の in で、see⇒***in②*** 理屈は de と同じである。尚 spite はこの despite の de が欠落したものだ。さらに in spite of oneself「思わず～してしまう」という熟語もある。どうして「思わず」なのか？He laughed in spite of himself.「彼は思わず笑ってしまった」で検証してみる。ここでの he と himself は「別人格」だと考える。himself は「笑いを制御せんとする理性的な彼」であり、He は「それでも笑ってしまう感情を抑えきれない彼」である。したがって「理性的な彼が抑えようとしたにも拘わらず、それでも感情的な彼は吹き出してしまった・・」の意味となる。ただしこれは「鈴木説」だ。他に面白い解釈があればご教授願いたい。）

sus) suspect（「～ではないかと疑う」・疑うときは下<sus = sub>からまじまじと見上げる。see⇒***sub*** ）/ suspicion（「嫌疑」）/ suspicious（「怪しげな・疑いを持っている」see⇒***-osus*** ）

その他) spy（「スパイ」・じーっと見てる。）

(23)sphaira **=σ φ α ι ρ α [スファイラ]<希>**・「まり・球」・後ろに - sphere などと着くものはすべてこの「スファイラ」だ。ラテン語では ***globus*** **[グロブス]**となる。巷で盛んに使われている global「グローバル」の globe である。

sphaira 関係) atmosphere（「大気圏」***atmos*** **=α τ μ ο ς**は「蒸気」の意。）/ hemisphere（「半球」・hemi = half / see⇒***hemi*** ）/ north hemisphere（「北半球」）/ lithosphere（「岩石圏」・***lithos*** = rock / see⇒***monos / lithos*** ）/ stratosphere（「成層圏」・***stratum<羅>*** は blanket「毛布」の意。あたかも毛布のように地球を包んでいるからだ。）

globus 関係) globe（「球体・地球」・***sphaira*** とは無関係だが「球体」つながりで掲載した。glove[グラヴ]「手袋・グローブ」と間違えないこと。こちらはゲルマン語起源で「手のひら」の意味だ。）/ global（「世界的な」・「球体」⇒「地球」⇒「世界」となった。）/ globalism（「グローバリズム（世界を一体化した共同体とみなす思想）」・「グローバリズム」ではなく、実態は「アングロ・サクソニズム」なのだが。see⇒***ismos*** ）/ globalization（「グローバライゼイション（世界の一体化）」see⇒***ismos*** ）/ hemoglobin（「ヘモグロビン」・「血の小球」という意味だ。hemos **=*haima* = α ι μ α [ハィマ]**はギリシャ語の blood「血」だ。）

(24)spiro - spirare - spiravi - spiratus **[スピーロー・スピーラーレ・スピーラーウィー・スピーラートゥス] <羅>**「息を吹き込む」が原義。

inspire（「霊感を与える・鼓舞激励（こぶ・げきれい）する」・神がアダムを創ってその体内<in>に息を吹き込み命を与えたことから・・。see⇒***in①*** ）/ inspiration（「霊感・ひらめき」・霊感は神から吹き込まれるもの。「モーツアルト」は作曲の極意を尋ねられ「だって天から音楽が降りてくるんだもん！」と答えたと言う。）/ expire（「効力を失う・失効する」・inspire の反対語ではない。「息（魂）が外に<ex>出てゆく」が原義だが、「死ぬ」の意味は今ではない。x に s が吸収された。see⇒***ex*** ）/ conspiracy（「共同謀議」・みんな<con>で「ひそひそ話」だ。see⇒***cum*** ）/ perspiration（「発汗」・汗は体全体<per>からかくものだ。see⇒***per*** Genius is 1 percent inspiration, 99 percent perspiration.「天才は一分の霊感・九分の発汗」は、発明王「エジソン」の有名な言葉。要するに「努力が大切」ということだ。「一分は 10%じゃないの？」などと屁理屈をこねないことだ。）/ transpire（「（植物が水分などを）発散する・老廃物を排泄する」・越えて・向こうに<trans>だから「細胞壁を越えて葉っぱの外に」だ。see⇒***trans*** ）/ aspire（「熱望する」・「～に向かって<as = ad>ため息をつく」とでもなろうか・・。see⇒***ad*** ）/ respirator（「人工呼吸器」・再び<re>呼吸させるもの。see⇒***re*** ）/ spirit（「精神・霊」）/ spiritual（「精神的な・霊的な」・「ス

ピリチュアル」ももはや日本語。）

(25) spondeo - spondere - spopondi - sponsus [スポンデオー・スポンデーレ・スポポンディー・スポーンスゥス] <羅> = promise 「約束する・保証する・婚約する」・ただし「自ら誓いをたてて行うことを約する」ことだ。

c) correspond（「通信する・文通する・一致する」・手紙のやりとりを共に<co = ***cum*** >約束した人・・が原義。see⇒***cum*** ）/ correspondence（「通信」）/ correspondent（「特派員」・海外の情報を送ってくれる人。see⇒***-ans*** ）

r) respond（「反応する」・「後ろに<re>向けて誓う」が原義。後ろから声をかけられて振り返る様子を想像すること。see⇒***re*** ）/ responsible（「責任ある」・責任者はすぐに反応してくれなくてはいけない。）/ responsibility（「責任」）/ response（「反応」・「すぐにリスポンスが返ってきた」などと言う。）

s) spontaneous（「自発的な・自然の」see⇒***-osus*** ）/ spontaneously（「自発的に・自然に」）/ spontaneity（「自発性」[スポンタニーァティー]）/ spouse（「配偶者」・[スパウス]・結婚した相手。文字通り将来を約束した相手。）/ sponsor（「スポンサー」・お金を出してくれる人。「私がお金を出しましょ！」と自発的に言ってくれる気前のいい人だ。）

(26) stella - stellae [ステッラ・ステッラエ] <羅> = star・ギリシャ語だと ***astron*** = α σ τ ρ ο ν [***アストゥロン***]となる。see⇒***astron***

interstellar（「星間の」・文字通り星の inter「間」だ。see⇒***inter*** ）/ constellation（「星座」は星が con「一緒」になってできる。これも「スター・トレック」で宇宙船の名前として登場する。see⇒***cum*** ）

(27) stizo - stizein = σ τ ι ζ ω - σ τ ι ζ ε ι ν [***スティゾー・スティゼイン***]<***希***>「焼き印を押す」・「句読点を入れる」比喩的に「殴る」などだが「突く」をイメージした方がよさそうだ。

d) distinct（「異なった・明確な」・棒で明確な境界線を引いて 2 つ<di>に分けることイメージすればいい。see⇒***di*** ）/ distinctive（「独特の」）/ distinction（「区別」）/ distinguish（「区別する」・distinguish A from B「A と B を区別する」も必須熟語。tell A from B とも言うが、tell は「告げる」ではなく know「知る・分かる」の意味だ。）

e-i) etiquette（「エチケット」・杭（くい）に張り紙をして「お触書」を張ったことに由来する。「行儀よくせい！」ということだ。フランス語経由ゆえ、見る影もなく形が変わり果てている。）/ extinguish（「消す」・徹底的に<ex>火を突いて消した。江戸時代の火消しをイメージすること。s は x に吸収された。see⇒***ex*** ）/ extinguisher（「消火器」）/ extinct（「絶滅した」・これは形容詞だ。文字通り「種（しゅ）ごと消されて」しまった・・という意味である。）/ extinction（「絶滅」）/ instinct（「本能」・体の中<in>を刺されるような刺激のことだ。see⇒***in ①*** ）/ instinctive（「本能的な」）

s) stick（「棒」）/ stimulate（「刺激する」・針で突き刺すこと。）/ stimulus（「刺激」・複数形は stimuli[スティミュライ]となる。ラテン語の「第 2 格変化名詞」がそのまま英語に保存されている。）/ sting（「刺す」・その華麗なるファイティング・スタイルを「蝶のように舞い、蜂のように刺す<Float like a Butterfly, Sting like a Bee.>」と形容されたのは、ヘビー級ボクサーで、先日パーキンソン病で他界した「モハメド・アリ」だ。「ジョージ・フォアマン」を倒した「キンシャサの奇跡」や、我らが「アントン（アントニオ猪木）」との異種格闘技戦で有名な、あの「モハメド・アリ」である。また「ロバート・レッドフォード」と「ポール・ニューマン」が共演した「スティング」という映画もあったが、それもこの sting だ。「ぐさりと刺す」⇒「相手を出し抜く・いっぱいくわせる」という意味の俗語<slang>らしい。）

その他) ticket（「チケット・切符」・もともとは「張り紙」の意。「エチケット」の「エ」が取れた。）

(28) sto - stare - steti - statum [ストー・スターレ・ステティー・スタートゥム] <羅> 「立つ」また ***sisto - sistere - stiti - status [シストー・システレ・スティティー・スタトゥス] <羅>*** 「立たせる」・前者が自動詞、後者が他動詞だ。膨大な数になってしまった。できる限り見やすいようにまとめたが、あとは何とかこらえて欲しい。

a) armistice（「停戦」see⇒***arma*** ）/ arrest（「逮捕する」・rest「休み」からの派生語。「休む」⇒「何もしない<stop>」⇒「何もしないようにさせる」⇒「（犯罪を）止めさせる<cause to stop>」⇒「逮捕する」となった。「～の方へ<ar = ad>止めに入る」となる。rest については r の箇所を参照して欲しい。see⇒***ad*** ）/ assist（「援助する」・援助するにはその人寄り<as = ad>の立ち位置になることが必要だ。see⇒***ad*** ）/ assistance（「援助」）/ assistant（「助手」see⇒***-ans*** ）

c) consist（「存在する・成り立っている」・① consist in～「～の中に存在している」・② consist of～「～から成り立っている」も頻出熟語。）/ consistent（「首尾一貫した」see⇒***-ans*** ）/ consistency（「一貫性」）/ constitute（「構成する・設立する」・みんな<con>で立たせる・・が原義・see⇒***cum*** ）/ constitution（①「構成・構造」 ②「体質」③「憲法」・憲法はみんなが拠って立つ基盤だ。また「国民の体質を表すものだから憲法だ。」とは先日亡くなられた上智大学の「渡部昇一」先生のご解釈だ。）/ constituent（「構成要素・成分」・物質を成り立たせるもの。see⇒***-ans*** ）/ contrast（「対照」・contra「反対側に」 + stand「立つ」の短縮形だ。see⇒***contra*** ）/ contrary（「反対の・逆の」・sto には関係ないが、contra つながりで載せた。see⇒***contra*** ）/ cost（「費用・原価・費用がかかる」・「すべて<co>は～から成り立って<stand>いる」が原義。「必要経費の内訳」を説明しているわけだ。see⇒***cum*** ）/ constant（「一定の・常の」・数学の「不定積分」でやってくる「定数 C」がこの constant だ。原義は「みんな<con = cum>で立ち上がる」だ。協力して立ち上がれば堅固な（定まった）ものができあがる・・という理屈らしい。see⇒***-ans*** ）/ circumstance（「環境」・「周り<circum = circle>に立つもの」が原義。see⇒***kyklos / -ans*** ）

d-e-h) distance（「距離・隔たり」・「離れて<dis>立つ」が原義。see⇒***dis*** ）/ distant（「遠くの・隔たった。」see⇒***-ans*** ）/ destiny（「運命」・人間は運命の下<de>に立つ存在・・という考え方だ。運命には逆らえない。see⇒***de*** ）/ destination（「目的地」・運命の最終到達地点。）/ exist（「存在する」・存在感を見せるためには外<ex>に立たないとダメ。x に s が吸収された。see⇒***ex*** ）/ existence（「存在」see⇒***-ans*** ）/ establish

（「設立する」・「外に<e = ex>建てる・・」が原義。またこの e には意味がなく、単に音を整えるためだとする説も一方ではある。see⇒***ex*** ）/ establishment（「設立」・「エスタブリッシュメント」には「支配層」という意味もある。有名なのはアメリカの WASP[ワスプ]。所謂 White Anglo-Saxon Protestant[ホワイト・アングロサクソン・プロテスタント]だ。アメリカの富の半分を、わずか数百人の人々が独占し、政財界のほとんどすべてを牛耳っていると言われる。）/ estate（「地所」・「今立っている場所」⇒「土地・地所」となった。e はフランス語の影響で付いたらしい。筆者はフランス語がまったくダメなのでよく分からないが・・。）/ ecstasy（「有頂天・歓喜」・体外<ecs = ex>に出て立ち尽くす・・が原義。早い話が「幽体離脱」だ。かなりいい気分らしい。もっとも「留守」の間に悪霊に体を乗っ取られることもあるらしいのでご用心。see⇒***ex*** ）/ homeostasis（「ホメオスタシス・恒常性」see⇒***homoios*** ）

i) insist（「(立場を) 主張する」in = on「上に」立つ。主張するときには下手に出てはだめだ。繰り返しになるが、ラテン語では in という単語はまだない。in は on が代用していたのだ。したがって「中」なのか「上」なのかを文脈から判断しなくてはいけない。see⇒***in①*** ）/ insistent（「強要するような」see⇒***-ans*** ）/ insistence （「主張・強要」）/ install （「備え付ける」see⇒***in①*** ）/ instance（「例」・語源は instant「即座の」と同じ。see⇒***-ans*** 「すぐそば<in = on>に立ってせかす。」⇒「緊急の」だ。「インスタント・ラーメン」のインスタントだ。「すぐそばにある物」⇒「現実に存在しているもの」⇒「実例」ということらしい。確かに「手近なものを例にとれば・・」と言う。）/ institution（「組織・設立」・上<in = on>に建てられたもの。see⇒***in①*** ）/ institute（「(制度などを) 制定する」・また名詞で「研究所」という意味もある。有名な「マサチューセッツ工科大学<MIT>」は Massachusetts Institute of Technology だ。）

o-p) obstacle（「障害」・反対して<ob>立つもの。see⇒***ob / culum*** ）/ persist（「固執する」・per「徹底して」立場を主張すること。see⇒***per*** ）/ persistence（「固執・粘り強さ」）/ persistent（「固執した・しつこい」see⇒***-ans*** ）

r) resist（「抵抗する」・re「反対して」立ち上がること。see⇒***re*** ）/ resistance（「抵抗・レジスタンス」see⇒***-ans*** ）/ restaurant（「レストラン」・起源には諸説あるが、どうも restore に由来するらしい。「レストランで一休み<rest>して元気回復・・」ということらしいが・・。store については s のところに書いた。）/ rest（「①残り ②休息」・一見無関係そうに見えるが同語源の単語。「うしろ<re>に立つ」から「残り」の意味が出た。後ろに立っているのは「居残り組」だ。後ろに下がれば「休み」を取ることもできる。「下がって休め！」などと言う。ここから「休息」の意味が生まれた。）/ restore（「回復する・復興・復元する」・再び<re>エネルギーを蓄える<store>こと。see⇒***re*** ）/ restoration（「回復・復興」・The Meiji Restoration とくれば「明治維新」の「王政復古」となる。むろん「薩長」に「万葉の昔にもどそう」などという腹は毛頭なく、「尊王攘夷」を建前に幕府を倒したので引っ込みがつかなくなったのだ。やったことはまるで「逆」。日本の古き良き伝統の徹底的破壊だ。「攘夷（外国を打倒する）はいつ決行するんですか？」と部下に聞かれた「せごどん（西郷隆盛）」は、「え？お前、あんなの本気にしてたの？」とあきれ顔だったという。）

star) stare（「じっと（立ち止まって）見る」）/ starve（「飢える」・空腹で動けなくなるから。）/ starvation（「飢え・餓死」）/ star（「星・恒星」・see⇒***sido*** 「常に立ち止まっている星」の意。「立ち止まっていない星（惑星）」は star とは言わない。planet だ。see⇒***sido*** これもどこかで書いたが、「惑星<planet>」はギリシャ語で文字通り「さまよう・放浪する<***planeto = π λ α ν ε τ ω [プラネト―]*** = wander>」の意。「プランクトン<plankton>」もこの仲間だ。あえて訳すなら「浮遊生物」となる。plan や plane とはスペルが似ているが無関係だ。）

stat) state（「①国家 ②状態 ③述べる」・①「国家」とは主権を持つもの。つまり「自分の足で立っている国・・」という意味だ。また「立場・姿勢」から②「状態」の意味が、さらに「自らの立場を説明する・・」から③「述べる」の意味が生まれた。state に関しては後ろで再度登場させたが、話の流れ上とりあえずまず冒頭に置いた。）/ statesman（「政治家」・「国家 100 年の計」を考える人物だ。see⇒***polis*** politician との違いは see⇒***polis*** ）/ statement（「声明・陳述」）/ station（「駅」・立ち止まる場所。）/ stationary（「静止した」・要するに「棒立ち」だ。）/ stationery（「文房具店」・発音は stationary とまったく同じ。市場にお店（場所）を持っていた。売り子さんは立ったままでお客に応対していた。座っていては失礼だ。また大学当局から文具販売の権利を恒久的に委託されたからとする説もある。この説からすれば「揺るぎない立場を築いた」という意味になる。）/ static（「静的な」・所謂「棒立ち」だ。）/ statue（「彫像」・確かに「立って」いる。）/ statute（「法令・規則」・「立てられたもの」の意。日本語でも法律を作ることを「立法」と言う。国会は「立法府」つまり「法律を作る（立てる）場所」だ。中 3 の公民の時間に「三権分立（立法・司法・行政）」と習ったはずだ。一方 law「法律」の語源は lay で「置かれたもの・横たえられたもの」の意。「立てる（ラテン系）」と「横たえる（ゲルマン系）」で対照的な点が興味深い。尚 statue と読み違えないこと！）/ stature（「身長」・立ったときの背の高さ。）/ statistics（「統計・統計学」・state「国家・状態」に由来する。国家の状態を把握するための調査の学問・・という意味だ。see⇒***polis*** ）/ statistical（「統計上の」）/ state（「国家」・estate の e が欠落したもの。立場のしっかりした国。すなわち「主権国家」を指す。ここで country / nation / state の区別をはっきりしておこう。country は一般的な「国」という意味でも使えるが、「田舎」という意味もあるように「故郷（くに）」とした方がいいだろう。同じ日本人に「おクニはどちらですか？」と尋ねて「日本です」などと答えたらぶっとばされる。「生まれはどこ？」と言う意味で、「東北の仙台です。」とか「九州は熊本ですよ。」と答えなくてはならない。nation は ***nascor*** 「生まれる」のところでも書いた。native は「その国生まれの」という意味だ。つまり「民族・言語を同じくする人々が作った国」ということになる。state はすでに書いたが「主権国家」だ。独立して主権を有する国でなくてはならない。「ナポレオン・ボナパルト（ナポレオン 1 世）」の登場によって、ヨーロッパの人々はこの「nation-state（国民国家）」なるものに初めて目覚めたと言われる。破竹の進撃を続けたナポレオン軍の強さの秘密は何か？と他の国の人々が分析した結果、それは「フランスが国民国家だから」という結論に達したのだ。「同じ民族・言語・文化を有する国家は、自分たちの故郷を守ろうとする気概が強いゆえに戦争も強い」ということである。「え？そんなの当たり前でしょ？」などと考えてはならない。日本のような島国と異なり、ヨーロッパのそれまでの国は、「国王の私有地」でしかなかった

のだ。領土に「飛び地」が見られるのはそのためだ。軍隊は無論「傭兵（ようへい）」である。金で雇われた連中だ。負け戦となれば蜘蛛の子を散らすように逃げ帰る。これで戦争に勝てるわけはない。現在のような純然たる「ネイション・ステイツ」が誕生するのは、実はナポレオン戦争以降のことなのだ。それ以前には「国家」なるものは存在しなかった。）/ status（「地位」・要するに「立場」だ。）

その他） stabilize（「安定させる」・「スタビライザー」といえば「安定化装置」だ。車の車輪の間などに取りつけられ、コーナリングの際などに、内輪に過重が集中して車体が浮き上がるのを防止する装置だ。see⇒***ismos*** ）/ stability（「安定性」）/ stable（「安定した」・table「テーブル」とは関係ない。table のルーツは「タブレット・板<tablet>」だ。***tabula - tabulae [タブラ・タブラエ]***「板」に由来し、「タブレット端末」の登場で一躍認知された。テーブルも確かに安定しているが・・。「タブレット端末」の登場までは、「タブレット」と言えば古代メソポタミアの「楔形文字」の刻まれた粘土板を指すか、神が刻んでモーゼに与えた「十戒石板」を指した。et は「小さい」の意。see⇒***culum / -oid*** ）/ stadium（「スタジアム・競技場」・古代ギリシャの長さの単位 ***stadion＝σ τ α δ ι ο ν [スタディオン]***（複数形は ***stadia*** ）に由来し、やがて陸上競技の「競技場」自体をも意味する言葉となった。およそ 180m に相当するこの距離を、決めた理由がまた面白い。「太陽の上端が地平線から顔を出してから、下端が地平線を離れるまでの時間内に、人間が歩く距離」だそうな。つまり「太陽直径」、「太陽と地球の距離」及び「地球の自転速度」によって決定される距離ということになる。また観客席を「スタンド」と呼ぶのも「観客が立つ場所」から来ている。古代は立って観戦していたのだ。現代でも客は興奮すると立ち上がる<standing ovation>が・・。see⇒***kyklos*** ）/ stance（「スタンス・立場」・「自らの立ち位置をはっきりさせる」と日本語でも言う。see⇒***-ans*** ）/ stall（「屋台」・stationery「文房具屋」と理屈は同じ。）/ steady（「着実な」[ステディー]・「立ったまま動じない」から。また「決まった交際相手」を意味する「ステディー」もこれだ。）/ store（「蓄える」）/ substitute（「代用する」・サッカーで言う「サブ（控え）のメンバー」がこの substitute だ。レギュラーより「立場が下<sub>」の意。see⇒***sub*** ）/ substitution（「代理・代用」）/ substance（「物質」・「下に<sub>しっかり立って支える物」の意。see⇒***-ans*** ）/ substantial（「実質的な・かなりの」）/ superstition（「迷信」・「超越<super>して立つもの」とも、また super = over だから stand over a thing that is amazing「驚くべきものを目にして立ち尽くす」とする説もある。「スーパースティション」などというアメリカのオカルト系ドラマも昔あった。see⇒***superus*** ）/ superstitious（「迷信の・迷信深い」see⇒***-osus*** ）

t) thermostat（「サーモスタット・温度調節器」・直訳すれば「温度が立ち止まる」だ。see⇒***thermos*** ）/ understand（「理解する」・相手の下<sub>に立つこと。上から目線では理解はできない。）/ 尚 tablet / table は stable の項に載せた。

(29) stringo - stringere - strinxi - strictus [ストゥリンゴー・ストゥリンゲレ・ストゥリ-ンクスィー・ストゥリクトゥス] <羅> = draw tight「まっすぐ伸ばす」・stra / stri / stru にも変化。

s) strait（「海峡」・まっすぐ糸のように伸びた水路。） / straight（「まっすぐの」・strait「海峡」と同音語。）/ strait（「海峡」see⇒***candidus*** ）/ strain（「緊張」）/ straw（「麦わら」・平らに伸ばして板の間に敷く。時代劇の農家を想像されたし。無論畳などは、当時の農家にはまだない。）/ strawberry（「いちご」・麦わらの上で栽培する。berry は水分の多い小さな果実を言う。他に blueberry などというのもある。目に良いらしい。アクセントにも注意。）/ stress（「ストレス」・distress の dis が取れたもの。）/ strategy（「戦略」・部隊を展開すること。展開すれば補給線は延びる。） / strategic（「戦略的な」）/ street（「通り」・まっすぐ伸びてる。もともと ***via strata [ウィア・ストゥラータ]***「まっすぐな道」だったが、***via***「道」の方が取れて、***strata***「まっすぐな」が「道」という意味になった。see⇒***via*** ）/ stressful（「ストレスの多い」・ストレスがいっぱい<ful = full>だ。）/ stretch（「伸ばす」・「ストレッチ」だ。）/ stretcher（「担架（たんか）」・これも格闘技ファンにはお馴染みの単語。確かに布が張られている。）/ stride（「ストライド・大またで歩く」・脚が伸びてる。）/ string（「ひも」）/ strict（「厳しい」・ひもで縛られる・・が原義。）/ strive（「努力する」・手足を伸ばしてもがく。要するにクロールだ。）/ struggle（「苦闘する・もがく」・strive の派生語。）

その他） district（「区域」・ロープを張って区切られた土地を想像してみればいい。dis は「分離」。see⇒***dis*** ）/ distress（「悩み・苦痛」・dis は「分離」。「心がひっぱられて引き裂かれる」のが「ストレス」だ。see⇒***dis*** ）/ prestige（「名声」・「ひもで強く結ぶ」⇒「首をひもで締められる」⇒「目がくらむような」⇒「名声」となった。pre だから「前で締める」の意。かつて深夜に「プレステージ」という番組があった。毎週月曜は「オカルト特集」だった。UFO や霊、超能力について、肯定派・否定派に分かれて研究家たちが侃々諤々（かんかん・がくがく）の議論を繰り広げるのだ。バブルの絶頂期だったのでお金も使い放題だったからだ。とにかく夢のある時代だった。see⇒***pre*** ）/ restriction（「抑制・制限」）/ restrict（「制限する」）/ restrain（「抑制する」・後ろ<re>へ引っ張られること。see⇒***re*** ）/ restraint（「抑制」）

(30) struo - struere - sturuxi - structus [ストゥルオー・ストゥルエレ・ストゥルクスィー・ストルクトゥス] <羅> = build「建てる」

c-d) construct（「建設する」）/ construction（「建設」・みんな<con>で一緒に建てましょう・・だ。under costruction で「工事中」となる。）/ destroy（「破壊する」・「積み重ねたものを壊す<de>」こと。かつて「魔王・デストロイヤー」という覆面プロレスラーがいた。力道山やジャイアント馬場と激闘を演じたレスラーだ。必殺技は figure four leg lock[フィギュア・フォー・レグ・ロック]「四の字固め」だ。see⇒***de*** ）/ destructive（「破壊的な」）/ destruction（「破壊」）

i) instruction（「教育」・相手の頭の中<in>に知識を確立すること。see⇒***in①*** ）/ instruct（「教える」）/ instructive（「教育的な・ためになる」）/ instructor（「教師・インストラクター」）/ industry（「産業・勤勉」・勉強は上<in= on>に積み上げるもの。see⇒***in①*** ）/ industrial（「工業の・産業の」・the Industrial Revolution「産業革命」などと使う。see⇒***volvo*** ）/ industrious（「勤勉な」see⇒***-osus*** ）/ industrialize（「工業化する」see⇒***ismos*** ）/ instrument（「計器・機械」・建設に必要な道具・計器。「中に<in>組み立てる」が原義。see⇒***in①*** musical instrument で「楽器」となる。see⇒***energeia*** ）/ infrastructure（「インフラ・産業基盤」・ダムや橋・道路・発電所など、人々の生活を下

から支える基盤となるものだ。see⇒***infra / ultra*** ）

s) strength（「強さ」・「強さ」も積み重ねるもの。）/ structure（「構造」）/ structural（「構造上の・建設の」）

(31)sub **[スブ]<羅>**= under「下に」・後ろのスペルに影響されて sus / sup / sur / suc / sug / suf などに変化することもあるし、吸収されて一部消失することもある。***Nihil novum sub sole.***（「日のもとに新しきものなし」に出てくる ***sub*** だ。see⇒***nova / sol*** ）

subd) subdue（「征服する・抑圧する」・下<sub>に引き<due = ***duco***>おろす・・の意。see⇒***duco*** ）

subj-subl) subject（①「科目」・②「家臣」・③「被験者」・④「主語」・⑤「影響を受けやすい」など、様々な意味がある。重要な単語だ。詳しくは see⇒***verbum / jacio*** = throw ） / sublime（「厳粛な」see⇒***limen*** ）

subm-subo) submarine（「潜水艦」は海の下。ビートルズの「イエロー・サブマリーン」という曲もあった。marine「海の」は ***mare*** **[マレ]**「海」に由来。***mare nostrum*** **[マレ・ノストゥルム]**で「我らの海」。古代ローマ人は Mediterranean Sea「地中海」をこう呼んだ。see⇒***mare*** ）/ submit（「屈する」・see⇒***mitto***。「下に送られる」だから「支配下に入る」ことだ。）/ submerge（「水に浸す・潜水する」see⇒***mergo*** ）/ subtract（「引き算する」see⇒***traho*** ）/ suspend（「中止する」・sus = sub だ。see⇒***pendeo*** ） / subordinate（「従属させる・下位の」・ordinate は order「順序・秩序」だから、「ランクが下」というこまた「秩序維持」から「命令」という意味にもなった。see⇒***ordo*** ）

subs-subt-subu) subscribe（「定期購読する」see⇒***scribo*** ）/ subsequent（「後に続く」see⇒***sequor*** ）/ substitute（「代用する」see⇒***sto*** ） / subtle（「微妙な・きめの細かい」[サトゥル] see⇒***texo*** ） / suburb（「郊外」see⇒***urbs*** ）

subw) subway（「地下鉄」・文字通り「地面の下の道」だ。これはアメリカ英語で、イギリス英語では underground または tube[チューブ]という。see⇒***unus*** 「管（くだ）」のように地中を走っているからだ。1863 年創業とされ、「夏目漱石」も乗ったと言われるイギリスの地下鉄だが、実際乗ってみるとこの単語の意味が実感できる。トンネルも車両も「丸い」のだ。また tube には「試験管」の意味もある。）

その他) souvenir（「おみやげ」see⇒***venio*** ）/ success（「成功」see⇒***cedo*** ）/ suggest（「提案する・ほのめかす」see⇒***gero*** ）/ suffer（「苦しむ」see⇒***fero*** ）/ suppose（「思う」sup = sub。see⇒***pono*** ）/ suppress（「鎮圧する」see⇒***premo*** ）/ suspect（「疑う」see⇒***specio*** ）/ sustain（「支える」see⇒***teneo*** ）/ surrogate（「代理の」see⇒***rogo*** ）/ surrender（「降伏する」see⇒***do / re*** ）

(32)sumo - sumere - sumpsi - sumptus **[スーモー・スーメレ・スムプスィー・スムプトゥス]<羅>**= take / accept「取る・受け取る」・ただし「思う・考える」の意味の「受け取る」もある。take it for granted that S + V で「SV を当然と考える」という熟語もあるではないか。不動産屋の名前ではない。またラテン語辞典を繙（ひもと）くと、choose and buy「選んで買う」の意味もある。こちらも「手に取る」わけだ。

assume（「想定する・最初から決めてかかる」・as = ad で考えを勝手に～の方向へ<ad>押し進めること。see⇒***ad*** ）/ assumption（「想定」）/ consume（「消費する」・みーんな<con>いただき<take>・・だ。see⇒***cum*** ）/ consumption（「消費」・consumption tax で「消費税」となる。）/ presume（「推定する」・前もって<pre>考える。see⇒***pre*** ）/ resume（「再び始める・要約する」・何度も<re>考えて要約するわけだ。「思考錯誤」である。また「レジュメ・レジメ（要約）」もフランス語だが日本語になっている。see⇒***re*** ）

(33)superior - superior - superius **[スペリオール・スペリオール・スペリウス]<羅>**「より優れた」・「比較級」を「男性変化」⇒「女性変化」⇒「中性変化」の順に並べた。「ビッグ・コミック・スペリオール」という雑誌もあった。「***～ior***」はある種の比較級につく。英語の er だと思えばいい。一部は to を従え「ラテン語比較級」として英文法で習ったはず。***superior*** という単語自体ではなく、***～ior*** に関係した単語を紹介するためこの項を設けた。

d-e-i-j) deteriorate（「悪化させる」from ***deterior*** = worse「より悪い」）/ deterioration（「悪化」）/ exterior（「外側の」see⇒***ex*** ）/ inferior（「～より劣った」see⇒***infra*** ）/ inferiority（「劣等」・inferiority complex で「劣等感」だ。アクセントの移動にも注意。）/ interior（「内側の」see⇒***in①*** ）/ junior（「～より年下の」）/ juniority（「年下・年少」）

m) major（「より大きい方の」・発音は[メイジャー]だ。[メジャー]ではない。see⇒***magnus*** ）/ majority（「大多数」see⇒***magnus*** ）/ minor（「より小さい方の」see⇒***minus / magnus*** ）/ minority（「少数・少数派」see⇒***minus*** ）

p) posterior（～より後の」see⇒***post*** ）/ prior（「前の」see⇒***primus*** ）/ priority（「優先・優先事項」・「プライオリティー」ですでに日本語。see⇒***primus*** ）

s) superior（「～より優れた」）/ superiority（「優越」・superiority complex で「優越感」となる。）/ senior（「～より年上の」see⇒***senior*** ）/ seniority（「年長・先輩」・see⇒***senior*** seniority system で「年功序列」だ。see⇒***senior*** ）

(34)superus - superior - supremus **[スペルス・スペリオール・スプレームス]<羅>**「優れている」・左から「原級」⇒「比較級」⇒「最上級」だ。日本語では「スーパー」としてお馴染み。「スーパーマン」や「スーパー・マーケット」」、「スーパー・カー」など、用例は数限りない。「字幕スーパー」の「スーパー」もこれだ。superimpose[スーパー・インポーズ]「上から重ねる（押し付ける）」の略語である。impose については see⇒***pono / in①***。また ***summus*** **[スムムス]**という形容詞も「最高の」の意味がある。see⇒***superior***

sum) sum（「合計」・数学の「数列」で登場する「***Σ***(シグマ)」がこの sum、正確にはラテン語の ***summa*** **[スムマ]**「総和」に由来する。また小文字の **σ「シグマ」**も登場する。σ 1+ σ 2+ σ 3・・・+ σ *n* などと書く。かつて予備校で数学を教えていたとき、「先生、大変だ！M が横になってる！」と言った馬鹿者がいたが、これは M ではない。）/ summary（「要約」・「てっぺだけ取った・・」ということ。今で言う「いいとこ取り」だ。）/ summarize（「要約する」see⇒***ismos*** ）/ summit（「頂上」・スーパーの名前ではない！また「先進国首脳会議」の「サミット」もこれだ。日本では「九州・沖縄サミット」、「北海道・洞爺湖サミット」、「伊勢志摩サミット」などが記憶に新しい。）

super) superfluous（「豊富な」see⇒***fluo / -osus***）/ superficial（「表面的な」see⇒***facio***）/ superlative（「最上級」・「運ばれてきた超越したもの」の意。see⇒***latus / pono***）/ supersede（「取って代わる」see⇒***sido***）/ supersonic（「超音速の」see⇒***sono***）/ superstition（「迷信」see⇒***sto***）/ supervisor（「監督」see⇒***video***）

supre) supremacy（「至高・最高位」）/ supreme（「最高の」[スプリーム]・昔「シュープリームズ」という黒人女性歌手のグループがあった。中でも「ダイアナ・ロス」の名前は有名だ。筆者は子供のころ間違って「シュークリームズ」と読み、「なるほど甘い歌声だ！」などと納得していたが・・。）

(35)sur ①「上」・***super***に由来。また sup / suf など、さまざまに変化する。

suf) sufficient（「十分な」see⇒***facio / -ans***）

sur) survive（「生き延びる」see⇒***vivo***）/ surface（「表面」・読み方は[サーフィス]・間違っても[サーフェイス]と読まないこと。see⇒***facio / volvo***）/ surroundings（「環境」see⇒***unda***）/ surprise（「驚かせる」see⇒***prehendo***）/ survey（「調査」see⇒***video***）/ surround（「取り囲む」・round で「周り」だから覚えやすい・・と思うだろうが、これは round の派生語ではない。がっかりさせて恐縮だが、***sur***「上の」+ ***unda***[***ウンダ***]「波」で、u の前で切れる。「高波で周囲を取り囲まれて脱出できない・・」が原義だ。無論 round で覚えられればそれで結構だ。see⇒***unda / rota*** abound「～に富む」の und もこの ***unda*** だ。「波が海から離れて<ab>押し寄せてくるくらい・・」の意。see⇒***ab / unda***）/ 以下 ***unda*** 関係をいくつか載せる。abundant（「富んだ」see⇒***unda / -ans / ab***）/ abundance（「豊富さ」see⇒***unda***）

その他) supply（「供給する」see⇒***plenus***）/ sovereign（「主権者・主権を有する」[ソヴリン] see⇒***rex***）

(36)surgo - surgere - surrexi - surrectus [スルゴー・スルゲーレ・スルレクスィー・スルレクトゥス]<羅>= rise「上がる」・「水源から水が湧き上がってくる」様子をイメージ。***sur***は「上に・表面に」の意で***super***に由来する。see⇒***sur / super***

re-sur) resource（「資源・臨機応変の才能・機転」・また「人間」にもこの単語は使える。「人的資源」、早い話が「人材・スタッフ」だ。natural resources で「天然資源」となる。もともとは「再び<re>湧き上がってくる」の意。地下に長い間眠っていた石油・石炭などが、再び掘り出される様子がありありと浮かぶ。see⇒***re***）/ resourceful（「臨機応変の才能のある」）/ resurrection（「復活」・地獄（黄泉の国）から再び<re>上がってくこと。大文字で書けば「イエス・キリストの復活」となる。see⇒***re***）/ surge（「大波」・「高血圧サージ」なるものが最近話題だ。健康な人でも朝起きた時急激に血圧が上昇することを指すのだそうな・・。）/ surplus（「黒字」・plus が「プラス」だから単純に覚えればいい。see⇒***facio*** 反対語は deficit「赤字」。see⇒***facio*** plus は無論 minus「マイナス」の反対語だが、ラテン語では ***multus*** [***ムルトゥス***] = many / much の「比較級」でもある。だから「～を越えて<sur>もっと多く<plus>」の意味となる。plus については see⇒***multus / plenus*** sur は rise「上がる」の意味と super「上」から来ているという説とがあるが、語源は一つだ。）/ surpass（「凌ぐ」・「越えてすぎる<pass>」の意。）

その他) source（「源」・「上に湧き上がってくるもの」が原義。湧き出す泉を連想させる。）

T

(1)talio - taliare [***タリオー・タリアーレ***]<羅>= cut「切る」

curtail（「切り詰める」・***curtus***は「簡潔な」<羅>だ。）/ detail（「詳細」・***de***は「分割」発音・アクセントにも注意。[ディーテイル]だ。li が il になったものか？see⇒***de***）/ retailer（「小売店」・仕入れた品物を再び<re>細かく切り分けて売るから。see⇒***re***）/ retail（「小売りする」）/ tailor（「仕立て屋」・布を裁断するから。）

(2)tango - tangere - tetigi - tactus [タンゴー・タンゲレ・テティギー・タクトゥス]<羅>= touch「触る」・「タク」・「テク」・「テグ」などの音が目印だ。アルファベットでは tang / tac / tek / teg / tag / tam などになる。***texo***「織る」も同根の単語だが、こちらは see⇒***texo***

a-c) architect（「建築家」アーチ<arch>の技術<technique>を駆使する者・・の意。また一説に arch は「支配する」の意味で「技術を支配する者たち」だ・・とも。巨石を自由に操ったと言われる古代の石工集団「フリー・メイソン」を連想させ、こちらの方が真実味はある。当時「石組み技術」は「企業秘密」だったからだ。see⇒***archo***）/ architecture（「建築」see⇒***archo***）/ attain（「達成する」・ゴールへ<at=ad>タッチ<tac>・・だ。see⇒***ad***）/ attainment（「到達・達成」）/ attach（「～に<ad>くっつける」see⇒***ad***）/ attachment（「愛着」）/ contaminate（「汚染する」・触れれば汚れる。日本語でも「手垢のついた」と言う。）/ contamination（「汚染」・みんな<con>がお互い触れ合うこと。いわゆる「接触感染」だ。see⇒***cum***）/ contact（「接触」・contamination と理屈は同じ。）

d-e) detect（「見破る」・「触れて<tec>識別<de>する」から来ている。see⇒***de***）/ detective（「探偵」・「シャーロック・ホームズ」や「エルキュール・ポアロ」は犯人の意図を見破れなくてはダメ。）/ detach（「はずす」・de で反対語。see⇒***de***）/ detachment（「分離・超然」）/ semi-detached house（「セミ・ディタッチトゥ・ハウス」・一軒家を真ん中で切って 2 つの家庭で半ぶっこ<semi>している形式の家。イギリスによく見られる。筆者がホーム・ステイの際お世話になったのも、この形態の住宅だった。see⇒***semi***）/ entire（「完全な」・en = in で反対語。「触れられていない<in>」が原義。流石にスペルや音が変わりすぎていて苦しいが、やはりフランス語経由だ。see⇒***in②***）

i) integral（「触られていない<in>」から「傷のない・完全な」だ。また数学では「積分」の意味もある。see⇒***in②*** / integrate は「統合する（完全なものにする）」だ。因みに「微分」は differential。see⇒***fero*** 「ばらばらにすること」だ。）/ integrity（「完全・正直」・integral の名詞形。）/ intact（「損なわれていない<in>・もとのままの」see⇒***in②***）

t) take（「取る」）/ tangent（「接線・正接」・数学でいう「タンジェント」だ。因みに sin は sine の略で ***sinus*** [***サイナス***]「口蓋・洞・褶曲（しゅうきょく）」に由来。ラテン語ではスペルはそのままで[***シヌス***]と読む。確かに地層が褶曲したようなカーブを描く。cos は cosine で「sin

を補うもの・ともにあるもの<co = ***cum***>」の意。see⇒***cum*** $\sin\alpha = \cos\beta$ とすれば $\alpha+\beta = 90$ 度（= 完全）になる。90 度は right angle「正しい角度」とされることは ***rex*** のところで述べた。see⇒***rex*** また今では高校数学から姿を消したが、(cotangent「コタンジェント<cot>」・tan の逆数 see⇒***cum***) / secant（「セカント<sec>」・cos の逆数 see⇒***seco / -ans***) / cosecant（「コセカント<cosec>」・sin の逆数 see⇒***cum / -ans / seco*** ）というのもあった。) / technology（「(工業)技術」 see⇒***logos***) / technological（「科学技術の」) / technique（「技術」・実際手で触れてみないと作業はできない。) / tag question（「付加疑問文」・確かに文尾にくっついている。またプロレスの「タグ・マッチ」のこれだ。2 人もしくは 3 人が組になって戦う。仲間にタッチ<touch>しなくてはリング内に入ることはできない。) / tact（「機転」・ちょっと触れればすぐに感じることができること。) / tactful（「巧みな」) / tactics（「戦法・兵法」・「兵法」は「機転」をきかせなくてはならない。) / tax（「税金」・品物に手で触れてみてから課税する。） / touch（「触れる」・文字は ou に変わっているが、音は[タ]だ。see⇒***moveo*** ）

(3) tele = τ η λ ε [テーレ] <希> = far「遠くに」

telephone（「電話」・遠く<tele>に話す。see⇒***fabula / porto***) / telescope（「望遠鏡」・遠く<tele>を見る。see⇒***skopo / porto***) / telegram（「電報」・遠く<tele>に刻む（書く）。see⇒***grapho / porto***) / telepathy（「テレパシー」・遠く<tele>に感情を伝える。see⇒***pathos***) / teleportation（「テレポテーション・瞬間移動」see⇒***porto***) / また ***terminus*** の項にも書いたが ***telos*** [テロス]というギリシャ語もある。end「終わり」や goal「目標」の意だが、この tele との姉妹語だ。see⇒***terminus*** / ***Aristoteles***（「アリストテレース」・古代ギリシャの哲学者。「最高の目的<goal>」の意。see⇒***kratia*** ）

(4) tempus - temporis [テンプス・テンポリス]<羅> = time「時」

実はどう料理するか最も迷った単語。ランダムハウス大英和辞典で temple を引くと、何と 5 つもの単語が載っている。それぞれ別語源だとする説もあれば、同根だ・・とする説もある。諸説入り乱れてはっきりしない。しかしこの本自体が学術書ではなく受験生の単語暗記の一助として作成したものだから、すべて「関連あり」としてまとめた。話半分に読んでほしい。因みに筆者の見解は ***temno***「切る」にすべて遡る・・というものだ。***temno*** については see⇒***tome***

time 関係) ⇒「時間は時を切り取ったもの」との考えに由来。確かに「間」という文字が見える。無限の「時」を 2 点間で切り取ったものだ。tempo（「テンポ・速度」・「テンポが速い・・」とか「アップ・テンポな曲・・」と使う・) / temporal（「時間の・世俗の」) / tempest（「嵐」は「一時的」なもの。日本語でも「時化（しけ）」と言うではないか。そういえば「シェークスピア」の劇にも同じ題名の作品があった。) / temper（「かんしゃく」も一時的なもの。人の心の中の嵐だ。またこの単語には「心の平静」という意味もでてきた。) / temperature（「温度」・かんしゃくを起こすと熱くなる。) / contemporary（「同<con>時代の・現代の」・「コンテンポラリー・アート（現代美術）」など、日本語になっている。see⇒***cum***) / temporary（「一時的な」・「テンプ・スタッフ」などというのもある。何だかカッコいいが、後ろめたい気持ちがあるから英語にするのだ。何のことはない。早い話が「アルバイト」だ。因みに「アルバイト」はドイツ語である。) / temperament（「気質・激しい気性」・temperature と理由は同じ。) / tide（「潮」・「切り取る②」から来ている。その音から time と近縁の語だとわかる。日本語でも「潮時」と言う。Time and tide wait for no man.「歳月人を待たず」とも言う。) / tidal（「潮の」) / tidy（「きちんとした」・「時機を得た」が原義。ふだんはダラダラしていても、しかるべき時にはシャキっとしなくてはならない。) / simultaneous（「同時の」see⇒***sim / -osus***) / temple②（「こめかみ」・「寺」とは別の単語。格闘技ファンならまずこの意味を連想するだろう。昔はこの「こめかみ」で「時間」を計った。「ガリレオ・ガリレイ」が自身の「脈」を使って「振り子の等時性」を発見したのは有名なエピソードだが、それと同じだ。しかしこの単語もまた tense「張り詰めた」に起源を求める説もある。「こめかみ」は「張って」いるからだ。see⇒***tendo***

temple 関係) ⇒「切り取られた空間」⇒「聖域」に由来すると考えられる。temple①（「寺」・***tempulum*** [テンプルム]<羅> に由来するとされるが、さらに遡れば古代に行われた「鳥占い」に行き着く。綱を四方に張ってそこを聖なる空間とし、空を飛ぶ鳥を見て占いをする。これが後に宗教施設としての「寺」になったというものだ。鳥占いに関しては see⇒***navis***) / contemplate（「瞑想する・沈思黙考する。」・「瞑想」は「お寺」でするものだ。いわゆる「座禅」である。con は「みんなで祈りを捧げる」の意味のようだ。see⇒***cum*** またご存知「天ぷら」は戦国時代にポルトガルから日本に伝わったれっきとした外国語。「お寺（=教会)」で食べられた「精進料理」だ。肉がダメな期間は野菜などを天ぷらにして食した。ただし「魚」と「鳥」は OK だ。これらは「肉」ではない。彼らにとって肉とはあくまで「四つ足」なのだ。だから英語でも魚は meat とは言わない。fish と無冠詞なら「魚肉」。a fish となれば「(一匹の）魚」となる。chicken「ひよこ・鶏肉」も同じだ。「徳川家康」の死因は天ぷらの食い過ぎ・・という説もある。実際は胃癌らしい。）

(5) tendo - tendere - tetendi - tentus [テンドー・テンデレ・テテンディー・テントゥス]<羅> = stretch 「伸ばす・ピントと張る」・(6)の ***teneo***「しっかりつかむ」とは姉妹語だ。完了分詞（過去分詞）の ***tentus*** など完全に同じ形になっている。もともとは「太鼓に皮を張る」作業に由来すると言われる。「しっかりつかん<***teneo***>」で「引っ張ら<***tendo***>」なくてはならないからだ。see⇒***teneo***

a) attempt（「試み」・「～の方<at = ad>へ手を伸ばす」だ。これを取れば tempt になる。see⇒***ad***) / attend（「①出席する ②世話する ③仕える」・①は attend～ ②は attend to～（= pay attention to～） ③は attended on～（= wait on～）の形で使われる。②と③はちょっと紛らわしいが、前置詞が同じだから言い換えて覚えればいい。waiter は「待っている人」ではない。「待って」いたら仕事にならない。お客さんに「仕える人」だ。「～を待つ」は wait for～となる。) / attention（「注意」・気が張って疲れる。at = ad / see⇒***ad***) / attendance（「出席」see⇒***-ans*** ）

c) contempt（「軽蔑する」・「試しにちょっかいを出す」が原義。相手を軽く見ているからそんな真似ができるわけだ。con = ***cum*** は「強意」see⇒***cum***) / contemptuous（「軽蔑的な」see⇒***-osus***) / contend（「競う」・日本語でも「張り合う<con = ***cum***>」と言う。see⇒***cum*** ）

e) extend（「伸ばす・張り出す」see⇒***ex*** ）/ extension（「延長」・海外を旅していると、この「イクステンション」なるものに気を遣う。「ビザ（滞在許可証）<visa>」には期限があり、それを超えて滞在していると不法滞在とみなされ、強制送還をくらうのだ。無論飛行機代はあとで請求される。だからそれ以前に「イミグレーション・オフィス」に出向いて延長を申請しなくてはならない。）/ extent（「程度」・to some extent「ある程度まで・・」などと使う。）

h) hypertension（「高血圧」see⇒***hyper*** ）/ hypotension（「低血圧」see⇒***hypo / hyper*** ）

i) intense（「強烈な」）/ intensive（「集中した」・気持ちが張り詰めている。「集中」は自分の内部<in>でするもの。see⇒***in①*** ）/ intensity（「強烈さ・激しさ」）/ intensify（「強める・激しくする」see⇒***facio*** ）/ intend（「意図する・～するつもり」・中に<in>手を伸ばす・・が原義。see⇒***in①*** ）/ intention（「意図」）/ intentional（「意図的な・故意の」）

p) pretend（「～のふりをする」・マジシャンの手の動きを想像すればいい。前<pre>に差し出された手にばかり注目していると術中にはまる。see⇒***pre*** ）/ pretence・pretense（「見せかけ」）

t) tension（「緊張」・「テンションがあがる」というときの「テンション」だ。）/ tense（「緊張した」・一方「時制」の tense は語源的には無関係。こちらは ***tempus <縮>*** = time に起源を持つ。「緊張」に起源を求める説も、あるにはあるが・・。see⇒***tempus*** ）/ tempt（「誘惑する」・「手を伸ばす」すなわち「ちょっかいをだす」ということだ。）/ temptation（「誘惑」・かつて「ザ・テンプターズ」というグループがあった。最近亡くなった「ショーケン（萩原健一）」などがいたグループだ。また The Last Temptation of Jesus Christ[ザ・ラスト・テンプテーション・オブ・ジーザスクライスト]「イエス・キリスト最後の誘惑」という映画もあった。ここでは種明かしは避けるが名作である。是非見て欲しい。）/ tent（「テント」・「テントを張る」と言う。）/ tentative（「試験的な・実験的な」・試しに手を伸ばしてみること。）/ tentacle（「触覚・触手」・触手を伸ばす・・と日本語でも言う。）/ tend（「～する傾向がある」・そっちの方向に引っ張られること。）/ tendency（「傾向」）/ tendon（「腱」・確かに「張って」る。Achilles tendon で「アキレス腱」となる。）/ tender（「やさしい・柔らかくて食べやすい」・「薄くなるまで張った・・」が原義。「テンダーロイン」の「テンダー」である。「ロイン<loin>」は「腰肉」の意味だそうな。Love me tender. などという、「エルヴィス・プレスリー」の名曲もあった。一方「サーロイン」の「サー<sir>」はイギリスの貴族の称号。Yes, sir !と言うときの sir だ。余りの美味さに感動した「ヘンリー8 世」が、「この肉に爵位を与える！」と叫んだことに由来すると言う。）

(6)teneo - tenere - tenui - tentus [テネオー・テネーレ・テヌイー・テントゥス] <縮> = hold tight / maintain「しっかり掴む」・(5)の ***tendo*** とは姉妹語。ten / ton / tun / tin / tain などに変化した。see⇒***tendo***

c-e-i-m-o-r) continue（「継続する」・すべて<con>を一続きにしてつかむこと。中断箇所があってはならない。see⇒***cum*** ）/ continent（「大陸」・すべて<con>の国を支える陸地。see⇒***cum / -ans*** ）/ continental（「大陸の」・ふつう「大陸」とくればイギリスから見た「ヨーロッパ大陸」を指す。「コンチネンタル・ブレックファスト」はフランスなどのホテルで出される朝食のこと。細くてひからびたフランス・パンをさらに半分に切ってジャムが少々。それにコーヒーが 1 杯だけ付く。恐ろしく貧しい食事である。物価高で悪名高いパリの安ホテルだったからかも知れないが、ロンドンであんな朝食を出そうものなら暴動が起きる。）/ contain（「含む」・「中に全部<con>入ってる・・」の意。see⇒***cum*** ）/ container（「容器」・いわゆる「コンテナ」だ。）/ content（「内容・中身」・すべて<con>入ってる。）/ entertain （「楽しませる」・「人と人の間<enter = inter>に入ってその場を取り持つこと」だ。see⇒***inter*** ）/ entertainment（「娯楽」）/ intercontinental（「大陸間の」・see⇒***inter*** ICBM「大陸間弾道ミサイル」の I である。）/ maintain（「維持する」・手<***manus***>で支えること。see⇒***manus*** ）/ obtain（「手に入れる」・see⇒***ob*** ）/ retain（「保つ・保有する・維持する」・後ろに<re>保持する・・の意。大切なものは後ろに隠す。see⇒***re*** ）/ retainable（「保有可能な」）

s) sustain（「支える」・下から<sus = sub>支えること。see⇒***sub*** ）/ sustainable（「持続可能な」・これも sustainable society「持続可能社会」などとして、最近急速にノシてきた単語。具体的には「江戸時代」を再評価する文章などで登場する。資源を消費するばかりではこの地球が持たない・・という考えから出てきたものだ。「何をいまさら・・」と思う。一方的に資源を食いつぶしてそれで済むはずがないことぐらい、我々日本人は 400 年も前に気づいていたのだ。）

t) tennis（「テニス」・「ラケットをしっかり握れ！」から来た言葉だとか・・。）/ tenant（「テナント・借地人」・「土地を保持する人」の意。see⇒***-ans*** ）

(7)terminus - termini [テルミヌス・テルミニー] <縮> = end / finish「終わり」/ boundary「境界線」・またギリシャ語では「終わり」は ***telos = τ ε λ ο ς[テロス]*** と言う。これもさまざまな単語に入り込んでいる。

terminal（「ターミナル・終着駅」・新幹線の東京駅は「ターミナル」だ。さらに先へ通過していける駅は「ターミナル」とは言わない。昔の有名な映画に「終着駅」というのがあった。不倫映画らしいが、この「終着駅」がローマの「テルミニ駅」のことだ・・とは筆者がイタリアを旅していたときに教えてもらったことだ。「テルミニ」は文字通り「ターミナル」だ。）/ terminal care（「末期治療」）/ terminator（「終結させる者・抹殺者」・「シュワちゃん（アーノルド・シュワルツネッガー）」主演で映画にもなった。この映画では「人類の歴史を終結させる者」の意味で使われている。）/ term（「期間」・これを「期限」と表現を変えれば end「終わり」のイメージが伝わるだろう。また term には①「用語」②「条件」③「関係」など様々な意味がある。①「用語」は「テクニカル・ターム（専門用語）」などとして日本語に入っている。「ある単語の概念を定義する際用いる言葉」という意味だが、これは「定義する<define>」see⇒***finis / de*** と考え方は同じだ。。また「条件」は「許せる範囲はここまでで終わりだよ」という意味だ。「関係」の同様だ。「あなたとの関係はここまでですよ」ということだ。in terms of ～「～に関して」や be on good terms with ～「～と良好な関係だ」などは必須熟語。）/ terminology（「専門用語」）/ determine（「(物事

を）決定する・（人に）決心させる」[ディターミン]・くよくよ考えるのは終わり・・ということだ。de は強調。see⇒***de*** 昔[ディターマイン]と呼んだ生徒がいた。れっきとした帰国子女である。確かに読まない e で終わるからその前の母音は「二重母音」となる。can は[キャン]だが cane だと[ケイン]に、また win[ウイン]は wine[ワイン]に・・という具合だ。この規則に従えば、確かに彼女は正しい発音をしたと言えるのだが・・。これはこの単語だけの例外的発音で「フランス語」の影響らしい。つくづく「お騒がせ言語」である。かくも英語の発音とは厄介なものなのだ。また be determined to do と、「受動態」の形で「do すると決心する」となる。「人に決心させる」という「他動詞」だから、受動態にしてはじめて「決心させられる」⇒「決心する」となる。surprise / interest / please など、この形は非常に多い。これは古代ギリシャ語の「中間態」という表現に由来するものだ。「能動態」と「受動態」の「中間の表現」という意味だ。surprise「驚かせる」で説明する。「その知らせが彼を驚かせた。<The news surprised him.>」が「能動態」。「彼はその知らせに驚かされた。<He was surprised by the news>」が「受動態」。「彼はその知らせに驚いた。<He was surprised at the news.>」が「中間態」となる。従って諸君らが使っているのは「受動態」ではなく「中間態」なのだ。「受動態」から「中間態」が生まれたような説明がなされることが多いが、歴史的には「中間態」から「受動態」が生まれたのだ。また従来 be surprised at が正しく be surprised by は誤りとされてきたが、be surprised by もちゃんと存在する。尚もう一方の「決心する」である decide は decide to do と普通に使えばいい。）/ determination（「決心」）/ exterminate（「絶滅させる・撲滅する」・ex は「強調」。see⇒***ex*** ）/ telomere（「テロメア（末端小粒）」・see⇒***ab*** 英検 1 級長文で出題された有名な単語だ。「染色体」の末端に位置することからこの名がある。「テロメア」の「メア」は mere は ***meros*** = μ ε ρ ο ς[メロス] = part「部分」の意味だ。人間の体は細胞分裂を繰り返すことで若さを維持している。これができなくなると細胞は死んでゆくだけとなり、やがてその個体も死を迎える。細胞分裂をする度に、このテロメアという部分が少しずつすり減ってゆく。いわば「回数券」のようなものだ。永遠にバスに乗り続けることはできないのだ。これがなくなると死が決定的になる。逆にこのテロメアの劣化を抑えれば、人類の悲願であった「不老不死」が実現するわけだ。このテロメアが劣化せず永遠に細胞分裂を繰り返すのが、癌細胞というわけである。）/ toll（「使用料」・これもギリシャ語の ***telos*** から来た単語。「終わり」⇒「決定・判決」⇒「決められた仕事」⇒「税金・奉仕」となった。実際ギリシャ語辞典には「終わり」、「目的」とともに「税金」の意味が掲載されている。一方「（鐘が）鳴る」の意味もあるが、これは別語源。アーネスト・ヘミングウェイの For whom the bell tolls ?「誰がために鐘は鳴る」の toll だ。）/ toll gate（「料金所」・高速道路の料金所を通過する際、注意して見てみること。）

(8) terra - terrae [テッラ・テッラエ] <羅> = soil「土壌」/ earth「地球・大地・土」・ギリシャ語では ***ge [グー]*** となる。see⇒***ge***

territory（「領土」）/ territorial（「領土の」see⇒***celo*** ）/ terrace（「テラス」は盛り土した部分のことだ。）/ またこれは俗説だが、「寺（てら）」の語源がこの terra だとする説もある。確かに分解してみると「一寸の土地」だ。/ ***terra firma***（「大地」[***テッラ・フィルマ***]・firma は firm「固い」から。ラテン語だが時々英文でも見かける。see⇒***firmus*** ）/ Mediterranean（「地中海」・「地球」の真ん中<med = mid = middle>にある海だ。see⇒***medius / mare*** ）/ ET<extraterrestrial>（「地球外の・地球外<extra>生命体」・[エクストゥラ・テレストゥリアル]・「スティーブン・スピルバーグ」の映画のおかげで、最早全世界でも知らない人はいない。「余分な」の extra だが、接頭辞として使われるときは ex の意味となる。see⇒***ex*** ）

(9) terreo - terrere - terrui - territus [テッレオー・テッレーレ・テッルイー・テッリトゥス] <羅> = frighten「怖がらせる」

terrify（「ぞっとさせる」see⇒***facio*** ）/ terror（「恐怖」）/ terrific（「素晴らしい」・ぞっとするくらい素晴らしい・・の意。日本語でも「やばい！」が最近では「素晴らしい」の意味で使われているようだが、それと似ている。無論「恐ろしい」の意味もあるがあまり出ない。）/ terrorism（「テロリズム・テロ・恐怖政治」see⇒***ismos*** ）/ deter（「阻止する」・恐怖を与えて思いとどまらせ<de>る・・の意。see⇒***de*** ）

(10) testa - testae [テスタ・テスタエ] <羅> = test「テスト・試金石」/ piece of burnt clay「焼かれた粘土の破片」・もともとは粘土を焼いて作った壺を指した。これに金貨を入れて加熱し、純度を測定したのだ。ここから「テスト」の意味が生まれた。***testor - testari - testatus sum [テストール・テスターリー・テスタートゥススム]*** で「目撃し証言する」という動詞に、***testis[テスティス]*** で witness「目撃者」となる。従ってこれらの単語は「ちゃんと金であることを私が目撃しました。責任もって証言します」という一連の意味となる。

a-c-d-p) attest（「証明する」・「～に対する<at = ad>証明」の意。see⇒***ad*** ）/ contest（「コンテスト」・「みんな<con = cum>で証言し合う」⇒「競い合う」が生まれた。see⇒***cum*** ）/ detest（「嫌う」・「不利な<de>証言をして遠ざける」の意。see⇒***de*** ）/ protest（「抗議する」[プロウテストゥ]・人前<pro>でダメだという証拠を示すこと。see⇒***pro*** 「マルチン・ルター」の「宗教改革」で登場する「プロテスタント」は「抗議する人々」の意。反対は「カトリック<Catholic>」で「普遍的な」の意味だ。see⇒***cata / holos*** ）

t) test（「テスト」）/ testament（「聖書・遺書」・Old Testament・New Testament はそれぞれ「旧約聖書」・「新約聖書」だ。ラテン語では ***Vetus Testamentum [ウェトゥス・テスタメントゥム] / Novem Testamentum [ノウェム・テスタメントゥム]*** となる。「神の奇跡を目撃し、それを証言した書物」が「聖書」なのだ。see⇒***traho*** また ***vetus [ウェトゥス]<羅>*** は old の意味で、***vetus - veteris*** と「曲用」を起こす。勘のいい人はもうお気づきだろう。そう、veteran「ベテラン・老兵」の語源になった言葉だ。）/ testify（「証明する」see⇒***facio*** ）/ testimony（「証言」）

(11) texo - texere - texui - textus [テクソー・テクセレ・テクスィー・テクストゥス] <羅>「織る」・また ***tango***「触れる」とも同根語だ。see⇒***tango***

text 関係) text（「原本・本文」・無論古代に「紙」はなく、「パピルス（カヤツリ草科の植物）」を編んで代用としていた。パピルスが paper の語源となった。無論語源的には繋がりがあってもパピルスと紙はまったく異なる。紙は「後漢」時代の「蔡倫（さいりん）」の手になるものだ。しかしそれでは白人のプライドが許さないので、縁もゆかりもないエジプト文明のパピルスを語源に持ってきたわけだ。）/ textbook

（「教科書」・手元の本を手にとって見てほしい。現代でも糸でゆわえてあるはずだ。また古い文献を調べることを「ひもとく（繙く）」と表現する。文字通り「紐」を「解く」だ。）/ textile（「織物」）context（「文脈」・全体<con>の話の流れ・・だ。see⇒***cum*** ）/ pretext（「口実」・前もって<pre>筋書きを決めること。see⇒***pre*** ）

その他） subtle（「微妙な・きめの細かい」・織り目が小さい<sub>わけだ。発音は[サトゥル]　b は「サイレント（黙字）」だ。sub + textile より。see⇒***sub*** ）/ subtlety（「微妙さ・微妙な点」）/ tissue（「（生体の）組織・（絹などの）織物」・「ティッシュ・ペーパー」の「ティッシュ」は「絹の織物のように滑らか・・」ということから来ている。スペルがかけ離れているのは、これもまた「フランス語経由」だからだ。）

(12) theos＝θεος［***テオス***］***<希>***＝god「神」

theology（「神学」・see⇒***logos*** ）/ theocracy（「神聖政治」・cracy は ***cratos***＝κρατος[***クラトス***]「支配者」。「神が支配する政治」の意味だ。see⇒***autos / kratos*** ）/ Pantheon（「パンテオン・万神殿」・ローマに今もある。神殿は神殿でも全ての<***pan***＝παν =all>神々を祭る神殿だ。いうまでもなく古代ローマは多神教だ。***theon*** は ***theos*** の目的格。 see⇒***pas*** ）/ pantheism（「汎神論」・「自然界のすべて<***pan***> see⇒***pas*** のものに神が宿る。宇宙そのものが神と一体である。」という思想のこと。さて「汎（はん）」という漢字自体が「隅々にまで行き渡る」という意味であり、ギリシャ語の ***pan***＝παν［***パーン***］に音が似ていることからこの文字が採用されたらしい。おそらく語源的には繋がっているのであろう。see⇒***ismos*** ）/ enthusiasm（「熱狂」[インスーズィアズム]・神が中<en = in>に宿ること。see⇒***en*** ）/ enthusiastic（「熱狂的な」）/ ここでまた映画の話だ。「クオ・バディス」という名作があった。時代は紀元 1 世紀のローマ。暴君「ネロ帝」の迫害の手を逃れ、「アッピア街道」を南へと逃れる使徒「ペテロ」。しかしその眼前に復活したイエス・キリストが現れる。無論磔刑（たっけい）のあと復活したイエスに、弟子たちはすでに遭っているからそのこと自体は驚きではなかったはずだ。ペテロは問う。「主よ！どこへいらっしゃるのですか？（クオ・バデス・ドミネ<***Quo Vades, Domine.***>）」。イエスは答える。「お前が信徒たちを見捨てて逃げようというのなら、私がこの足でローマに上り、今一度十字架にかかろう」・・と。はっと我に返ったペテロはくるりと踵（きびす）を返し、ローマへともどってゆくのである。涙、涙のラストだが、この映画のこのシーン。ペテロの向かう先に何と「サン・ピエトロ大聖堂」が遠く映し出されているのだ。この大聖堂はペテロ殉教の地に建てられたものだから、当時は無論存在しない。しかしその矛盾を度外視してここに入れた。何とも心憎い演出である。さてこの物語の中で、「隠れキリシタン（？）」たちが地面に棒切れで「魚」の絵を描き、お互いにキリスト教徒であることを確認する・・というシーンがある。ではなぜ「魚」なのか？「魚」をギリシャ語ではΙχθυς[***イクテュス***]と言う。これがΙησους・Χριστος・Θεου・Υιος・Σωτηρ[***イエスース・クリストス・テウー・ヒュイオス・ソーテール***]つまり「イエス・キリスト・神の子・救い主」というこれまたギリシャ語の、頭文字をとったものと一致するからだ。ここで言う「テウー」が「テオス」の「属格（所有格）」、つまり「神の」である。/ pity（「哀れみ」・「サン・ピエトロ大聖堂」の話が出たついでにこの単語を載せた。pious[パイアス]「敬虔な・信心深い」と姉妹語。この名詞形が piety「敬虔さ・神への忠誠」となる。これがやがて「神から人間への哀れみ」となった。それが pity だ。ラテン語では ***pieta - pietas***［***ピエター・ピエタース***］がこの pity と同義語だ。サン・ピエトロ大聖堂内部に「ピエタ」という名の大理石の彫像がある。十字架から降ろされ息絶えたイエスを抱き涙する聖母マリアの像だ。ルネサンス期の天才「ミケランジェロ」の手になる傑作だが、足の部分は数知れぬ観光客（信者）の口づけを受け、何と大理石が擦り減っていた。受験生諸君も是非一度その目で見て欲しい。ただ一つ「突っ込み」を入れれば、どう見てもイエスよりもマリアの方が若いのだが・・。尚、古代ローマの「五賢帝時代」に登場する「アントニヌス・ピウス帝」は「慈悲深きアントニヌス」の意味で、この pious と同根である。）/ Dorothy（「人名」・「神の<th>贈り物<do>」の意。see⇒***do*** ）

(13) thermos＝θερμος［***テルモス***］***<希>***・「熱い」・「暖かい」・「温泉」・「湯」

thermograph（「サーモグラフィー」・熱いと「赤く」、冷たいと「青く」映るアレである。see⇒***grapho*** ）/ thermostat（「サーモスタット」・温度を常に一定に保つ装置。炬燵（こたつ）などが好例。カチャ・カチャ・・と音がするやつだ。see⇒***sto*** ）/ thermometer（「温度計」・何度も言うが、アクセントに注意！see⇒***mens*** ）/「テルモス」と聞いてだれでも真っ先に想起するのは映画「テルマエ・ロマエ」だろう。実に面白かった。ラテン語で ***Thermae Romae*** と書き、「ローマの風呂」が直訳だ。古代ローマ人と我々日本人だけが「風呂」を愛した。だが語源はギリシャ語にまでさかのぼる。「ペルシャ帝国」がギリシャに攻め込んだ「ペルシャ戦争」で、「テルモピュレーの戦い<BC480>」という激戦を世界史で習う。スパルタ王「レオニダス」麾下（きか）の 300 名が壮絶な玉砕を遂げた戦いだ。しかし彼らの活躍のおかげでギリシャはペルシャ帝国の侵略をはねのけたのだ。「スリー・ハンドレッド」という映画にもなった。***Thermopylae***［***テルモ・ピュラエ***］は「熱い門」という意味だ。このあたりは温泉が出たらしい。また狭い門のような隘路（あいろ）になっているので、大軍を引き付けて各個撃破してゆくのにうってつけの地形だったことから激戦地となった。平原に出たら多勢に無勢。ギリシャ軍に勝ち目はないからだ。「玉砕」というと我々日本人だけの発想のように思えるが、古代ギリシャ人・ローマ人にも似たような行動様式が見られ、奇妙な親近感を覚える。良いか悪いかはまた別の話だ。

(14) tithemi - tithenai＝τιθημι - τιθηναι［***ティテーミー・ティテーナイ***］***<希>***＝put「置く」・***ti*** を取れば ***the*** が現れる。

a） antithesis（「アンチテーゼ・対立物・反対命題」・see⇒***anti***＝against。複数形は antitheses だ。）

h） hypothesis（「仮説」[ハイポテスィス] ・***hypo***［***ヒュポ***］***<希>***＝***sub***［***スブ***］***<羅>***＝under・定説よりランクが一つ低いわけだ。複数形はこれまた同様に hypotheses となる。see⇒***hypo*** ）/ hypothetical（「仮説の」see⇒***hypo*** ）/ また hypocrisy[ヒポクリスィー]「偽善」や hypocritical「偽善的な」、hypocrite「偽善者」はここでは直接関係ないが、***hypo*** つながりで載せた。see⇒***hypo*** υποκριτης[***ヒュポクリテース***]***<希>***＝actor「役者」より。役者は善人を演じるからだ。イエスは安息日にも病人を癒し続ける。死人を墓から呼び起こすことすらした。民衆の絶大な支持を集めるイエスに嫉妬したユダヤ教の律法学者たちは、「安息日に仕事をするのは『モーゼの十戒』に抵触する行為ではないか！」

と非難する。「十戒」には「安息日を設けてこれを聖とせよ」とある。「安息日」とは今でいう「休日」だが、無論「レジャーにでかける日」ではない。「神に祈りを捧げる日」のことだ。「普段はお金儲けのことを考えていてもいいが、1日だけは我が身を振り返って反省しなさい」ということでもある。これに対してイエスが彼らに対して投げかける言葉が「ヒュポクリテース（偽善者たちよ）！」だ。死にそうな人間が担ぎ込まれてきた時、「明日また来てください」などと言えるのか？ということだ。「聖職者然としているが実はとんでもない奴ら」は現代にも大勢いる。周りを見渡してみることだ。地位や肩書は関係ない。イエスは単なる「大工の息子」だったではないか。）

s) synthesis（「統合」・syn = same 「一緒に置く」の意。複数形は syntheses だ。）/ synthesize（「統合する」see⇒***sim / ismos*** ）/ synthesizer（「シンセサイザー（楽器）・統合する人・物」）/ synthetic（「総合的な」）

t) thesis（「論文」・「置かれたもの」が原義。「置かれたもの」が「土台」となり、「土台の上に構築された論理」から「論文」になった。「論理」にはゆるぎなき「土台」が必要だ。発音は[スィースィス]。複数形は theses[スィースィーズ]となる。crisis-crises「危機」の仲間。ラテン語の「第3曲用名詞」だ。）/ theme（「テーマ・主題」・読み方は[スィーム]）

(15) tome **= τ ο μ η [トメー]<希>** = cut「切断」 また ***temno*** **= τ ε μ ν ω [テムノー]**は「切る」という動詞だ。

a) atom（「原子」は「これ以上切れない<a>もの」の意・a はギリシャ語では「反対語」を表す。see⇒***a / in② / ab*** ）/ anatomy（「解剖学」・「ターヘル・アナトミア」はいわゆる「解体新書」だ。筆者の時代は小学校の国語の教科書に登場した。江戸時代末期、「杉田玄白」・「前野良沢」らが人体を解剖して作成した医学書のことだ。***ana*** はギリシャ語で「①上へ～・遡って～ ②完全に・・」の意味。ここでは②の意味で「完全に切り刻む」であろう。see⇒***ana*** また CT scan の T もこの ***tome*** だ。Computerized Tomography「断層撮影法」は「コンピューターで輪切りにする」の意。一方 MRI は Magnetic Resonance Imaging「磁気共鳴画像」だ。CT は放射線を使うので MRI の方が安心と思われがちだが、緊急を要する手術などは CT の方が迅速であり、その他の点でも「一長一短」があるようだ。）/ accustom（「慣れさせる」・なぜこの意味になったかは customize を参照して欲しい。）/ accustomed（「慣れている」・be accustomed to doing「do することに慣れている」となる。この to は「前置詞」だから後ろは「動名詞（名詞）」を取る。ac = ad / see⇒***ad*** ）

c-e) custom（①「習慣・慣習」②「税関」③「関税」・習慣的に来訪してくれるお客さん・・から「習慣」の意味になった。また「課税」することは封建領主の「慣習（理屈が要らない当然の習わし）」であるから「関税」が。関税を取る所だから「税関」の意味が出た。特に「税関」では customs となるから注意。habit「習慣」との違いは see⇒***habeo*** ）/ customize（「（客の注文に応じて）作る・調整する」・もともと肉などを注文に応じて切り分けて売っていたことに由来する。cus = ***cum*** は「強意」see⇒***cum / ismos*** ）/ customer（「顧客（常連のお客さん）」・customize して欲しい・・とやってくるお客・・が原義。また英語では「お客」にもいろいろあるから区別すること。visitor は「訪問客」。see⇒***video*** guest は「（招待されてやってくる）客」・「招かれざる客」などという表現も日本語にある。see⇒***hostis*** audience は「観客・聴衆」。see⇒***tome / -ans / jus / audio*** client は「（弁護士などのところに来る）依頼人」。see⇒***clinus*** passenger は「乗客」だ。）/ epitomize（「要約する」see⇒***epi / ismos*** ）

(16) tono - tonare - tonui - turus [トーノー・トーナーレ・トーヌイー・トゥールス] <羅> = thunder「雷を落とす」from ***Thor*** 「トール神（北欧神話の最高神）」・ノルウエーの探検家「トール・ヘイエルダール」もこの「トール」に因んだものだと筆者は推察する。「コンチキ号漂流記」のヘイエルダールだ。因みに「コンチキ」はインカ文明の最高神「コンチキ・ビラコチャ」に因んだものだ。ton / toun / tun に注意。

a) astonish（「驚かせる」・雷の音を聞けばだれでも驚く。ゼウスもトールも「雷」を司るとされている。as は ad ではなく ex「強意」とされるようだ。see⇒***ex*** ）/ astonishment（「驚き」）/ astound（「仰天させる」see⇒***ex*** ）

d-i-m-s) detonate（「（猛烈な音で）爆発させる」de は「強調」とも「下に」だとも言われる。「下に」の場合は「雷を落とす」に由来すると考えるわけだ。「クラウン」の教科書の「地雷」の話で登場していたので急遽掲載した。see⇒***de*** ）/ detonator（「起爆装置」）/ intonation（「イントネーション・抑揚」・in は「中」だ。「音に合わせて歌う」が原義。see⇒***in①*** ）/ monotonous（「単調な」 see⇒***monos / -osus*** ）/ monotony（「単調さ」see⇒***monos*** ）/ stun（「失神させる」）/ stunning（「呆然とさせるような」）/ stun gun（「スタンガン」）

t) Thursday（「木曜」・北欧の最高神「トール<***Thor***>」は、ギリシャ神話の最高神「ゼウス<Zeus>」やローマ神話の最高神「ジュピター・木星<Jupiter>」see⇒***cosmos*** と並んで曜日にその名前をとどめている。古代神話では Jupiter = Zeus see⇒***cosmos / deus*** とされた。ラテン語では ***Juppiter [ユッピテル]***となる。）/ tone（「色・色調・調子・音色」・勢いのよかった奴が、突然歯切れが悪くなることを「トーン・ダウンする・・」などと言う。see⇒***monos*** ）/ tonic（「強壮にする・元気づける」・シャンプーの名前ではない。）

(17) torqueo - torquere - torsi - tortus [トゥルクエオー・トゥルクエーレ・トルスィー・トルトゥス] <羅> = twist・turn「ひねる・回転する」・tor は tur / tour / tro にも変化した q は c / ch にもなる。

a) attorney（「弁護士」・困った人は弁護士に頼る<turn to～ = depend on ～>のだ。頼るときにはその人の方<at = ad>を振り向か<turn>なくては失礼だ。turn to 人 for 物「物を人に頼る」も同じ考え方。see⇒***ad*** ）

d) disturb（「邪魔する」・dis は「強調」。「完全に<dis>乱す」の意。see⇒***dis*** ）/ distort（「ねじる・歪める」see⇒***dis*** ）/ distortion（「歪（わい）曲」）/ detour（「迂回する」・「離れて<de>回る」が原義。see⇒***de*** ）

e-r-s) entropy（「エントロピー」・「でたらめさ・無秩序」のこと。tor ⇒ tro となったものか？「回転して中へ<en = in>入る」が原義。インクと水を一緒に水槽に入れると時間とともに混ざってゆく。その逆はあり得ない。混ざる前より混ざった後のほうが「エントロピー（でたらめさ）」が「大きい」ことになる。このように宇宙は必ずエントロピーが「増大」する方向に向かって行く・・とするのが「エントロピー増大の法則」だ。無論これに対する反論もある。生物の「進化」など、この「エントロピー増大の法則」にもろに抵触しているからだ。単純

なものから複雑なものが自然にできあがるなどありえないからである。いずれにしてもインクと水がぐるぐる渦を巻いて混ざってゆく様子を想像すればいい。「やがてこの宇宙は動きのない死の世界になってしまう」という宇宙論だ。see⇒***en*** ）/ return（「帰る」see⇒***re*** ）/ retort（「言い返す<re>」see⇒***re*** ）/ storm（「嵐」・dis の di が取れた。）

tor) torture（「拷問」・相手は体をよじって苦しむ。）/ torment（「苦しめる」）/ tornado（「竜巻」・「野茂選手」のメジャーでの活躍で、一躍周知された単語。一方 ***tono*** 「雷を落とす」に由来するという説もある。）/ torch（「トーチ・たいまつ」・松の根っこをよじったもので作った。松は脂分（松脂：まつやに）が多いからよく燃える。）/ torque（「回転モーメント」・***torqueo*** のスペルがもろに残っている。英語の発音は[トーク]。「回転させようとする力」のこと。バイクの好きな人にはすぐわかる単語だ。回転とは無論エンジンの回転。バイクを加速させようとする力。「このトルク感がたまんねー！」などとバイク好きは表現する。）

tour-tur) tour（「旅行」・あちこち回るから。）/ tournament（「トーナメント・勝ち抜き戦」・中世の騎士の馬上試合が起源。槍で突撃し合うたびに向きを変えなくてはならないからだと言う。何とも語源とは面白いものだ。）/ tower（「塔」・螺旋階段で上がってゆく。いわば「バベルの塔」だ。ピラミッドも「螺旋状建造説」がある。また「塔」と「タワー」が同語源だとの説もある。もともと「塔」の起源は「ストゥーパ」と言い、お釈迦さんの骨を収めたドーム状の建物だ。てっぺんに「傘蓋（さんがい）」というちっちゃな傘が立っている。世界史の教科書でよく見るものだ。古代インドでは高貴な方には「傘」をさしかける風習があったからだ。やがてこの「ストゥーパ」が「卒塔婆（そとうば）」となり「塔」となった。卒塔婆とは墓地でよくみかける、木製の細長くて薄い、文字を書いた板のことである。五重塔もこのストゥーパが姿を変えたものだ。美しくせり出した五重の「ひさし」がこの「傘蓋」である。この単語は西に伝わり、「ストゥーパ」⇒「トゥーパ」⇒「タウァ」となったとされる。お釈迦さんは「アーリア人」。つまりれっきとした「白人」だ。「サンスクリット（梵語）」も「インド・ヨーロッパ語族」の言語。英語に同根の単語が見られても、不思議でもなんでもない。無論「異説」もあるが・・。また発音にも注意。[タワー]ではなく[タウァ]だ。power[パウァ] / flower[フラウァ]も同様である。）/ turn（「回転する」）/ turban（「ターバン」・筆者がサハラ砂漠を旅したとき、「レーバンのサングラス」とこの「ターバン」は必需アイテムであった。ターバンは短く見えるかも知れないが、実は 5～6 メートルはある。洗濯すると干すのが大変なのだ。）/ Turkey（「トルコ」・トルコ人はターバンを巻いていたことによる。また「突厥（とっけつ・とっくつ）」起源説もある。どちらが起源かはっきりしない。無論、突厥はトルコ系民族だ。昔トルコ人は中国近辺に住んでいたのだ。）/ turkey（「七面鳥」・「サンクス・ギビング・デイ（感謝祭）」でお馴染みの七面鳥だがトルコから伝来したらしい。また薬物を断つことで鳥肌が立つことを cold turkey と言う。）/ turbine（「タービン」・扇風機の親分のようなやつだ。）

tri-tro) trick（「トリック・手品・計略」）/ intricate（「込み入った」・コードがねじれて<torq>解けない状態を想像すること。発音・アクセントでもしばしば突かれる。[インントゥリカットゥ]だ。see⇒***in①*** ）/ intrigue（「謀略・策略・興味を持たせる」[イントゥリギュー]・「興味を持たせる」は interest などが有名だが、intrigue もしばしば目にする。こちらは「計略をもって相手の興味を誘い引き込む」の意。今流行りの「ハニー・トラップ」というやつだ。「そそられる・・」という日本語が一番しっくりくるかもしれない。see⇒***in①*** ）/ tropical（「熱帯の」・太陽が向きを変えるところ（回帰線上）は熱帯となる。太陽が真上にあるからだ。see⇒***capio*** ）/ tropic（「熱帯地方・回帰線」・Tropic of Capricorn「南回帰線」や Tropic of Cancer「北回帰線」などで使う。see⇒***capio*** ）/ trouble（「トラブル」・要するに関係が「こじれる」わけだ。）/ troublesome（「やっかいな」・この some は名詞に付いて、形容詞化する機能があるらしい。）

(18)traho - trahere - traxi - tractus [トラホー・トラヘーレ・トラクスィー・トラクトゥス]<曜> = draw / pull・「ひっぱる・ひきずる」・[トゥラホー]⇒[ドゥラホー]⇒[ドゥロー]と、t から d へと変化した。また tra が trea ともなった。

a) attract（「引き付ける」・「～の方へ<at = ad>引き付ける」だ。see⇒***ad*** ）/ attraction（「魅力・アトラクション・呼び物」・日本語にもなってる。）/ attractive（「魅力的な」）/ abstract（「抽象的な」・現実から「引き<tract>離された<ab>もの・・」という意味だ。see⇒***ab*** ）/ abstraction（「抽象的概念・抽象化」）

b) betray（「裏切る」・味方を裏切って敵に「引き渡す」こと。be は「強調」see⇒***be*** ）/ betrayal（「裏切り」）

c) contract（「契約」・人と人が引き合う・・が原義。人同士は「契約」によって結ばれているという欧米特有の考え方だ。「死が二人を分かつまで・・」という文句はよく聞かれるが、裏を返せば「あなたが死んだら私再婚するわ・・」ということだ。また「神と人のつながり」も「契約」だ。旧約聖書は「古い契約」、新約聖書は「新しい契約」・・の意。「俺を信じたら守ってやるぞ！」ということである。旧訳・新訳ではないので念のため。また英語では旧約聖書は Old Testament、新約聖書は New Testament となる。see⇒***testa*** ）/ contraction（「収縮・短縮」・みんな一緒に<con>グシャ！だ。また英文法では「短縮形」の意味にもなる。see⇒***brevis*** ）

d) distract（「そらす」・離れた<dis>方へ引っ張る・・の意。see⇒***dis*** ）/ distraction（「そらすこと」）/ drawback（「欠点」・後ろへ<back>引っ張ること。日本語でも「足を引っ張る・・」と言う。） / draft（①「草稿・設計図」・図面に線を引くから。また②「生の」の意味もある。draft beer で「生ビール」だ。ビールを樽から抽出する（引き出す）からだ。/ draught とも綴るが発音は同じ[ドゥラフトゥ・ドゥラーフトゥ]だ。/ drag（「引きずる」・「アイコンをドラッグして・・」などと、パソコンで一躍有名になった単語。）/ drain（「流失」・brain drain は「頭脳流失」。有能な人間がその国に見切りをつけて海外に出ていってしまうことだ。日本の大学が残念ながらそれに当たる。海外の大学に引っ張られるのだ。）/ dry（「乾いた」）/ drought（「旱魃（かんばつ）・日照り」・水を引きだせば田んぼは乾く。dry の名詞形だ。発音問題頻出。[ドゥラウトゥ]だ。）/ detract（「（質・名声などを）損なう・減じる」）/ draw（「引っ張る・線を引く」・文字を書くのは write で、絵を描くのは paint だ。使い分けること。）/ drawer（「引き出し」）

e-p-r-s) extract（「抽出する」・外<ex>へひっぱる。see⇒***ex*** ）/ extraction（「抽出」）/ portrait（「肖像画・写真」・「前方に<por>線を引く」

こと。por = for「前」だ。forward「前方へ」の for だ。***porto*** ともかぶるが、とりあえず ***fore*** に分類した。see⇒***fore*** ）/ portray（「(絵で)描く・(写真）で表現する」）/ portrayal（「描写」）/ retreat（「撤退」・see⇒***re*** ）/ subtract（「引き算する」・sub「下に」ひっぱること。see⇒***sub*** ）/ subtraction（「引き算」see⇒***multus*** ）

t) trace（「痕跡・痕跡をたどる」・「トレーシング・ペーパー」というのがある。下が透けて見えるやつだ。それをイメージしたのだろうか。「透明の」と訳した馬鹿者がいた。「跡をたどることができる紙」という意味だ。）/ trade（「貿易」・日本語でも貿易を「取引き」と言う。野球の「トレード」をイメージすればわかりやすい。有望な選手を引き抜くことだ。また「小道<trail>」から派生した意味で、「小道」⇒「小道を行き来する」⇒「毎日の仕事」⇒「商売」となったという説もある。この際覚えやすい方でいいだろう。）/ trader（「貿易業者・商人」）/ tractor（「トラクター」・引っ張る方のやつだ。耕す方ではない。）/ track（「小道」・重い物をひきずってできるのは「小道」だ。陸上競技の「トラック」も同じ。一方車の truck「トラック」と読み間違えないこと。こちらはギリシャ語の「滑車」から来ている。この「トラック」は訛って「トロッコ」にもなった。ついでながら「ダンプ・カー<dumper / dumper truck>」のダンプは dump「どさっと降ろす」だ。「ダンピング<dumping>」と言えば「安値で大量に売り払う」こと。日本語では「不当廉（れん）売」という訳語が充てられている。「フーテンの寅さん」風に言えば「持ってけ泥棒！」とでもなろうか・・。無論「善意」から行うのではない。商売敵を潰すためだ。トラックなどで「不法投棄する」と言う意味もある。一方 damp は「湿った・湿気の多い」だから、ダンプ・カーとは関係ない。とにかくややこしい。）/ trail（「小道」・そういえば X-trail などという日産のオフロード・カーもあった。）/ trailer（「トレーラー」・こっちは引っ張る方ではなく、引っ張られる側らしい。「トレーラー・ハウス」などという。）/ trait（「特徴」・もともとは「筆づかい」から来ている。筆を引っ張る仕草はまさに draw だ。）/ train（「列車・訓練する」・確かに列車は後続車両を引っ張っているし、「トレーニング」もコーチが選手を引っ張りまわしている。）/ treat（「取り扱う・治療する」・また This is my treat 「これは俺のおごりだ」という表現もあれば「ごちそう・楽しみ」という意味もある。It's a real treat !「ホントにおいしかったよ！」などと使う。会話文などでよく出題される単語。相手をご馳走でひきつけて接待し、あっちこっちを引っ張りまわした・・というイメージだ。）/ treatment（「扱い・治療」・シャンプーの名前ではない。髪を治療しましょう・・の意味だ。）/ treaty（「条約」・食べ物・飲み物でひきつけて交渉したところから。「国際問題を取り扱う」でもいいが・・。）

w) withdraw（「撤退する・引き出す」・銀行の ATM でも「お引き出し」のところには withdrawal とある。今後銀行に行ったら注意して見て欲しい。因みに ATM は Automated Teller Machines の略。teller はここでは「出納（すいとう）係（お金の出し入れ係）」という意味だ。tell はもともと「お金を数える」の意味だった。それがやがて「出来事をひとつひとつ数え上げて説明する」⇒「話す・告げる」となった。その意味では原義に忠実な意味だと言える。また tell には know「知る・区別する」の意味もある。tell A from B「A と B を区別する」や There is no telling what will happen.「将来何が起こるかわからない」などで使われているのはご存知の通りだ。）

(19) ***trans*** [トゥラーンス] <羅> = beyond 「～を越えて」・最近話題になっている L.G.B.T.の T が transgender[トランスジェンダー]だ。「性を越えて・・」が原義だが、「心と体の性が一致しない人」を指す。最初にメディアに登場したのは確か武田鉄矢氏の「金八先生」だった。因みに L は「レズビアン」、G は「ゲイ」、B は「バイセクシャル」だ。

transa) transaction（「処理・業務」[トランザクション] see⇒***ago*** ）

transc) transcendent（「超越した」・see⇒***scando*** transcendent meditation は「超越瞑想」だ。see⇒***medico / scando*** 「オウム真理教」の麻原がこれを売り物にしていた。瞑想することで「空中浮揚」ができるというのだ。無論、「地下鉄サリン事件」前のことである。筆者のかつての友人もこれに入れ込んでいた。今から 30 年以上も前のことだ。「お前は空中浮揚をその目で見たのか？」との筆者の問いかけにその友人は、「これは人に見せちゃいけないんだ！」と言下に断じた。まことに堂々としたものであった。scend は climb の意味。ascend「上る」see⇒***scando / ad*** や descend「下る」から類推可能だ。see⇒***scando / de*** ）transcript（「写本」・s が重なってしまったが・・。see⇒***scribo*** ）

transf) transform（「変形する」・「トランス・フォーマー」などという映画もあった。CG を多用するあの種の映画は、個人的には余り好きではないが・・。see⇒***formo*** ）/ transfer（「輸送する」・see⇒***fero*** ）

transi-transl-transm-transp) transit（「通過」・***it*** = go だ。see⇒***eo*** ）/ transient（「はかない」・transit の形容詞形だ。ent = ***-ans*** see⇒***-ans/ eo*** ）/ translate（「翻訳する」・～late は ***latus*** から来ている。これは何と ***fero*** の「完了分詞（過去分詞）」だ。原型を残さず完全に姿を変えている。すさまじい活用だ。これに匹敵するのは英語では go - went くらいではなかろうか。「越えて運ばれたもの」というほどの意か？see⇒***fero / latus*** ）/ transmit（「伝達する」see⇒***mitto*** ）/ transparent（「透明な」see⇒***porto*** ）/ transport（「輸送する」see⇒***porto*** ）/ transplant（「移植する」see⇒***placeo*** ）/ transpire（「発散する」see⇒***spiro*** ）

その他) traffic（「交通」see⇒***facio*** ）/ tradition（「伝統」see⇒***do*** ）

(20) ***tri*** [トゥリ] <羅> = three「3」

a) attribute（「～のせいにする・おかげとする」・都市国家ローマの安泰は 3 部族のおかげ。①attribute A to B「A は B のおかげ」という形で使う。②ascribe A to B でもいいが、①は「良いこと」に、②は「良いこと」にも「悪いこと」にも用いる。 ①は「～に対し<at = ad>て捧げる<tribute>」②は「～に対し<as = ad>て書き送る<scribe>」の意。「～のおかげでひどい目に遭いましたよ・・」と書き送ること。要するに「チクる」わけだ。 see⇒***scribo / ad*** ）/ attribute（「属性・特徴」・attribute には名詞の意味もある。「属性」とは「その物がどんな性質に所属するか？」ということだ。早い話が「特徴」である。ラテン語・ギリシャ語に「属格」という曲用（格変化）の形があるが、これも「誰に所属しているか？」・「誰のものか？」ということで、「所有格（～の）」のことだ。動詞の attribute とのアクセントの違いに注意。「名前動後」の法則どおりだ。）/ attribution（「原因などを～に帰する（おかげだとする）こと」）

c) contribute（「寄付・貢献する」・con「みんなで」捧げ物をする。see⇒***cum*** ）/ contribution（「寄付・貢献」）

d) distribute（「配る」・寄付されたものを今度は分配だ。see⇒***dis*** ）/ distribution（「分配」）

tria-trib) triangle（「三角形」・角度が 3 つだ。）/ triathlon（「トライアスロン」・「トライする」のではない。「3 種競技」のことだ。意外や意外。始まったのは 1974 年のアメリカだそうな。athlon については see⇒***dia*** ）/ tribe（「部族」・古代ローマの 3 部族のこと。）/ tribal（「部族の」）/ tribute（「捧げ物・賛辞」・古代ローマの有力 3 部族にささげ物をしたことが起源だと言う。***tribus*** **[トゥリブス]**「部族」は tribe[トゥライブ]の語源となった。）/ tribune（古代ローマの「護民官」・Herald Tribune「ヘラルド・トリビューン（新聞の名前）の「ヘラルド」は「王の伝令」という意味らしい。）

tric) tricycle（「三輪車」[トライスィクル]・see⇒***kyklos*** 二輪車は無論 bicycle だ。bi = two / see⇒***bi / kyklos*** ）/ ***Triceratops***（「トリケラトプス」・恐竜の名。「3 つの角の顔」が原義。see⇒***sauros*** ）

trid-tril-trin-trip) trident（「トライデント（三つ又の矛）」・歯<den>が 3 つ<tri>付いてる。see⇒***dens*** ）/ trilingual（「三か国語ぺらぺらの・・」see⇒***monos / longus*** ）/ trilemma（「トリレンマ」see⇒***di*** ）/ trinity（「三位（さんみ）一体」・この用語の詳細な説明は see⇒***fero*** ）/ triple（「三倍・三重の」see⇒***plico*** ）

triu-triv) triumph（「大勝利」[トゥライアンフ]・勝どきを 3 度あげたといわれる。所謂「えい・えい・おー」だ。もっとも ***triambos*** ＝θ ρ ι α μ β ο ς**[トゥリアムボス]**「酒神・バッカスに捧げる行進で行われる讃美歌」に由来し、さらにそれ以前の語源は「不明」とする説もある。この triumph から trump[トランプ]「切り札」という単語が生まれた。日本語の「トランプ」もこれに由来するが、英和辞典にはこの意味では載っていない。トランプをしていて「これが切り札だ！」と叫んだのを聞いた日本人が「トランプだ！」と勘違いしたのだとする説が有力である。tank「戦車」と同じだ。第 1 次世界大戦で「戦車」が初めて登場するが、敵に発見された際、「これは何だ？」と聞かれた兵士がとっさに「タンク（水槽）です！」と誤魔化したことが嚆矢（こうし：始まり）だとされる。また「戦車」とともに「毒ガス」と「飛行機」が世界の戦史に登場したことも記憶しておくといい。毒ガスの使用は流石に中止されたが・・。さて英語で「トランプ」は cards（単数扱い）と言い、「トランプをする」は play cards と表現する。元アメリカ大統領の「ドナルド・トランプ」もこの「トランプ」だ。）/ triumphant（「大勝利の」[トゥライアンファントゥ] see⇒***-ans*** ）/ trivial（「ささいな」・三叉（さ）路での「立ち話」からきているらしい。「つまらない話」ということだ。）/ ***trivia***（「つまらないこと」から「豆知識」という意味が出た。「トリビアの泉」などと言う。）/ 最後に attribute / contribute / distribute のアクセントを確認しておこう。いずれも[イ]の上だ。アクセント頻出問題だ。しっかり声に出して発音しておいてほしい。

(21) ***trudo - trudere - trusi - trusus*** **[トゥルドー・トゥルーデレ・トゥルースィー・トゥルースス]<羅>** = push「ぐっと押す」

threat（「脅威」・発音は[スレット]。動詞は threaten[スレトゥン]。）/ intrude（「侵入<in>する」see⇒***in①*** ）/ intrusion（「押しつけ・侵入」）/ thrust（「ぐっと押し込む」・「スター・トレック」など、アメリカの SF 番組で「スラスター」などと聞いたことはないだろうか。宇宙船の推進装置のことだ。）

(22) ***tueor*** or ***tuor - tueri - tuitus sum*** or ***tutus sum*** **[トゥエオール or トゥオール・トゥエーリー・トゥイトゥススム・トゥートゥススム]<羅>** = watch「見る」

tutor（「家庭教師・チューター」・生徒の見張り番だ。）/ tuition（「授業」）/ tuition fee（「授業料」）/ intuition（「直観・洞察力」・中<in>を見通す力・・。see⇒***in①*** ）/ intuitive（「直観的な」）

(23) ***tumeo - tumere - tumui*** **[トゥメオー・トゥメーレ・トゥムイー]<羅>** = swell「膨れる」・tum が tun / tom/ ton にも変化した。また ***tuber - tuberis*** **[トゥーベル・トゥベリス]** = hump「こぶ」/ swelling「腫れ」という単語もある。

th) thumb（「親指」・th = t だ（グリムの法則）。「膨れた指」が原義。確かに他の指より太くて強い・・。発音は[サム]。b は「サイレント（黙字）」。因みに英語では人間の finger「指」は 8 本しかない。「親指」は finger にはカウントしないのだ。また足の指は toe[トウ]と言う。プロレスで「トウ・キック」という蹴りがある。「つま先蹴り」で反則とされる。劇画中の「タイガー・マスク」がこれを得意とした。マシンガン・キックと呼ばれ、一秒に 4 発も蹴りまくるのだ。バレリーナの履く「トウ・シューズ」もこれだ。人差し指は forefinger / index / index finger / first finger となる。index は「索引」の意味もある。中指は middle finger / second finger。薬指は third finger / ring finger。ring というのは「指輪」をはめるからだ。小指は little finger / fourth finger と言う。また thumbing[サミング]とくれば「目潰し」だ。格闘技に詳しい人であればまず思い浮かぶ派生語だ。ボクシングなどのグローブは、親指だけは別になっているので、そこを使って相手の目を狙うわけだ。「ジェラルド・ゴルドー」というオランダの総合格闘技の選手がこれを得意技（？）とした。無論「反則」である。また I am all thumbs.「本当に不器用だ」という表現も必須。親指は思う通りに動かないからだ。I'm all ears.「しっかり聞いてますよー。」/ I'm all eyes.「しっかり見てますよー。」という言い回しも同じように使える。）/ thigh（「太もも」・発音は[サイ]だ。）/ thick（「厚い」）

tom-ton) tomato（「トマト」[トゥメイトウ]・真っ赤に膨れている。）/ tomb（「墓」・古墳は盛り上がっている。発音は[トゥーム]で b はサイレント。Tomb Raider[トゥーム・レイダー]という「アンジェリーナ・ジョリー」主演の映画があった。「墓荒らし」という意味だ。raid は「襲撃する」である。air raid で「空爆」だ。筆者は彼女の大ファンである。是非見て欲しい。）/ ton（「トン・重さの単位」・もとは太った「樽<tun>」を意味した。樽で重さを量ったからだ。因みに両者ともスペルは違うが発音はまったく同じ[タン]である。）

tub-tum-tun) tuberculosis（「結核」・発音は[タバキュロウスィス]だ。結核になると、細菌により肺に結節（盛り上がり）が形成されることによる。）/ tuberculin（「ツベルクリン」・「ツベルクリン反応検査」というのを小学校のころ受けた記憶がある。「赤く腫れあがる」やつだ。もっともこの名称は「結核結節」から来ているので、検査の際の「赤い盛り上がり」云々（うんぬん）は関係ない。）/ tumor（「腫瘍」[ト

ゥーマー]) / tunnel（「トンネル」・盛り土の内部をくりぬいた。発音は[タヌゥ]に近い。）/ tuna（「まぐろ・まぐろの肉」・体が丸々としている。）

その他 autumn（「秋」・果物が大きく<au = ***augeo***>なり熟して膨れる<tum>季節。「秋」は fall とも言うが、こちらは「葉っぱが落ちる」からだ。see⇒***augeo*** ）/ megaton（「メガトン」see⇒***magnus*** ）/ trifle（「つまらない」[トライフル]・もともと「小さなきのこ」を指した。どうしてそれが「膨らむ」と繋がるかといえば、「地面の中で徐々に大きくなるから」ということらしい。また小さなケーキのデザートも指すようだ。形が全く原形をとどめていないが、調べてみるとやはりフランス語を経由していた。）/ turmoil（「混乱・騒動」・群集が集まって膨れる。）

U

(1) ultra [***ウルトゥラー***]***<羅>*** = super「～を超えて」・ご存知「ウルトラマン」の「ウルトラ」だ。***ultimus - ultima - ultimum*** [***ウルティムス・ウルティマ・ウルティムム***]= farthest「一番遠い」/ last「最後の」/ extreme「極端な」などという単語もある。

ultraviolet（「紫外線」・紫外線は紫色だと勘違いしている人がいる。読んで字の如く「紫の外（上）の色」のことで、無論肉眼では見えない。見えないから恐ろしい。因みに「赤外線」は infrared[インフラ・レッド]。infra「下」+red「赤」で、「赤」よりエネルギー・レベルが「下」の光だ。see⇒***infra*** infrastructure「産業基盤・インフラ」というときの infra だ。see⇒***struo / infra*** ）/ ultimate（「究極の」[アルティミットゥ]・「グレーシー柔術」の「アルテイメット大会」で一躍有名になった単語。馬乗りになって相手をぼこぼこにするやつだ。）

(2) unda - undae [***ウンダ・ウンダエ***]***<羅>*** =wave「波」

surround（「取り囲む」・波で上まで<sur>取り囲まれる・・の意。round「周りに」は無関係。詳しくは see⇒***sur / rota*** ）/ surroundings（「環境」see⇒***sur*** ）/ abound（「～に富む」see⇒***sur / ab*** ）/ abundant（「豊富な」・「水が波のようにたくさん放たれ<ab>た・・）が原義。see⇒***ab / -ans / sur*** ）/ abundance（「豊富さ」see⇒***sur*** ）/ redundant（「余分な・冗長な」・冗長な・・とは「長ったらしい・だらだらとした」という意味だ。「冗長な文章に飽き飽きした」などと使う。何度も<re>波が押し寄せてくるような・・が原義。see⇒***-ans / re*** ）

(3) unus - una - unum [***ウヌス・ウナ・ウヌム***]***<羅>*** = one「1」・***unus*** の「属格（所有格）」は ***uni*** となる。

union（「結合・同盟・団体・連邦」・イギリスに悪名高き Trade Union「トレード・ユニオン」というのがある。「労働組合」だ。組合を結成して経営者と交渉することは必要だが、それが「わがまま」になっても困る。彼らはしばしばストライキを起こし、そのたびにロンドン中の「チューブ<tube>（地下鉄）」が止まる。see⇒***sub*** 筆者は帰国する日に駅に行ったが、シャッターが閉じており肝を冷やしたことがある。すぐに「ダブル・デッカー<double decker>（二階建てのバス）」にスイッチして何とか間に合ったが、まったく冷や汗ものだ。）/ reunion（「同窓会」・文字通り再び<re>集まること。）/ unify（「統一する」・一つ<uni>に作る<fy>。see⇒***facio*** ）/ unity（「まとまり」）/ unification（「統一」）/ universe（「宇宙」・「回転<ver>してすべてが一か所<uni>に集まる所」が原義。see⇒***verto*** ）/ university（「大学」・「一つ<uni>方向に向きを変え<ver>て集まる」⇒「団体・組織」⇒「大学組織」となった。ヨーロッパの大学の歴史は古くは 13 世紀にまで遡るが、もともとはは封建領主の支配から独立した自治組織から出発したのだ。see⇒***verto*** ）/ universal（「宇宙の・普遍的な」・「普遍的」とは「いつでも、どこにでも、あてはまる」ということ。「普遍の真理」などと言う。難解であれば「不変の」でもいいが・・。see⇒***verto*** ）/ unite（「結びつける」）/ the United States（「アメリカ合衆国」）/ the United Nations（「国際連合」は意図的な誤訳。直訳すれば「連合国」となるはずである。第 2 次世界大戦で日本やドイツと戦った「連合国 5 か国（米・ソ・英・仏・中）」のことだ。それがそのまま「常任理事国」となって居座っている。従って日本やドイツが常任理事国になることなど、いくら金を積んでも間違ってもあり得ないのだ。戦前の「国際連盟」は the League of Nations となる。）/ the Soviet Union（「ソビエト連邦」）/ unit（「単位」）/ uniform（「制服」・形は一つ<uni>だ。see⇒***formo*** ）/ unanimous（「満場一致の」see⇒***anima / -osus*** ）

(4) urbs - urbis [***ウルプス・ウルビス***]***<羅>*** = city「都市」・古くは都市国家 Rome そのものを指した。また ***urbana - urbanus - urbanum*** [***ウルバーナ・ウルバーヌス・ウルバーヌム***] ***<羅>*** = of the city・「都市の～」で形容詞となる。bs はラテン語では**[ブス]**ではなく**[プス]**と読む。スペルと発音が一致しない、ラテン語にしては珍しい例だ。

urban（「都会の」・「アーバン・ライフを楽しむ・・」などというあの「アーバン」だ。また世界史で「ウルバヌス 2 世」というローマ教皇が登場する。「十字軍」を派遣した教皇である。「クレルモン公会議<1095>」で決定がなされ、1096 年に出発することになる。覚え方は「遠く<109>に行<5>くぞ、十字軍」と「遠く<109>に向<6>かうぞ、十字軍」だ。）/ urbanization（「都市化」see⇒***ismos*** ）/ suburb（「郊外」[サバーブ] see⇒***sub*** ）/ suburban（「郊外の」・sub + urban だから「都市の下」だ。日本で言えば「下町」とでもなるか？英語でも downtown と言う。「商業地区」という意味だ。）

(5) utilis - utilis - utile [***ウティリス・ウティリス・ウティレ***]***<羅>*** = useful「役立つ」または ***utor - uti - usus sum*** [***ウトール・・ウーティ・ウースス スム***] ***<羅>*** = use「利用する」。

utilize（「利用する」[ユーティライズ] see⇒***ismos*** ）/ utilization（「利用」）/ utility（「有用性」）/ utensil（「用具・器具」[ユーテンスィル]）/ usual（「通常の」・「いつも使う」から・・。）/ usually（「通常」）/ abuse（「乱用・虐待」・ab + use で「正しい使い方を離れて<ab>・・」の意。see⇒***ab*** ）/ child abuse（「児童虐待」）/ use（「使う・利用」・名詞の場合は[ユース]となり、濁らない。of use = useful という形でよく使われる。「of + 抽象名詞」で「形容詞」の役割を果たす。一方 with + 抽象名詞 = 副詞というのもある。with ease = easily「容易に」となる。with diligence = diligently「勤勉に」だ。）/ usage（「利用・用法」発音は[ユスィッジ]）

V

(1) vaco - vacare - vacavi - vacatum [ウァコー・ウァカーレ・ウァカーティー・ウァカートゥム] ***<羅>*** = to be empty「空っぽになる」また ***vacuus - vacua - vacuum*** [ウァクウス・ウァクア・ウァクウム] ***<羅>*** = empty「空っぽの」see⇒***volo***・ラテン語には w が存在しなかったことは既に述べた。代わりに v が w の音を表していたのだ。w はゲルマン語系だと考えていいだろう。英語に v と w が混在しているのはこのためだ。vac は van / voi などにも変化した。voi はスペルが変わりすぎていることからも類推できるように「フランス語経由」だ。

va 関係) vacation（「休暇」は何もすることがない。）/ vacuum（「真空」は空気がない。発音は[ヴァキューム]だ。また「水洗トイレ」の普及で姿を消したが、昔は「汲み取り式トイレ」がふつうだった。そこで「バキューム・カー」という車が来て各家庭を回り、汚物を吸い取っていってくれたのだ。しかし臭いがかなりきつかった。仕事する方もさぞや大変だったろう。vacuum cleaner といえば「電気掃除機」だ。）/ vacancy（「空き部屋」・ホテルで「部屋あいてますか？」は Have you any vacancies ?だ。）/ vacant（「空（から）の」see⇒***-ans*** ）/ vain（「無駄な・中身のない」・I tried to call him, but in vain.「彼に電話しようとしたが無駄だった（でなかった）。」などと使う。またどうでもいいことだが、call は「電話する」でも「相手と話すところまで含む」とする説もある。とすれば「電話したが、つながらなかった」というときは call は使えないことになる。まあ「重箱の隅」をつつけばキリがないが・・。）/ vast（「広大な・果てしない」）/ vastness（「広大さ」）/ vanish（「消える」）/ vanity（「虚栄心」）/ evacuate（「避難する・立ち退く」）/ evacuation（「避難・立ち退き」・何度も言うが e = ex「外へ」だ。避難すれば町は空っぽ。see⇒***ex*** ）/ devastate（「荒廃させる」de は「強調」・何もない<vac>状態にする・・だ。see⇒***de*** ）

wa 関係) wane（「衰える」・もともとは「月が欠ける」が原義。お月さんが中空になってゆくことだ。反対語は wax[ワックス]だが、こちらは ***augeo*** 「増大する」に由来するようだ。wag[ワッグ] ⇒ weg[ウェッグ] ⇒ aug[アウグ]となったようだ。あまりにスペルが変わりすぎて分からなくなっているが・・。また「ワックスがけする」の「ワックス」は、同じスペルだがゲルマン語系で「他人のそら似」。「蠟（ロウ）」という意味だ。「ロウソク」の「ロウ」である。see⇒***augeo*** ）/ want（「欠如」・欠けているから「欲しく」なることも既に述べた。）/ waste（「浪費する」・お金を使いすぎれば財布はからっぽ・・だ。nuclear waste とくれば「核廃棄物」。原発から出てくる「核のゴミ」だ。see⇒***fallo*** これを向こう一万年の間、我々は保管し管理し続けなくてはならない。たかだか「お湯を沸かす」ためだけに・・である。人類は歴史を重ねるとともに、どんどん愚かになってきているのかもしれない。無論「利権」が絡んでいるからやめられないのだ。尚 waste は waist「腰・ウエスト」と同音語。発音はともに[ウェィストゥ]）/ wasteful（「浪費的な・不経済な」）

vo 関係) avoid（「避ける」・a = ab「離れて」何もない状態にすること。またこの avoid という動詞は後ろに～ing「動名詞」しか取らない動詞だ。文法問題頻出だ。see⇒***ab*** ）/ avoidance（「回避・忌避」see⇒***-ans*** ）/ devoid （「欠けている」・「取り去って<de>空にする」が原義。see⇒***de*** ）/ void（「空の・何もない」・またこの単語には「契約無効」の意味もある。学生時代にホテルのバーでアルバイトをしていた際、この不可解な単語に出会った。伝票を書き損じた場合、大きな字で「Void」と書いておくのだ。後で悪用されないためであることは言うまでもない。一方天文学でもこの単語が登場する。「宇宙の大規模構造」というのをご存知だろうか。我々の銀河系は 1000 億個もの「恒星（太陽）」で構成されているが、このような「島宇宙（銀河）」が、さらに 1000 億個も宇宙には存在する。無論我々が観測できる範囲で・・だ。しかもこの夥しい数の島宇宙が、何と巨大な泡（バブル）状に並んでいるというのだ。そのバブルがこれまた無数に存在する。そしてこの泡の内部に当たる部分には、奇妙なことに島宇宙がまったく存在しない。この何もない空間を、天文学者たちは「ボイド」と呼んでいる。このような構造ができるためには気の遠くなるような時間が必要だとされ、「ビッグ・バン宇宙論」でいう 135 億年という宇宙の年齢（？）とも矛盾することから、「ビッグ・バンなどなかった！」と唱える学者も増えてきている。筆者もさまざまな状況証拠から、「ビッグ・バン理論」には懐疑的だ。しかし日本人はみんな同じ方向に泳ぐ「メダカ民族」なので、ビッグ・バン理論を否定すると袋叩きに遭う。）

その他) wide（「幅広い」・広くて閑散とした部屋を想像してみればいい。もっとも wide は「幅」だから、「部屋が広い」という意味では完全に「×」だ。面積に重点を置くなら broad[ブロードゥ]だ。名詞形は breadth[ブレドゥス]。「ブロード・ウェイ」の「ブロード」である。see⇒***bhrew*** しかし「部屋」ならば一番しっくりくるのはやはり spacious[スペイシャス]「ゆったりとした」だろうか。see⇒***-osus*** 無論 space「空間・宇宙」からの派生語である。この wide の使い方は、よく「正誤問題」で出題されるので覚えておくといい。）/ width（「幅」・発音は[ウィドゥス]。）

(2) vado - vadere - vasi [ウァードー・ウァーデレ・ウァスィー] ***<羅>*** ＝ go「行く」

Quo vades, domine ？（「主よ、どこへいらっしゃるのですか？」[クオ・ウァデス・ドミネ]・「クオ・ヴァディス」という映画にもなった有名な言葉だ。「ネロ帝」の迫害を逃れて単身ローマ脱出を図るペテロの前に、師・イエスが現れたときの場面だ。詳しくは ***theos*** = god を参照のこと。see⇒***theos*** ）/ pervade（「広まる・充満する」・***per***「いたるところ」 see⇒***per*** ）/ invade（「侵入する」・in「中に」・昔は宇宙人を「インベーダー」と呼んだ。敵と決まったわけでもないのに失礼な話だ。また「インベーダー・ゲーム」というのが 1970 年代末に一世を風靡した。財産をすべて失くした人もいたようだ。see⇒***in①*** ）/ invader（「侵入者」）/ invasion（「侵入・侵略」）/ evade（「逃れる・避ける」・e = ex / see⇒***ex*** ）

(3) vagor - vagari - vagatus sum [ウァゴール・ウァアガーリー・ウァガートゥスム] ***<羅>***= wander「放浪する」

vague（「曖昧な・漠然とした」[ヴェイグ]・あちこちさまよっている状態・・から。）/ vagueness（「曖昧さ」）/ vagabond（「バガボンド・放浪者」・漫画にもなった。主人公は「宮本武蔵」らしい。筆者は最初「天才バカボン」と間違えた。）/ extravagant（「途方もない」・もともとは「放蕩癖のある・金遣いの荒い」の意。どら息子は外<extra>を遊び歩き<vagor>金がなくなると「無心」の為に帰ってくる。see⇒***ex / -ans*** ）

/ extravagance（「浪費・贅沢」・これで思い出すのが聖書にある「放蕩息子の帰宅」だ。どら息子の弟が父親の財産を半分くれと言い出した。父親はまだ存命だ。父は何もいわずに彼に財産を渡す。その後故郷を後にしたこの弟はやがて全財産を使い果たし、ぼろぼろになって帰省する。「お父さん御免なさい。せめて使用人の一人としてでいいですからここで働かせてください・・」というわけだ。父は息子の帰宅を大歓迎。使用人として使うどころかすぐに祝宴の準備をさせる。おさまらないのは兄の方だ。毎日コツコツと、父親の命令に従って働き続けてきたからだ。「何でこんな奴を迎え入れるんだ！おやじ！」と怒る兄。しかし父親は言う。「道を過った息子が改心してくれたんだ。どうして嬉しくないことがあろうか？」と。さて受験生諸君はどう思われるだろうか。無論聖書はこの父の行為を肯定する。何故だろう。これは筆者からの宿題だ。いろいろな答があっていい。）/ stray（「（道に）迷う・迷った」・extravagant より。前後が落ちて stray となった。外<extra>を放浪<*vago* >すれば迷子になる。）/ astray（「迷った」・stray は「限定用法」つまり名詞の前に置いて後ろの名詞を修飾するが、astray は「叙述用法」。名詞にかからず「補語」として用いる。簡単な例文で説明する。stray dog「迷子の犬」などと言う。）

(4) valeo - valere - valui - valturus [ウァレオー・ウァレーレ・ウァルイー・ウァルトゥールス] <羅> = to be value / worth / strong「価値がある・強くある」・もともとは ***volo*** 「意志」に由来する。「意志が強い」ことは「価値ある」ことなのだ。

value（「価値」・「バリュー・セット」の「バリュー」だ。）/ valuable（「価値がある」）/ invaluable（「測り知れない<in>価値がある」・確かに in は「否定」だが、間違っても「価値がない」などと訳さないこと。「価値が測定ができない」の「ない」だ。see⇒***in②*** priceless も同じ理屈だ。see⇒***prehendo*** ）/ valueless（「価値がない」）/ evaluate（「評価する」・価値を見出す<ex>こと。）/ valid（「有効な」）/ validity（「有効性」）/ invalid（「無効の・病人」in は「否定」see⇒***in②*** ）/ equivalent（「等しい」・価値が等しい<equal>ところから。see⇒***aequalis*** ）/ prevail（「広まる」・価値あるものは必ず広まる。pre は「前に・先に」・力をもって人の前に立つ・・が原義。そうすればその人の考えは広まる。「先んずれば人を制す」と「史記」の「項羽本紀」にもある。「孫子の兵法」にも似たような言葉がみられる。see⇒***pre*** ）/ prevalent（「流布（るふ）した」see⇒***-ans*** ）/ prevalence（「流布」）/ avail（「利用する」・利用するということは、「その物に対して<ad>価値を与える」こと。発音は[アヴェイル]。[アバイル]などと読まないこと。see⇒***ad*** ）/ available（「利用できる」）/ ambivalence（「心の葛藤」・2 つ<ambi = both>の価値あるものの間で揺れ動くこと。see⇒***ambi*** ）/ Valentine（「バレンタイン（人名）」・初期キリスト教徒の間で人気だった名前。聖人である ***Valentinus*** 「聖ウァレンティーヌス」に由来する。心優しいローマの司祭で、病人や貧者を労り、贈り物などをしたとされる。棄教しなかったため、当時のローマ皇帝「クラウディウス帝」の命により絞首刑にされ「殉教」している。一方「セント・ヴァレンタイン・デーの虐殺<1929>」はシカゴで起こったギャング同士の抗争事件だ。有名な「アルカ・ポネ」が絡んだ事件である。）

(5) veheo - vehere - vexi - vectus [ウェヘオー・ウェヘーレ・ウェクスィー・ウェクトゥス] <羅> = carry「運ぶ」・voy (= ***via*** 「道」)と起源は同じ。何度も言うが v の発音は[ウェ]だから ve は[ウェー]となり、way[ウェイ]と変化した。veh / vi / vey / voy / way などにも変わる。see⇒***via***

v) vehicle（「車」・発音は[ヴィー(イ)クル]で h はサイレント（黙字）・今話題の EV 車は electric vehicle「電気自動車」だ。また space vehicle で「宇宙船」となる。see⇒***culum*** ）/ vein（「血管」・血液を運ぶ。）/ vector（「ベクトル・運び手」・数学では「ベクトル」。生物学では「ベクター」と呼ぶ。ベクターとは直訳すれば「運び屋」だが、「マラリア」で言えば「ハマダラ蚊」がそれにあたる。この蚊が「マラリア原虫」を人間の血液中に運ぶのだ。このマラリア原虫が赤血球を破壊し患者は高熱に苦しめられる。筆者もアフリカ大陸ではさんざん痛い目にあった。平清盛の熱病もこのマラリアが原因だったとされるし「竜馬は軽度のマラリア持ちであった・・」と司馬遼太郎著「竜馬がゆく」にもある。龍馬と同じ病気を患ったとは、いささか光栄な話ではある。）/ vehement（「激しい」[ヴィー(ア)メント]・このおかしな単語も時々目にする。ラテン語の ***vehemens - vehementis*** [ウェヘメーンス・ウェヘメンティス]「暴力・強烈な・力強い」に由来し、この系統の親戚。「激しく揺り動かすこと」が原義。）/ vehemently（「激しく」）

w) way（「道」）/ weigh（「重さがある」・これは「動詞」。発音は way と同じだ。）/ weight（「重さ」・発音は wait と同じ。泥道<way>で車<wagon/vehicle>がその重量<weight>で悪戦苦闘している様子が目に浮かぶ。） / wagon（「馬車」・「ワゴン車」の「ワゴン」。読み方はもろに[ウェ<way>ゴン]だ。またドイツの車メーカーで Volkswagen「フォルクス・ワーゲン」という会社がある。ポルシェなどを作っている会社だ。Volks は folk song「民謡」から「民族」だと類推できる。fork「フォーク」と読み違えないこと。直訳すれば「国民の馬車」だ。設立を命じたのはかの「アドルフ・ヒトラー」だという。V と W が上下に重なったマークには、諸君らも見覚えがあるはずだ。）

(6) velo - velare - velavi - velatus [ウェロー・ウェラーレ・ウェーラーウィー・ウェーラートゥス] <羅> = wrap・「包む」

develop（「発達・開発する」・ヴェールに隠されていたものを明らかにすること。de は反対語。see⇒***de*** discover「発見する」や discovery「発見」も「カバーをとる」see⇒***dis*** が原義だが、発想はこれと同じだ。ただし discover の「蓋を取る。明らかにする。」という意味は古語。今では uncover が使われる。因みに cover という単語だが、語源には 2 つの説がある。①***celo*** **[ケロー]**とする説。see⇒***celo*** もう一つは②***operio*** **[オペリオー]**とする説だ。いずれも「覆う・隠す」の意味がある。②の説では co（強調）+ ***operio*** = cover となったとする。正直どちらかよく分からない。面白いことに ***operio*** の反対語に ***aperio*** **[アペリオー]**というのがあり、これは open の意味だ。April「4 月」はこれに由来する。「花が開く」から、とも「一年の幕開け」だからとも言われる。もっとも cover ですでに日本語になっているのだから、こんなことは覚えなくてもいいのだが・・。）/ envelope（「封筒」・ヴェールの中<en = in>にしまうこと。see⇒***en*** ）/ reveal（「暴露する・明らかにする」・ヴェールを後ろ<re>へ・・だからヴェールを「剥ぐ」だ。see⇒***re*** ）/ revelation（「暴露」）/ veil（「ヴェール・かぶり布」・「神秘のヴェールに包まれた・・」などと表現する。）/ recover（「回復する」は残念ながら別語源だ。「再び<re>つかみ取る」で ***capio*** = catch の仲間。もっともこれを利用して覚えてもいいが・・。see⇒***capio*** ）/ recovery（「回復」）

(7)venio - venire - veni - ventum [ウェニオー・ウェニーレ・ウェーニー・ウェントゥム] <羅> = come「来る」

Veni, vidi, vici.（[ウェニー・ウィディー・ウィキー]「来た・見た・勝った」もカエサルのあまりにも有名な文句。このローマの将軍の破竹の進撃が目に浮かぶ。こういった「簡潔さ」がラテン語の命である。「見た<***vidi***>」と「勝った<***vici***>」については see⇒***video*** / ***vinco***。紀元前 47 年にポントス王「ファルナケス」を小アジア半島の「ゼラの戦い」で破ったカエサルが、ローマの「ガイウス・マティウス」に送った手紙である。

a) advent（「出現・襲来」・「～の方<ad>に来る<ven>」。大文字だと「イエス・キリストの再臨」となる。また映画「ガメラ VS レギオン」では副題が The Advent of Legion となっていた。文字通り「レギオン襲来」だ。see⇒***ad*** ）/ adventure（「冒険」・（「危険な物を）見に来る・・」が原義。venture はこの ad「方向へ」が欠落したもの。see⇒***ad*** ）/ avenue（「通り」・特にパリなどの大都市に見られる放射状の通りだ。中心には広場がある。人々は avenue を通って町の中心へ<a = ad>やって来るのだ。see⇒***ad*** / ニューヨークなどでは南北に伸びる通りも avenue と呼ぶらしいが・・。因みに東西の通りは street となる。straight の親戚の語だ。see⇒***stringo*** ）

c) convenient（「便利な」・「開いててよかったセブン・イレブン」ならぬ「みんな<con>来ている<ens>セブン・イレブン」だ。see⇒***-ans / cum*** ）/ convenience（「便利さ」）/ convention（「会議・因習・しきたり」・会議があるからみんな<con>来てね・・ということだ。また「会議」は、「しきたり」に縛られるもの。居眠りしているサラリーマンをよく見かけるが、ダメな会社ほど会議が多い。）/ conventional（「会議の・因習的な・在来の」）/ convene（「呼び集める」）

e-i-p-r-s) event（「出来事」・「(結果として)外に<e = ex>出て来るもの」の意。see⇒***ex*** outcome「結果」という単語とも符合する。）/ eventually（「結局」・event を参照のこと。）/ intervene（「介入する・割って入る」・文字通り inter「間に」割って入って来る・・だ。see⇒***inter*** ）/ intervention（「介入・仲裁」）/ invention（「発明」・頭の中<in>にひらめく（やって来る）もの。あるいは in = on だから come upon / hit on「（アイデアが）浮かぶ」と同じで、むしろこっちの方が覚えやすいか・・。see⇒***in①*** ）/ invent（「発明する」）/ prevent（「防止する」・防止するためには前<pre>もって来て、見ておく必要がある。「転ばぬ先の杖」だ。see⇒***pre*** ）/ prevention（「防止」）/ revenue（「歳入」・「再び<re>戻って来るもの」の意。金が欲しければまず使うことだ。「金は天下の回りもの」だ。某政党のように「ばらまき」はよくないが・・。see⇒***pendeo / re*** ）/ souvenir（「お土産」[ス一ベニアー] or [スーベ二アー]・心の底<sour = ***sub***>から何度も湧きあがって来るもの。つまり「思い出の品」だ。[スブ・ベニーレ]⇒[スーベニアー]となった。see⇒***sub*** ）

v) venture（「冒険」）

(8)verbum - verbi [ウェルブム・ウェルビー] <羅> = word「言葉」・verb と word はお気づきのとおり同語源だ。口を「ねじって<***verto***>」発音するからだ。see⇒***verto***

verb（「動詞」・「動詞 = 言葉」だ。動詞のない文は英語には存在しない（ギリシャ語にはあるが・・）。see⇒***verto / jacio*** また subject は「主人」ではなく「家来」であることも既に述べた。see⇒***sub / jacio*** ）/ verbal（「言葉の・口頭での」）/ adverb（「副詞」・「動詞<verb>に寄り添う<ad>もの・・」の意味だ。その名の通り、「副詞」は「形容詞」や「副詞」自身、「文」自体も修飾するが、基本的には「動詞」を修飾する。また adjective「形容詞」については see⇒***ad / jacio*** ）/ proverb（「格言」・みんなの前<pro>に出しても恥ずかしくないことばのこと。see⇒***pro*** ）

(9)veritas - veritatis [ウェーリタース・ウェーリターティス] <羅> = truth「真実」・***veritas***（「真理」・「日経ヴェリタス」・・こんな名前の新聞があった。もはや英語の社名ではインパクトがない・・ということだろう。

verify（「証明する」see⇒***facio*** ）/ verdict（「(陪審員の）評決」・「真実<ver>を言う<***dico***>」が原義。事件の真相を明らかにする試みだ。The Verdict という映画もかつてあった。主演は「ポール・ニューマン」だ。see⇒***dico*** ）

(10)verto - vertere - verti - versus [ウェルトー・ウェレテレ・ウェルティー・ウェルスス] <羅> = turn around / spin / reverse「回転」・「ねじる行為」・「行ったり来たり」の様子を連想すること。また～ward「～の方向へ」という単語をよく目にする。forward / backward / toward・・などだ。ゲルマン系の単語だが、さらに遡ればこの ***verto*** に行き着くのでこちらに入れた。「体をねじって～の方向を見る」から「注視する・警護する」の意味も出た。分かりやすいように最後に*-ward)* としてまとめた。ver は wer / wor / vor / war などに、さらに子音動詞の入れ替えが生じて war ⇒ wra / wor ⇒ wro などの変化も見られる。

a) advertise（「宣伝する」・「～の方向<ad>に注意を向ける」が原義。では「何に」向けるのか・・と言えば、「消費者」の注意を「商品に向ける」のだ。see⇒***ad*** ）/ advertisement（「宣伝」）/ adverse（「逆の」）/ anniversary（「記念日」は年<***annus***>一回ずつ回ってくるもの。see⇒***annus*** ）

c) convert（「変わる・改宗する」see⇒***cum*** ）/ conversion（「改宗」・「コンバート」は「変えること」。野球選手などが守備位置を（レフトからライトなどへ）変えることなどを指すが、宗教では「改宗」を意味する。ダマスコ街道でパウロが「復活したイエス」に会い、ユダヤ教からキリスト教に改宗したのもこの「コンバート」。完全に<con>変わることだ。「君子豹変す」とは言うものの、あまりの豹変ぶりに当初キリスト教徒たちは彼を信用しなかった・・。）/ controversy（「議論」・contro = ***contra***「反対」。お互いに敵対して論争すること。see⇒***contra*** ）/ controversial（「議論の余地のある」）/ converse①（「会話する」・意見が行ったり来たり・・だ。みんな<con>が集まって談笑する様子が目に浮かぶ。see⇒***cum*** この名詞形が conversation「会話」である。）/ converse②（「逆の」・「会話する」とはまた別の単語だが、語源は同じだ。「会話」するにはお互いに「逆方向」を向かなくてはならない。）

d-i-r-u) diversity（「多様性」・それぞれが別々<di = dis>の方向を向くこと。see⇒***dis*** ）/ diverse（「多様な」）/ biodiversity（「生物多様性」・

これも最近ノシてきた単語だ。see⇒***bios*** ）/ divorce（「離婚・離婚する」・di = dis は「分離」。関係がこじれて分かれる<dis>こと。see⇒***dis*** ）/ invert（「（上下を）逆にする」・see⇒***in②***「インバーター・エアコン・白熊くん」などという CM もあった。エアコン業界での「インバーター」と「コンバーター」は若干ややこしいので割愛した。）/ introvert（「内に向く・内向的な」see⇒***inter*** ）/ reverse（「逆・逆の・逆転させる」・今のように CD ができる前は、カセット・テープで音楽を聴いていた。所謂「ラジカセ」だ。これに「フル・オート・リバース」なる機能がついていた。テープを最後まで聞き終わると自動的に裏面が流れ始める。曲を聴きながら眠ってしまうと朝まで音楽が流れ続けることになる。see⇒***re*** ）/ reversible（「裏返し<re>ても使える」・ダウン・ジャケットなどに多い。）/ universe（「宇宙・全世界」・uni「一つ」になって回転するもの。所謂「銀河系」を想像すればいい。Across the Universe というビートルズの曲もあった。これもいい曲だ。see⇒***unus*** ）/ universal（「宇宙の・普遍的な」）/ university（「大学」see⇒***unus*** ）

v) versus（「～対～」・もろにラテン語の「完了分詞（過去分詞）」が残っている。「ピータ・アーツ VS アーネスト・ホースト・・」などと使う、あの VS[ヴァーサス]である。K-1 ファンなら耳にタコができるほど聞かされた単語だ。）/ vertex（「頂点・（天文学の）天頂」・もともとは「回転の軸」を意味した。軸の先（天頂）には北極星がある。北極星を中心に、すべての天体は反時計回りに回転している・・ように地上からは見える。）/ vertical（「垂直の」・回転軸は無論「垂直」だ。）/ vortex（「渦巻」）/ verb（「動詞」・もともとラテン語の ***verbum***「単語」の意味だが、さらに遡れば「口をよじって<***verto*** >話す」にたどり着く。***verbum*** とこちら、両方に載せた。see⇒***jacio / verbum*** ）/ verse（「韻文」・韻を踏むために途中でも改行する。行を反転させるから。畑をたがやしていると、端っこに来てくるりと反転してもどってゆく。この農業用語から派生した表現だ。一方「散文」は prose と言う。***prorsus*** **[プロルスス]**「まっすぐ・平らな」に由来する。「平易な表現」との意味だ。）

wa-wo-wr) war（「戦争」[ウォー]・兵士同士が向かい合うから。wear - wore - worn「着ている」の wore と同音。）/ warrant = guarantee（「保証する」・[ワ]⇒[グワ]⇒[ギャ]と転訛したから双子の単語だ。何か事が起こればいつでも振り向いてくれるのが保険会社だ。）/ word（「単語」・舌をねじって発音するから。）/ worth（「価値ある」・人は有難いものの方を向く。）/ worthy（「～に値する」・これも使い方に注意が必要。「物」を主語として S is worthy of being pp.という形を取る。「S は pp される価値がある。」という意味だ。）/ worthless（「価値がない」）/ worship（「崇拝する」・worth + ship から成る。ship は「状態」を表す。「価値」があるから「崇拝」するのだ。）/ wrong（「間違った」・間違うということはどこかでねじれ現象が起こっているのだ。衆参両院だけの話ではない。）/ wrath（「（神の）怒り」・読み方は[ラス]。イスラエルの歴史に Operation Wrath of God「オペレーション・ラス・オブ・ゴッド（神の怒り作戦）」というのがあった。1976 年の「ミュンヘン・オリンピック」でイスラエル代表がアラブ過激派に惨殺されるという悲惨な事件があった。イスラエルの諜報機関「モサド」はこの過激派を地の果てまで追い詰め、最後の一人に至るまで処刑したと言われる。）/ wreck（「難破する」・船が大波でねじれて大破する。・また事故った車を運ぶ「レッカー車」もこのレックだ。）

-ward 関係) award（「（賞を）授与する」・受賞者の方向に<a = ad>体を向けるから。see⇒***ad*** ）/ backward（「後方へ」）/ coward（「臆病者」[カウアドゥ]・***cauda - caudae*** **[カウダ・カウダエ]<羅>**で tail「しっぽ」の意。***coda*** **[コーダ]**とも言う。「しっぽを巻いて<ward>逃げる」から「臆病者」となった。）/ cowardice（「臆病」）/ forward（「前方へ」・前<for = fore>を見ること。）/ guard = ward（「守衛」・叫び声がしたら守衛さんはすぐに振り返って現場に直行しなくてはならない。[グア]⇒[ワ]と変化した。）/ guardian（「保護者」）/ guarantee（「保証する」・アクセントに注意。「出演料」という意味で「ギャラ」という表現を使うが、それがこの「ギャランティー」だ。ただし和製英語らしい。では英語では何と言うか？どうもそのものずばりの単語はないようだ。fee や charge などを使ってうまく表現しているらしい。）/ inward（「内側へ」）/ outward（「外側へ」）/ onward（「前方へ・これから先・今後」・forward と異なり、それまで進んでいた方向にそのまま継続して<on>進む・・というニュアンスだ。go on doing「～し続ける」の on だ。また「オンワード樫山」などというアパレル・メーカーもあった。）/ reward（「報いる」・相手の方を振り返ら<re>なくてはならない。see⇒***re*** ）/ toward（「～の方向へ」・体をその方向にねじるから。）/ regard（「①みなす・考える ②評価する・尊敬する ③注視する」・由来をはっきりさせるためにすべての意味を書いたが、覚えるのは①だけでいいだろう。***specio*** でも書いたが regard と guard は親戚の単語だ。「何度も<re>見る<gar = war>」が原義。regard A as B「A を B と見なす・考える」などと使う。 see⇒***specio / re*** ）/ disregard（「無視する」see⇒***dis*** ）/ regardless（「無頓着な・注意しない」・regardless of ～「～と無関係に」と使う。考え方は disregard と同じ。）/ steward（「（旅客機・客船などの）給仕・（大きな家の）執事」・通な方は、ward でこの単語をまず思い描いたはず。「豚小屋の番人」に由来する・・などと言われるが、これは誤解のようだ。それどころか「スチュアート家」といえば、押しも押されぬ「スコットランド王家」であり、「メアリー・スチュアート（メアリ 1 世）」や「ジェームズ・スチュアート（ジェームズ 1 世）」などが世界史で登場する。「ローリング・ストーンズ」の「ロッド・スチュアート」も「スチュアート」の苗字からわかるようにスコットランド人だ。）/ stewardess（「スチュワーデス・客室乗務員」・steward の女性形。愛称は「スッチー」。「スチュワーデス物語」というドラマもあった。最近では「男女差別だ！」として CA<cabin attendant>に統一された。もっともこれも、通じないことはないとはいえ和製英語で、正確には flight attendant / cabin crew と言うようだが・・・。see⇒***cavus*** ）/ ward（「病棟」・患者さんを見張るところ。）/ warrant（「保証する」）/ wizard（「（男の）魔法使い」・zard = ward「見張りの男」。see⇒***video*** ）

その他) avert / divert / diverge（「そらす」・違いが問われることは受験英語ではまずないと思うが一応書く。avert は「（目などを）そむける・（危険などを）避ける」。see⇒***ab*** divert は「（注意を）そらす・（進路などを）方向転換する」。diverge は「2 つ（あるいはそれ以上の数でもいいが・・）のものが、それぞれの方向へ分岐する」だ。di も a も「分離」を表す。see⇒***dis*** アルファベット順にばらしてしまうと比較しにくくなるので最後にまとめた。）

(11) vestis - vestis[ウェスティス・ウェスティス] <羅> = clothes「衣服」・いわゆる「ベスト」だ。昔はチョッキともいった。もともとはキリスト教の「聖職者の着衣」つまり「権威の象徴」だ。。

vest（「（権威・財産などを）授ける」）/ vested（「（権力などの所有権が）確立した」）/ invest（「投資する」・財産などをぶち込む<in>こと。see⇒***in①*** ）/ investment（「投資」）/ divest（「剥ぎ取る」 dis は「分離」。see⇒***dis*** ）

(12) via - viae [ウィア・ウィアエ] <羅> = way「道」・何度も言うが、w = v だ。way / voy / vey にも変わる。***veheo***「運ぶ」とも同根だ。see⇒***veheo***

via（「～経由で・・」・ラテン語そのままのスペルで生き延びている。もともとは「道」の意。昔は海外を旅していると通信手段は手紙しかなかった。表に大きく赤い文字で「Via Air！（航空便で）」と書いて投函した。でないと下手すると船便で送られて、手紙と本人の帰国とが同時になる・・という落語のような結果になってしまうからだ。see⇒***stringo*** ）/ convoy（「護送する・護送船団」・道を供に<con>すること。「旅は道連れ・・」だ。see⇒***cum*** ）/ convey（「運ぶ」・「ベルト・コンベア」の「コンベイ」だ。「一緒に運ぶ」の意。see⇒***cum*** ）/ conveyance（「輸送」see⇒***-ans*** ）/ obvious（「明瞭な」・「反対して<ob>道<via>の真ん中に居座る」が原義。居座られたら「目ざわり」だ。また ob = on との説もある。道の「上」にあれば当然目立つ。see⇒***ob / -osus*** ）/ previous（「前の・以前の」[プリーヴィアス]・直訳すれば「前の道」だ。「いつか来た道」⇒「以前の」となった。see⇒***pre / -osus*** ）/ previously（「以前は」）/ voyage（「旅」・特に昔は「船旅」を指した。発音は[ヴォイイッジ]となる。Voyager と大文字で書けば、アメリカの探査機・「ヴォイジャー」となる。映画・「スタート・レック（カーク船長とミスター・スポックのシリーズ）」では、このヴォイジャーが「ヴィジャー」という怪物生命体となり地球に襲来。人類をあわや絶滅の淵にまで追い詰める・・というストーリーだった。実際の「ヴォイジャー1 号」は筆者が大学に合格した 1977 年（昭和 52 年）に打ち上げられ、5 年ほど前に太陽系を完全に離脱。外宇宙への旅に向かった。原子力電池は今なお健在で、2025 年までは通信が可能だそうな。）

(13) vicus - vici [ウィークス・ウィーキー] <羅> = village「村」

village（「村・町」）/ villa（「別荘」see⇒***rex*** = king ）/ vicinity（「近所」）

(14) video - videre - vidi - visus [ウィデオー・ウィデーレ・ウィーディー・ウィスス] <羅>「見る」・vid / vit / vis / wid / wit / wis にも変わる。ギリシャ語の ido= ι ο δ ω「見る」も同根だ。vido = ido である。see⇒***ido*** また video には「分ける」という意味もある。「見分ける」、「分かる」と日本語でも言うではないか。ただし ***video*** の掲載単語数が余りに多くなるので、こちらは ***divido*** にまとめた。see⇒***divido*** 最後に ***Veni, vidi, vici.*** [ウェニー・ウィディー・ウィキー]という、「ユリウス・カエサル」の言葉も再度確認しておきたい。see⇒***venio***

a-d-e) avid（「熱心な」・熱意があれば～の方<a = ad>を注視するはず。see⇒***ad*** ）/ advice（「忠告」・相手の方<ad>を見て忠告・・だ。see⇒***ad*** また advise との発音・アクセントに注意。名詞が advice[アドヴァイス]で、動詞は advise[アドヴァイズ]と濁る。）/ disguise（「変装させる」・vise[ワイズ]が guise[ガイズ]になった。「見た目を変える（離れる<dis>）」こと。see⇒***dis*** ）/ envy（「妬（ねた）む」ことは他人の家の en = in「中を」覗き込むこと。「あの家、いいなー！」だ。see⇒***en*** ）/ envious（「嫉妬深い」・see⇒***-osus*** jealous が「羨ましい」で「あの人いいなー！」と肯定的なニュアンスであるのに対して、こちらは「あの野郎！引きずりおろしてやる！」といった感じだ。see⇒***zelos / -osus*** ）/ evidence（「証拠」は外に<e = ex>出てきて誰の目にも見えるもの。「エビデンスがない！」などと討論などで使う。see⇒***ex / -ans*** ）/ evident（「明らかな」）/ envisage（「心に描く」・「心の中に<en = in>描く」が原義。see⇒***en*** ）

i-l-o) invisible（「目に見えない<***in②*** >」・Invisible[インヴィジブル]「透明人間」という映画もあった。主演は「ケビン・ベーコン」だ。「他人の目を気にしなくてもよくなった人間がどんなに醜く変貌してゆくか・・」が描かれており興味深い。see⇒***in②*** ）/ interview（「インタヴュー・面接」・「お見合い」が原義。お互いに<inter>相手を見ること。会社側が新入社員との「相性」を見るわけだ。see⇒***inter*** ）/ likewise（「同様に」・見た<wis = vis>目が似て<like>いる・・が原義。）/ otherwise（「さもなければ・・」・直訳すれば「他の<other>知恵<wise>」だ。「他に知恵を働かせてもうまくいかないよ・・・」という文脈で使うことが多い。「早く起きないさい。さもないと遅刻するよ。」は「早く起きなさい。他にどんな知恵を働かせても遅刻は免れないよ。」ということだ。ゆえに otherwise には in other ways「他の方法で・・」の意味もある。otherwise が登場したついでに nonetheless[ナン・ザ・レス] / nevertheless[ネヴァー・ザ・レス]というへんてこな単語も説明しておこう。両方とも「しかし・それでもなお」という意味だが、見ての通り none + the + less / never + the + less から成り立っている。I love her, none the less for her faults.「欠点があるにも拘わらず、それでも彼女が好きだ。」という構文がある。解析すれば「～という理由<for>があったからといって、その分だけ<the>彼女を愛する気持ちが少なく<less>なることはない<none>」となる。この the は「冠詞（その）」の the ではない。「副詞」である。この the という単語の歴史もまこと「複雑怪奇」の一語に尽きる。この謎も「ギリシャ語」にまで遡ると解けるのだが、紙面の関係上割愛した。）

p) provide（「供給する・与える」・「前<pro>を見る」が原義。しっかり先を見ていないと供給できない。「ころばぬ先の杖」と日本語でも言う。。see⇒***pro*** ）/ provision（「供給・準備・備え・食料」）/ provident（「先見の明のある」）/ providence（「神の摂理・先見の明」see⇒***-ans*** ）/ prudent（「慎重な」・provident「前方を見る」の短縮形だ。）

r) review（「復習・評論・批評」・復習は再び<re>見る<view>ことが大切だ。see⇒***re*** ）/ revise（「復習する・改訂・校正する」・re<再び>見る<vise>こと。勉強の基本だ。また筆者は読書好きで蔵書はかれこれ 3000 冊を越えたが、どんな立派な本でも必ず「誤植」がある。だから revised editon「改訂版」として定期的に再版するのだ。昔は誤植を発見すると謝礼に「金一封」もらえたらしいが・・。see⇒***re*** ）/ revision（「復習・改訂」）

s) supervise（「監督する」・super「上」から見ること。）/ supervisor（「監督者・上司」see⇒***superus*** ）/ survey（「調査」[サーヴェイ]・

sur「上」から見渡すこと。また Mars Grobal Surveyor[マーズ・グローバル・サーベイヤー]という NASA（アメリカ航空宇宙局）の火星無人探査機もあった。see⇒***sur*** ）/ sun visor（「サン・ヴァイザー」・見ての通り「太陽<sun>を見る<vis>」だ。もともと visor とは、中世の騎士がかぶった「お面」を指したらしい。）

v-w) video（「ビデオ」・まんま・・だ。）/ vision（「視力・洞察力」）/ visual（「視覚の」・「ヴィジュアル系」というときの「ヴィジュアル」だ。）/ visualize（「想像する」see⇒***isomos*** ）/ visible（「目に見える」）/ visit（「訪問する・訪れる」・見に<vis>行く<it = go>こと。see⇒***eo*** ）/ visitor（「訪問者」・見に来る人・・の意。see⇒***tome*** ）/ view（「眺める・見解」）/ victim（「犠牲者」・「魔女」⇒「悪魔崇拝」⇒「犠牲を捧げる」となった。なぜ「魔女」が出てくるかは witch を参照。）/ victimize（「犠牲を捧げる」see⇒***ismos*** ）/ visa（「ヴィザ・査証」・入国許可の証明。パスポートに押されたスタンプを指す。***carta visa*** の省略だと言われる。直訳すれば「ちゃんと検査<vis>された証明書（カード）<card>」とでもなろうか。see⇒***eo*** ）/ vista（「光景・よい姿」）/ wit（「ウイット・機転」は状況がよく見えていなくてはいけない。何度も言うがラテン語の v は w の音だ。）/ wise（「賢い」）/ wisdom（「智恵」・dom = doom だから「見るべく運命づけられたもの」⇒「～であるもの」の意。see⇒***domus*** ）/ witch（「魔女」・物事がよく見える賢い女・・の意。年齢は関係ない。「ジャンヌ・ダルク」は 18 歳で魔女裁判にかけられ火刑に処せられたのだ。また最近「美魔女」なる女性がもてはやされているが、賢くなければ「魔女」とは呼ばない。）/ wicked（「邪悪な」・発音・アクセント頻出問題！[ウィキッド]だ。）/ wizard（「魔法使い」・賢い男<ward>・・の意。see⇒***verto*** ）/ witness（「証人」・目撃した人。）

(15) vigeo - vigere - vigui [ウィゲオー・ウィゲーレ・ウィグイー] <羅> = to thrive「栄える」/ to be vigorous「元気な」/ to flourish・「生き生きとしている」

vegetable（「野菜」）/ vegetation（「植物」）/ vegetarian（「ヴェジタリアン・菜食主義者」・尚これと似ているのが vegan[ヴィーガン]だ。「完全菜食主義者」と訳され、肉だけでなく卵や牛乳などの乳製品、ハチミツなどもタブーとされる。）/ vigor（「活力」）/ vigorous（「元気な」 see⇒***osus*** ）

(16) vinco - vincere - vici - victus [ウィンコ・ウィンケレ・ウィーキー・ウィクトゥス] <羅> = win「勝つ」・***Veni, vidi, vici. [ウェニー・ウィディー・ウィキー]***も再度確認。see⇒***venio***

invincible（「打ち勝つことができない<in>」・see⇒***in②*** Invincible Armada は「スペイン無敵艦隊」だ。Armada は ***arma***「武器」からきている。サッカースペイン代表の代名詞にもなった。もっとも決勝で筆者はオランダに勝ってもらいたかったのだが・・。タコがおかしな予言をするからだ。see⇒***arma*** ）/ convince（「確信させる・説得する」には、議論で相手に完全に<con>に「打ち勝つ」ことが必要だ。see⇒***cum*** ）/ convict（「有罪を証明する」・相手を「有罪にする」には、裁判で徹底して<con>「勝つ」ことだ。また「囚人」という意味もある。「ザ・コンビクト」という囚人服姿の覆面プロレスラーも劇画「タイガーマスク」にも登場する。実在のレスラーだ。see⇒***cum*** ）/ evict（「（法的手段で）立ち退かせる」・打ち負かして外<e = ex>に追い出すことだ。see⇒***ex*** ）/ province（「州・省・地方」・***provincia [プロウィンキア]*** は古代ローマ帝国の「属州」を意味した。「前に<pro>進んで征服<vinc>した土地」だ。「南仏プロバンスの休日」などと今では気取っているが、要するに「植民地でしたよ！」と言っているのだ。provincial が形容詞だ。）

(17) violo - violare - violavi - violatus [ウィオロー・ウィオラーレ・ウィオラーウィー・ウィオラートゥス] <羅> = harm by violence「乱暴する」

violate（「規則を破る」）/ violation（「違反」）/ violent（「乱暴な」）/ violence（「暴力」・「バイオレンス映画」の「バイオレンス」だ。see⇒***-ans*** ）

(18) vir - viri [ウィル・ウィリー] <羅> = man「男」

virtue（「美徳」）/ virtuous（「純粋・高潔な」・「男＝高潔」とは女性差別のように感じられるかもしれないが、れっきとしたラテン語である。see⇒***-osus*** ）/ virtual（「①実質的な ②仮の」・「男」⇒「力」⇒「実質的な権力」⇒「実質的な」となったのだが、①と②ではまるで意味が逆に思えるが、「実質的な」とは裏を返せば「厳密には違う」ということで、「仮の」ということになる。）/ virtually（「実質的に」・virtual reality「仮想現実」の「バーチャル」だ。）

(19) vivo - vivere - vixi - victum [ウィーウォー・ウィーウェレ・ウィークスィー・ウィクトゥム] <羅> = to be alive「生きている」/ to survive「生き残る」・また ***vita - vitae [ウィタ・ウィタエ]***で「生活・生命」となることは「森鴎外」の ***Vita Sexualis [ウィタ・セクスアリス]***のところで書いた。see⇒***mens***

vital（「生命の・重要な」・医学ドラマなどで、「ヴァイタル・チェック！！！」などと言う。「血圧・心拍・体温などをチェックしろ！」という意味だ。）/ survive（「生き残る」・sur「上に」浮かびあがること。see⇒***sur*** ）/ survival（「生存」・「サバイバル・ゲーム」の「サバイバル」だ。）/ revive（「生き返る」・再び<re>生きる・・・だ。）/ revival（「復活」・いわゆる「リバイバル」だ。see⇒***re*** ）/ vitality（「活力」）/ vitamin（「ビタミン」・発音は[ヴィタミン・ヴァイタミン]。どっちでもいい。ビタミンは「生きる」のに不可欠」だからだ。amine「アミン」は「アンモニア化合物」の意味だそうな。）/ vivid（「生き生きした」）/ また ***vita [ウィタ]<羅>*** = life だ。「森林太郎（鴎外）」の作品に「ウィ(ヰ)タ・セクスアリス<***Vita Sexualis*** >」というのがある。直訳すれば「性生活」となるが、別にエロ小説ではないようだ。/ viva（「素晴らしい・万歳」・「ビバ〇〇！！（〇〇素晴らしい！）」掛け声でよく使われる。元来はイタリア語・スペイン語・ポルトガル語のようだ。直訳すれば「生きろ！」となるそうな・・。）/ ***Vita Brevis Ars Longa***（「少年老いやすく、学成り難し」see⇒***brevis / arma / longus*** ）/ in vivo（「試験管内で・・」・詳しくは see⇒***domus*** ）

(20) volo - velle - volui [ウォロー・ウェッレ・ウォルイー] <羅> = want「望む」・また will / well も同語源。will の否定が won't となるのは vol not から来ている。willn't もかつては存在したがこれは滅びた（イングランド北部では現在でも使う人がいるらしいが・・）。無論ラテン語には w の文字はまだない。v = w だと思ってくれればいい。

won't (= will not) / volunteer ([ボライティア]は自らの意志で協力してくれる。アクセントにも注意。) / voluntary (「自発的な」) / involuntary (「思わずの・無意識の」・意志に反して<in>の意。see⇒***in②***) / benevolence (「善意」・see⇒***bene*** = good) / benevolent (「善意の」see⇒***-ans***) / malevolence (「悪意」・see⇒***malus*** = bad) / malevolent (「悪意のある」see⇒***-ans***) / bewilder (「当惑させる」・荒野<wilderness>にいる<be>と当惑する。see⇒***be***) / well (「健康な・よく・上手に」・「いいこと<well>を願う<will>」から来ている。悪いことを願う人間はいない。) / will (「意思・遺言」・「遺言」は死んだ人の意思だ。) / willing (「厭（いと）わない」・自分が進んでやりたいのではないが、どうしてもと仰るのなら・・という意味だ。) / wild (「野生・野性の」・野生なら自分の意思<will>どおりに生きられる。self-willed が語源らしい。その証拠に wilderness「荒野」の発音はもろに[ウィルダネス]だ。) / win (「勝つ」・勝負は精神力<will>が大切だ。) / wealth (「富」はいい<well>ものだ。e が ea になってはいるが、発音は[ウェル]だ。health - wealth と「良いものつながり」で脚韻を踏んだようだ。) / wealthy (「裕福な」) / welcome (「歓迎する」・文字通りよく<well>来た<come>・・だ。) / welfare (「幸福・福祉」・fare は「状態・成り行き」を表す。日本語でも「うまく行きますように。」とか「事がうまく運びますように」と言う。see⇒***fero***) / wish (「望む」) / 最後にここでも諺を一つ。かの「ユリウス・カエサル」の言葉とされるものを紹介しよう。***Libenter homines id quod volunt credunt.***だ。[***リベンテル・ホミネース・イドゥ・クオッドゥ・ウォルントゥ・クレドゥントゥ***]と読む。直訳すれば「人間というものは、自由に自分の望む物を見る。」となる。意訳すると「見たい物しか見ない。」だ。「ダイ・ハード」で有名な「ブルース・ウィリス」主演の映画「シックス・センス（第六感？）」で、霊が見える少年が何度も使っている台詞である。この中の ***volunt*** が（they）want で、「(彼らが）望む」の意味である。その他の単語を説明すると、***Libenter*** (=自由に) / ***homines*** (=humans) / ***id*** (=the thing) / ***quod*** (=which or that：関係代名詞) / ***credunt*** (= they believe) となる。都市国家・ローマも今や地中海世界に君臨する世界帝国（正確に言えばこの時点では「帝国」ではないが・・）となった。それまでの「共和制ローマ」では広大な版図を統治しかねる。これ以上の発展を望むならば「帝政」に切り替えるしかない。こう考えたカエサルであったが、時代の変化に背を向け元老院があくまで抵抗し、カエサルは結局この一派に暗殺される。そんな状況下でのカエサルの心境を表す言葉がこの「人間、見たいものしか見ない。」なのだ。欧米の映画や書物には、必ず「聖書」や「古典古代」のエピソードがあたかも時限爆弾の如くにちりばめられている。それを知らないと作品自体を楽しめないだけでなく、とんでもない赤っ恥をかくことになるから注意することだ。see⇒***volo / credo***

(21) volvo - volvere - voluvi - volutus [ウォルウォー・ウォルウェレ・ウォルウィー・ウォルートゥス] <羅>「回転する」・また「ボルボ」は車の名前にもなっている。意味は「私は回転する」だ。

revolve (「回転する」) / revolution (「革命・公転」・see⇒***re*** / ***rota*** 一方「自転」は rotation「ローテーション」だ。see⇒***rota*** 「革命」という語はもともと「中華思想」から来ており、「天の命令で支配者が代わり、再び<re>時代が回り始めること。」を意味した see⇒***re*** / ***rota*** 人類の歴史は螺旋階段のように進化してきた（?)。The French Revolution は「フランス革命」・The Industrial Revolution は「産業革命」となる。あるイギリスの帰国子女の話では、歴史の時間には「産業革命」と「ヘンリー8 世」しかやらなかったとか・・。ヘンリー8 世はかのヴァージン・クイーン「エリザベス 1 世」の父に当たり、離婚問題でローマ・カトリックと喧嘩して「英国国教会（アングリカン・チャーチ)」を設立した人物だ。) / revolutionary (「革命的な」) / involve (「含む・巻き込む・関係させる」・in は「中に」。be involved in ～「～に関与している」の形で頻繁に現れる。see⇒***in①***) / involvement (「関与」) / revolver (「リボルバー・回転式拳銃」・西部劇で出てくるやつだ。「バーン！」) / evolution (「進化」・回転しながら外へ<e = ex>広がってゆく・・の意。一つのものが環境に応じて多様性を増してゆくことだ。「進歩」とか「優れた」の意味はないし、「チャールズ・ダーウィン」本人もそんなことは言っていない。後継者たちが勝手に理論を発展させてしまったのだ。こういう事例は自然科学でも人文科学でもよくある。「ハッブルの法則」と「膨張宇宙論」の関係もそれに当たる。see⇒***ex***) / evolve (「進化する・発展する」) / volume (「①巻・巻物 ②容積・体積 ③音量」・「ボリューム満点」と言う時の「ボリューム」だ。もともとは羊皮紙の巻物を指した。それが多くなると「かさばる」から「容量・体積」となった。数学で「体積」*V*=○○と書くのがこの volume だ。また高校物理の「ボイル・シャルルの法則」の「気体の状態方程式」でも *V* が用いられているから「容積」でも使える。一方「表面積」は *S*=○○と書いたはず。これは surface area の s から来ている。surface については see⇒***sur / facio***) / revolt (「反乱を起こす」・「反対に<re>回転させる」が原義。see⇒***re***) / vault (「丸天井・天蓋（てんがい)」[ボールトゥ]・au に変わっているが[ヴォル]の音が残っている。さて「天蓋」と言ってもピンとこない人もいるだろう。大昔の人々は、大空がドーム状の屋根で覆われていると信じていた。これを天蓋と呼んだ。星々が「回転」するのもこの天蓋が動いているのだと考えたのだ。一方「天涯孤独」は字が異なる。こちらは「果て」の意だ。)

(22) voro - vorare - voravi - voratus [ウォロー・ウォラーレ・ウォラーウィー・ウォラートゥス] <羅> = eat greedily・「むさぼる」

carnivore (「肉食獣」・発音は[カーニボー]・「肉」が出たついてに付け加えておく。***carne [カルネ]*** = meat / flesh (fresh「新鮮な」ではない！！) だ。派生語として carnival「謝肉祭」・reincarnation「輪廻・再生」などがある。reincarnation については後述した。) / carnival (「謝肉祭」とはいっても別に肉に感謝するお祭りではない。4 月の「イースター（復活祭)」に先立つ期間の 40 日間をキリスト教では「四旬節」と呼び、肉を食するのを控える時期に当たる。故にその四旬節に先立ち、「もうじき肉が食えなくなるから腹いっぱい食っておこう・・」というのが「カーニバル」なのだ。***carne*** 「肉を」+ ***levare*** 「去る」に由来する言葉だ。) / carnation (「カーネーション（花)」・赤い色をしているからだが、これは「肉」が「赤」を連想させるからではなく、ルネサンス期の絵画に描かれた女性の「皮膚（肉？）の色」がピンク色

だったことに由来するらしい。筆者も長い間誤解していた。）/ devour（「むさぼる」・発音は[ディバウア]。なんだか Twenty-four の「ジャック・バウア」みたいだが・・。de は「強意」。see⇒***de*** ）/ omnivore（「雑食動物」・「すべて<omni>食べる」が原義。発音は[オムニボー] see⇒***omnis*** = all ）/ herbivore（「草食獣」[ハービボー]・herb「ハーブ（植物）」が隠れている。）/ incarnation（「受肉・生まれること」see⇒***in①*** ）/ 以下 ***carne***「肉」が出たついでに書く。「インカーネーション」は「受肉」つまり「肉体をもって生まれる」こと。in だから文字通り「魂が肉体の中<in>に入る」ことだ。「リ・インカーネーション<reincarnation>」となれば「再び<re>生まれる」だから「生まれ変わり」。つまり東洋で言う「輪廻転生（りんね・てんしょう）」となる。see⇒***re*** しかしキリスト教では生まれ変わりは一回のみ。「最後の審判」の時とされる。もっともこれも聖書の解釈ミスだと筆者は見る。「バプティズマのヨハネはエリアの生まれ変わりだ」とはっきり書いてあるからだ。「ヨハネ」という人物は、聖書にたくさん出てきて誰が誰だかわからなくなっているのだが、最も有名なのがこの「バプティズマのヨハネ」だ。イエスに「バプティズマ（洗礼）」を施したとされる人物で、妖女「サロメ」が彼の首を要求したことで、「ヘロデ王」は渋々ヨハネの首を切ることになる。「オスカー・ワイルド」の戯曲「サロメ」で一躍周知されることとなった。またヘロデ王は out-Herod Herod という表現を現代に残す。これは「ヘロデ王を越える<out>くらい残虐だ。」という、何と「動詞」である。しかも「活用」するのは前の Herod の方だ。つまり out-Herods Herod や out-Herroded Herod となる。「シェークスピア」が「ハムレット」の中で使った「造語」らしいが、何とも奇妙奇天烈な表現だ。それだけシェークスピアの影響力が偉大だということか。この単語の存在を教えて下さったのは、かつて翻訳学校に通っていたころ師事していた「別宮（べっく）貞徳」先生であったと記憶している。元・上智大学文学部教授であり、日本翻訳界の大御所でもあられる。90 歳を越えられた今でもご健在と聞く。うれしい限りだ。さてこの表現のもととなったのは、ヘロデ王の父でさらに残虐を極めたといわれる「ヘロデ大王」という人物だ。救世主誕生の話を「東方の三博士」から聞いたヘロデ大王は、国中の男子の赤子を殺すように命令する。そのため「ヨセフ・マリア」夫妻は幼子イエスを伴ってエジプトへの亡命を余儀なくされるのだ。「ヘロデ王」はこの残虐な「ヘロデ大王」と区別するため、「ヘロデ・アグリッパ」と呼ばれている。またイエス生誕の預言を聞いて「ベツレヘム」を訪れた「東方の三博士」だが、ラテン語では ***Magus*** **[マグス]**「博士」。三人で複数形になるから ***Magi*** **[マギー]**となる。お察しの通り、magician「魔術師」と同語源の単語である。英語では読み方のみが変わり[メイジャイ]となるのだ。ただし「三人いた」とは新約聖書のどこを読んでも書いてない。ただ「香油」・「没薬（もつやく）」・「黄金」の 3 つのプレゼントを携えてきたことから「3 人いたんだろう・・」ということになったものだ。「香油」は高貴な人物の体に塗る風習が古代ユダヤにあったことによる。強烈な太陽光線と乾燥から皮膚を守るためであろうと言われている。「メシア（救世主・英語では Messiah[メサイア]）」は「油注がれたる者」の意であることは「倫社」の時間に習ったはずだ。かつて「ディープ・インパクト」と「アルマゲドン」という 2 つのハリウッド映画が話題をさらったことがあった。いずれも「巨大隕石の衝突で人類が滅亡の危機にさらされる」という筋だ。後者は名優「ブルース・ウィリス」の主演で有名だが、筆者のお薦めは前者である。その「ディープ・インパクト」の中で、巨大隕石破壊のために打ち上げられる宇宙船の名が「メサイア」なのだ。一方「アルマゲドン」も聖書に登場する名前だ。今から 35 年ほど前、「幻魔大戦」という映画で初めて日本人はこの単語を知った。その際には「ハルマゲドン」と発音された。しかし映画「アルマゲドン」では[h]の音が欠落している。「一体どっちなんだ？」と日本人の多くが思ったはずだ。ギリシャ語では***Αρμαγεδων*** **[アルマゲドーン]**と書くが、***Α***にはよく見ると「気息記号（左巻きのコンマ）」が付いている。だから読み方は**[ア]**ではなく**[ハ]**なのだ。しかしやがてこの記号も重視されなくなった。もともと欧米人は[ハ]の発音が苦手なのだ。イタリア人、スペイン人、フランス人などのラテン系の連中は、いくら教えても[ハ]の音を発音できない。hat[ハット]が[アット]になってしまうのである。故に結論から言えば「ハルマゲドン」が正解である。ヘブライ語で「ハルメギド（メギドの丘）」の意味で、この世の終わりに至ってこの場所で正義と悪の最終戦争が起こる・・と「ヨハネ黙示録」に記されている。筆者は滞在時間の関係でそこまで足を延ばすことはできなかったが、イスラエルに実在する地名である。一方 ***Khristos*** **=** ***Χριστος***[クリストゥス]はこの「メシア」のギリシャ語訳で、「クリーム（ギリシャ語ではクレマ=***khrema*** **=** ***χρεμα***）」と同語源の単語である。「油（クリーム）塗られたる者」の意味だ。「没薬」は「麻薬」。何も幼子イエスを薬中（薬物中毒）にしようというのではない。十字架にかけられる死刑囚はこれを事前に飲まされた。何しろ五寸釘で手足を撃ち抜かれるのだ。そのままでは暴れて手がつけられない。そのための麻薬である。イエスは生誕した時点からその運命を予言されていたといえる。

(23) ***vox*** **-** ***vocis*** **[ウォークス・ウォーキス]** ***<羅>*** **=** voice「声」

voice（「声」）/ vocal（「声の」）/ provoke（「（相手を）刺激する」・早い話が「挑発的発言」だ。pro「前に」出て声を浴びせる・・の意。see⇒***pro*** ）/ provocative（「挑発的な」）/ evoke（「（人の感情などを）呼び起こす」・e = ex で「外に」。see⇒***ex*** ）/ evocation（「（感情などの）喚起・誘発」）/ advocate（「提唱する」・devil's advocate という表現がある。直訳すれば「悪魔の代弁者」。日本語では「天邪鬼（あまのじゃく）」と訳される。議論などを活発にするために、わざと多数派と異なる意見を提唱する人のことだ。「天邪鬼」とは仏教の伝来によって「鬼」とされてしまったが、もとは日本書記に登場する「天稚彦（あめのわかひこ）」という神様のこと。間違っても「てんのじゃき」などと読まないことだ。see⇒***ad*** ）/ vocabulary（「語彙（ごい）」・ある範囲で使われる「単語の集まり」を指す。「あの人は語彙が豊富だ。」などと使う。vocabulary building[ボキャビュラリー・ビルディング]「語彙の増強」を略して「ボキャ・ビル」と言ったりする。無論「ボディー・ビル」をパロったものだ。）/ vow（「誓い」は声を出してするもの。「選手宣誓」だ。発音は[バウ]だ。）/ vote（「投票」・「人々の投票結果」は神の声だ。）/ vowel（「母音」see⇒***sono*** ）/ vocation（「天職」・天から「声」がして「お前は○○になりなさい」というやつだ。旧約・新約聖書を通じて、このパターンはよく見られる。）/ vocational（「職業の」）/ devote（「捧げる」・神様に捧げ物をするときは大声で・・。de は「強意」。神様相手に腰がひけてはいけない。また be devoted to ～ing「～に専念する」も必須熟語。「自分自身を～することに捧げる」から。see⇒***de*** ）/ devotion（「献身・専念」）/ ***vox populi, vox dei***（「人民の声は天の声」「天声人語」・昔の朝日新聞の社説のタイトルだった。

[*ウォクス・ポプリ・ウォクス・デイー*]。英語では[ヴォクス・ポピュライ・ヴォクス・ディーアイ]という発音になる。これも余談になるが、かつて「ポポロ・スパゲティー」というのがあった。ポポロはイタリア語で「人民」の意。つまり「ポポロ・スパゲティー」は「人民のスパゲティー」という意味だ。また people 関係で思い出したついでに書いておく。「SPQR」というイニシャルが、ローマ市内などの公共物（例えばマンホールの蓋）などに刻まれているのを目にすることがある。***Senatus Populusque Romanus*** **[*セナートゥス・ポプルス・ク・ローマーヌス*]の**略で「元老院およびローマ市民」の意味だ。政治家が民衆の前で演説する際の出だしの「決まり文句」で、英語の Ladies and Gentlemen に当たる。***Senatus*** = Senate / ***Populus*** = people / ***Romanus*** = Roman だ。「ローマの市民」だから Romanus は Populus にかかっているのだが、間に ***que***（= and）が入っているのが一見奇妙に思えるかもしれない。これは ***que*** の特徴的な使い方による。英語では「A と B」は「A and B」だが、ラテン語では「A Bque」と、que が後ろに来るのだ。しかも前の単語と何と「合体」するのである。ラテン語を学び始めたときは本当に面食らった。したがって ***que*** は ***Senatus*** と ***Populus*** の間にあると思って訳さなくてはならない。***Senatus***=Senate については see⇒***senior***

(24)vulgatus - vulgata - vulgatum **[*ウルガートゥス・ウルガータ・ウルガートゥム*] <*羅*>** = popular「人気の」/ common「共通の・ありふれた」/ general「一般的な」/ well-known「よく知られた」・原義は「一般大衆に広まった」であり、もともと悪い意味はない。もっとも筆者の手元にある羅和辞典には、notorious「悪名高い」の意味も載っているが・・。

vulgar（「粗野な」・発音は[ヴァルガー]）/ ***Vulga Latina***（「民衆に広まったラテン語」・すなわち後のフランス語やスペイン語のご先祖様ことだ）/ ***Vulgata***（「ウルガータ」・「ラテン語の旧約・新約聖書」を指す。「旧約聖書（キリスト以前）」は原典が「ヘブライ語」で書かれており「ギリシャ語」⇒「ラテン語」へと訳された。また「新約聖書（キリスト以降）」は原典が「ギリシャ語」で、それが「ラテン語」に訳され現在に至る。この「ウルガータ」は「共通訳」の意で「ギリシャ語」から「ラテン語」に訳された。訳したのは「聖ヒエロニムス<***Hieronymus***>」で紀元 4 世紀のこととされる。「ヒエロス<***hieros*** = ι ε ρ ο ς>」は「聖なる」。「オニムス」は「オニュマ<***onyma*** = ο ν υ μ α>」で「名前」。つまり「ヒエロニムス」は「聖なる名」の意味だ。see⇒***nomen / archo*** 英語ではヒエロニムスは Jerome とつづり、発音は[ジェローム]。そう、K-1 ファイター「ジェロム・レ・バンナ」の「ジェローム」だ。サッカー解説者で一世を風靡した「ジローラモ」さんも、アパッチ族の英雄「ジェロニモ」も同じである。欧米人の名前はほとんど聖書由来である。）

W

ラテン語・ギリシャ語にはｗの文字は存在しなかった。中世になって ｕ を 2 つ重ねて作られたものである。だから読み方も「ダブル・ユー」⇒「ダブリュー」なのだ。ｗ の語源はすべて v / u にある故そちらを参照にしてほしい。

Z

(1)zelos **= ζ η λ ο ς[*ゼーロス*]**「嫉妬・羨望・張り合うこと」

zeal（「熱意」・新約聖書には「ゼイロータイ」という人々が登場する。「熱心党の人々」という意味だ。「信仰に熱心ならいいんじゃないの？」などと思ってはいけない。「熱心である」ということは「過激である」と言うことだ。いざとなったらテロも辞さない。イエスの弟子の中に「熱心党のシモン」なる人物が登場するが、シモンというのは非常にポピュラーな名前なので、「〇〇のシモン」といちいち付けなくてはならないのだ。因みにイエスの兄弟は男だけで 4 人おり、その一人も「シモン」と言ったようだ。形容詞は zealous[ゼロス]「熱心な・熱狂的な」となる。see⇒***-osus*** また zealot[ゼロット]は「狂信者・過激派」の意味だ。ここまで来れば勘のいい方は jealous（「嫉妬深い」を想起されるはず。まさにご明察。see⇒***-osus*** 無論 jealousy（「嫉妬・ジェラシー」）も派生語だ。see⇒***video***

(2)zoion **= ζ ω ι ο ν[*ゾーイオン*]**「動物」

Zodiac（「黄道十二宮」・「しし座」だの「さそり座」だのという、アレである。確かに人（神？）も含めて 12 の「動物」で構成されている。「天秤座と水瓶座は動物じゃないぞ！」という声が上がりそうだが、「天秤座」は善悪を測る女神「アストライア」が手に持つ天秤のことで、「水瓶座」は「トロイア」の王子「ガニメデ」の抱える瓶を指す。いずれも持っているのは「人間（神）」なのだ。ガニメデは絶世の美少年で、そのため大神「ゼウス」の寵愛を受け、給仕に任命されたという。だから水瓶をかかえているのだ。といっても中身は「お酒（ネクター）<nectar>」だ。しかも「不老不死」となる効能を持つ。nec は nex「死」だから「死に打ち勝つ効能」の意味だ。see⇒***nox*** 昔「ネクター」というジュースがあった。英語では「神酒」の他、「果汁」の意味となる。see⇒***libra*** ）/ zoology（「動物学」see⇒***logos*** ）/ zoo（「動物園」see⇒***libra*** ）/ zoological garden（「動物園」・略して zoo となった。see⇒***libra*** ）

◆最後に・・・

「語源から覚える受験英単語」という着想に至ったのは、かれこれ 12 年も前のことだ。ある予備校で英語を教えていた筆者に、これまたある女生徒の父兄から「英検 1 級を取らせて欲しい」との要望があった（無論彼女は帰国子女である)。「困ったことになった・・」と思った。彼女はニューヨークの生まれで育ったのはイギリス。バリバリの帰国子女だから中学生で準 1 級は取得していたが、1 級となると話は別である。無論リスニングや長文読解は問題ない。問題は「悪名高き（？）英検 1 級単語」である。当時すでに大学受験を担当して 20 年を経過していた筆者の目から見ても、難解きわまりない単語が並んでいる。ある帰国子女の英会話の先生に言わせると、「イギリスでは大学教授など、ごく一部の知識階級しか知らない高度な単語」というレベルだそうだ。日本で言えば「漢検」にでも当たるのだろうか・・。彼女が小学生ならまだマシであった。「すべて覚えろ！」で済む。小学生は記憶力のピークに当たっているからだ。しかし彼女はこの時すでに高 1 になろうとしていた。記憶力のピークは過ぎていた。さらに高校になれば他教科の難易度もぐっと上がる。英検にばかりかかわりあっている時間はないのだ。そこであるこれまた同僚のある英語の先生に「水を向けて」みた。仮にＳ先生としよう。先生はギリシャの大学を出られ、帰国されて就職先を探しておられる最中であった。「先生、英検 1 級を取られたそうですね。1 級単語をどう攻略されました？」・・と。「全然勉強なんてしてませんよ。僕、ギリシャにいたでしょ。英単語を見ればだいたいの予想はついてしまうんです。ハハハ・・！」Ｓ先生はこともなげに答えられた。「その手があったかー！！」という思いだった。英語はその語彙のほとんどを、ギリシャ・ローマから輸入している。「語源から類推する」という方法をとれば、彼女の負担を最小限度に抑えられるのだ。筆者はそのころラテン語・ギリシャ語を学び始めて 4 年ほど経っていた。学生時代は世界中を旅してまわったが、特に東地中海、すなわちギリシャ・ローマ・イスラエル・エジプトなどは熱心に歩き回ったものだ。この両言語も学びたいと思ったが、日々の仕事に追われて伸ばし伸ばしになっていた。一念発起して勉強を開始したのが 4 年前だったのだ。さっそくさまざまな言語学の先生の著書やら、「ランダムハウス大英和辞典」などをひっくり返す日々が始まった。無論ラテン語・ギリシャ語の勉強も並行して・・だ。すると出るわ出るわ・・。ルパン三世ではないが、まさに「お宝の山」である。数が多いだろうと予想はしていたが、まさかこれほどとは思っていなかった。これを 1 冊の冊子にまとめ、当時勤務していた予備校に頼んで印刷・製本してもらい、彼女に渡した。他の受験生たちにも配布したことは言うまでもない。彼女は非常に素直な性格で。真面目にこれを勉強したようだ。イギリスの学校ではフランス語を第 1 外国語として学んでいたらしく、「あ！このラテン語、フランス語と同じだ！」などと、小気味よい反応が返ってきたこともあった。幸い一発で英検 1 級を取得してくれ、筆者もご父兄に面目を施すことができた。あれから早いもので 12 年近い歳月が流れた。筆者の勉強はまだ続いており、この両言語の知識も当時とは比べ物にならないくらい豊富になっていた。そこで久しぶりにこの冊子を手に取ってみたが、誤植やらミスやらがかなり目に付いた。突貫工事であったので致し方ない面もあった。そこで改めてリニューアルし、完成させたのが本書である。当初の分量は 350 ページを超えた。しかしそれでは製版にお金がかかりすぎるということで面白い話は大幅削り、半分以下にまで圧縮したのが本書である。

◆参考文献

はじめてのラテン語	大西英文
Latin and English Dictionary	
ラテン語四週間	村松正俊
ギリシャ語四週間	古川晴風
Oxford Paperback Greek Dictionary	
語源でわかった英単語記憶術	山並陛一
羅和辞典　Lexicon Latino-Japonicum	by H・Tanaka
英語の語源辞典	梅田修
英語の語源物語	今里智晃
Progressive English Japanese Dictionary	小学館
ランダムハウス大英和辞典	小学館
新英和中辞典	研究社
ギリシャ語文法	シャルル・ギロー（有田潤・訳）
ギリシャ語辞典	古川晴風